真田宝物館特別企画展

松代藩の国絵図
城下絵図
町絵図





松代藩の国絵図・城下絵図・町絵図

ごあいさつ

松代藩真田家に伝来した真田家文書は、およそ七万点を超える日本有数の大名家文書群です。現在真田家文書は二つの文書群に分かれて伝来しています。一つは藩主真田家に大名道具とともに伝来し、真田宝物館に所蔵される文書群で、点数は約一万五千点。もう一つは、主に藩の民政に関する文書群として国文学研究資料館に所蔵されるもので、点数は五万五千点余。今回の特別企画展では、現存する真田家文書群の中の絵図資料にスポットを当てます。

江戸時代は、国絵図、城下絵図、町絵図、村絵図、裁許絵図といった手書きの絵図から、不特定多数の人びとを念頭に置いた木版刷りの商品としての名所図、街道図、案内図まで、多種多様な絵図が作られた時代です。前者の絵図の多くは支配層が支配のために作らせたもので、一般民衆への公開を目的とするものではありませんでした。後者は金銭さえ払えば、だれでも入手でき、庶民にも広く利用された絵図群といえます。

本展示では、信濃一国を描いた四メートルを越える大きな国絵図から、松代領内や城下町、各村絵図など、松代藩が支配のために作成した絵図資料を取り上げ、絵図が作られた背景や絵図の作者や利用方法など、だれが、いつ、なんのために、どのように、なにを描いたのか、絵図との対話を通して考えてみようとするものです。

展覧会の趣旨にご賛同いただき、貴重な所蔵品をご出品くださいました所蔵者の皆様をはじめ、ご協力いただいた関係機関の皆様に心より御礼申し上げます。

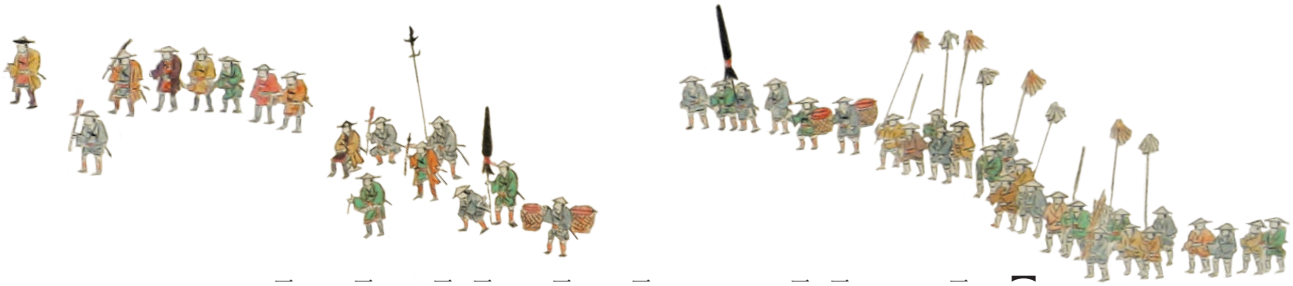
平成二十六年六月

松代文化施設等管理事務所



目　次

ごあいさつ……1
目次・凡例……2
図版
第一章―一　町絵図……3
第一章―二　村絵図……15
第二章　国絵図・領内絵図……29
第三章　城下絵図……41
第四章　資料編……55
掲載資料一覧……67
主要参考文献……69
謝　辞……70



【凡例】

一、本図録は平成二十六年六月十一日から九月八日までを会期とする真田宝物館特別企画展『松代藩の国絵図・城下絵図・町絵図』の展示解説図録である。

一、本図録の構成は、展示の順序と一致しない。

一、展示資料は会期中に以下のようなテーマに基づいて展示替えを行う。

第一期「町絵図・村絵図」　六月十一日～七月七日
第二期「国絵図・領内絵図」　七月九日～八月四日
第三期「城下絵図」　八月六日～九月八日

一、掲載資料の内、所蔵先が明記されていないものは、真田宝物館の所蔵である。

一、展示の企画は学芸員降幡浩樹が担当し、専門員山中さゆり、溝辺いずみ、小山万里、丸山恵美子、島田恵美の協力を得た。

一、資料解説は降幡浩樹が担当した。

一、図録写真は高久良一氏に撮影を依頼し、長野市教育委員会所蔵の原版や真田宝物館所蔵の原版を利用し、一部所蔵者からも提供を受けた。

一、写真の拡大・縮尺率は一定ではない。レイアウトの関係から必ずしも北を上にしていない。方位を入れたので参考にしてほしい。

一、史料の欠損、または判読不明な文字は、□□（字数分）で示した。





第一章 ― 町絵図

町絵図

城下町は城郭を中心に、武家地、町人地、寺社地などに町並みが区画され、身分によって各町にわかれて居住していた。領主はさまざまな身分の住民が暮らす城下町内での秩序維持をはかりながら現状を把握し、規則や施策を講じた。城下町の支配政策において、だれが、どこに住んでいるかを把握することは、もっとも基本的な情報であった。

松代城下の町人地は、北国街道脇往還（現在の国道四〇三号線）に沿って、西から東へ馬喰町・紙屋町・紺屋町、北へ折れて伊勢町・中町・荒神町と続き、その東裏通りに肴町・鍛冶町があり、「町八町」と呼ばれた。町人の身分階層は大屋・借屋・借地・役代と、ほかに加来・下人などの別があった。加来は大屋に従属し、下人は年季奉公人である。

町内の土地は家持とともに町によって管理され、町役人によって町間改帳が作成され、写しを町奉行に提出していた。新たな所有者には、貼紙が付され、現状が把握されていた。寛文十一年（一六七一）に八町が藩に提出した町間改帳には、各町の役儀が記されるとともに、屋敷地の所有者と、負うべき役儀、往還に面した表口と反対側の地尻の間数、隣家や用水などに接する両側の奥行間数が書かれている。各屋敷の役儀は、屋敷の間口間数に応じて本役のほか半役、四半役などがあった。寛文十一年の町八町全体の軒数は四〇五軒、人数はおよそ二、〇〇〇人とされる。安政七年（一八六〇）には二、八六五人と漸増した。

松代町の場合、町八町だけでは収容しきれない人びとは、武家の家中長屋や、寺社長屋、町周辺の村へと延びた町外町に居住した。藩では町外町を「い組」から「ふ組」の三二組に分けて管理していた。町八町が町年寄・検断・各町名主・長町人以下の自治組織で運営されているのに対し、役儀のかからない町外町は、藩役所の直接的な支配下に置かれた。

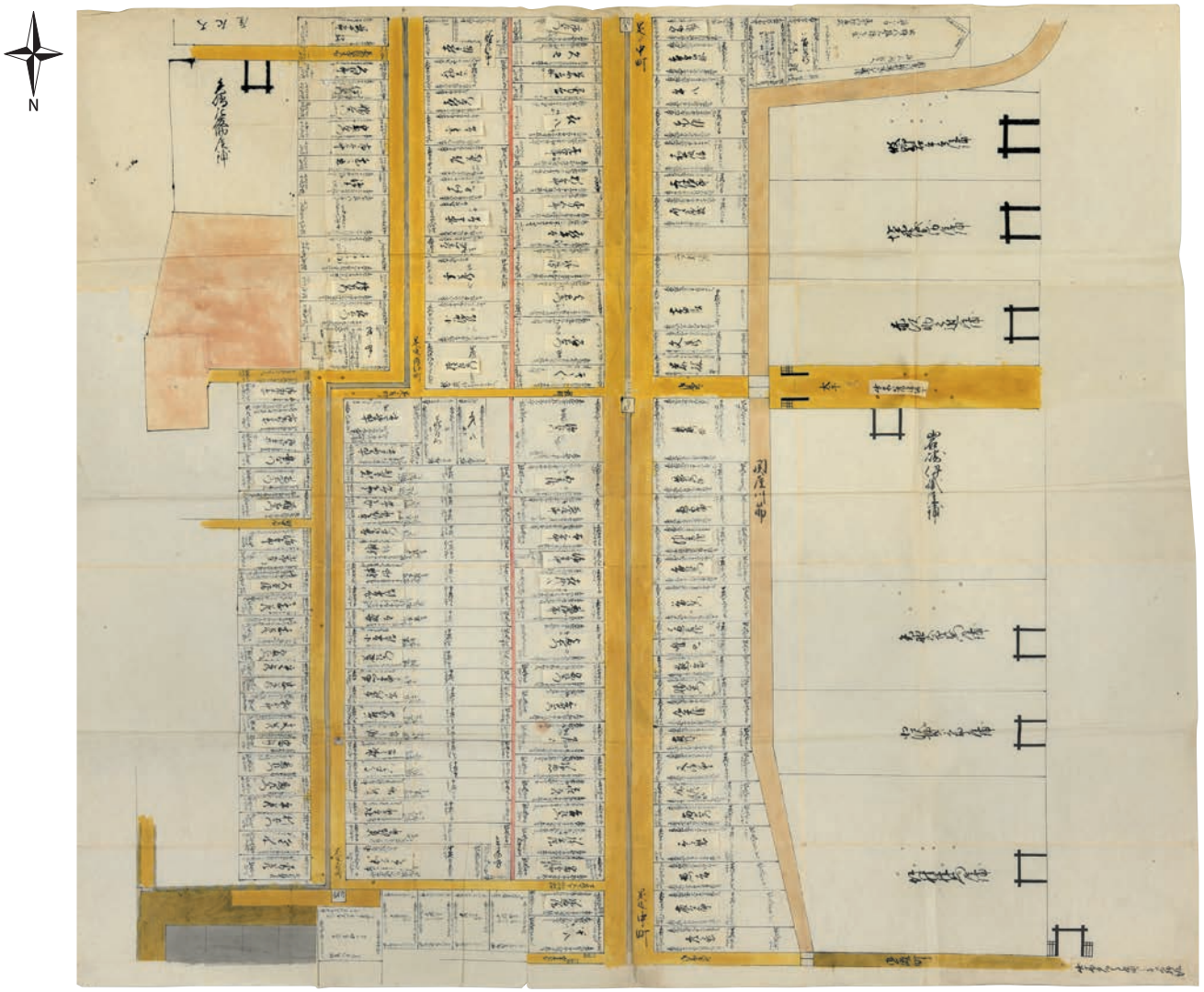
幕末の町外町の人口は約二、七〇〇人とされ、武家の約四、五〇〇人、町八町の約二、九〇〇人と合わせると、城下全体で一万人程度が居住していたと推定される。



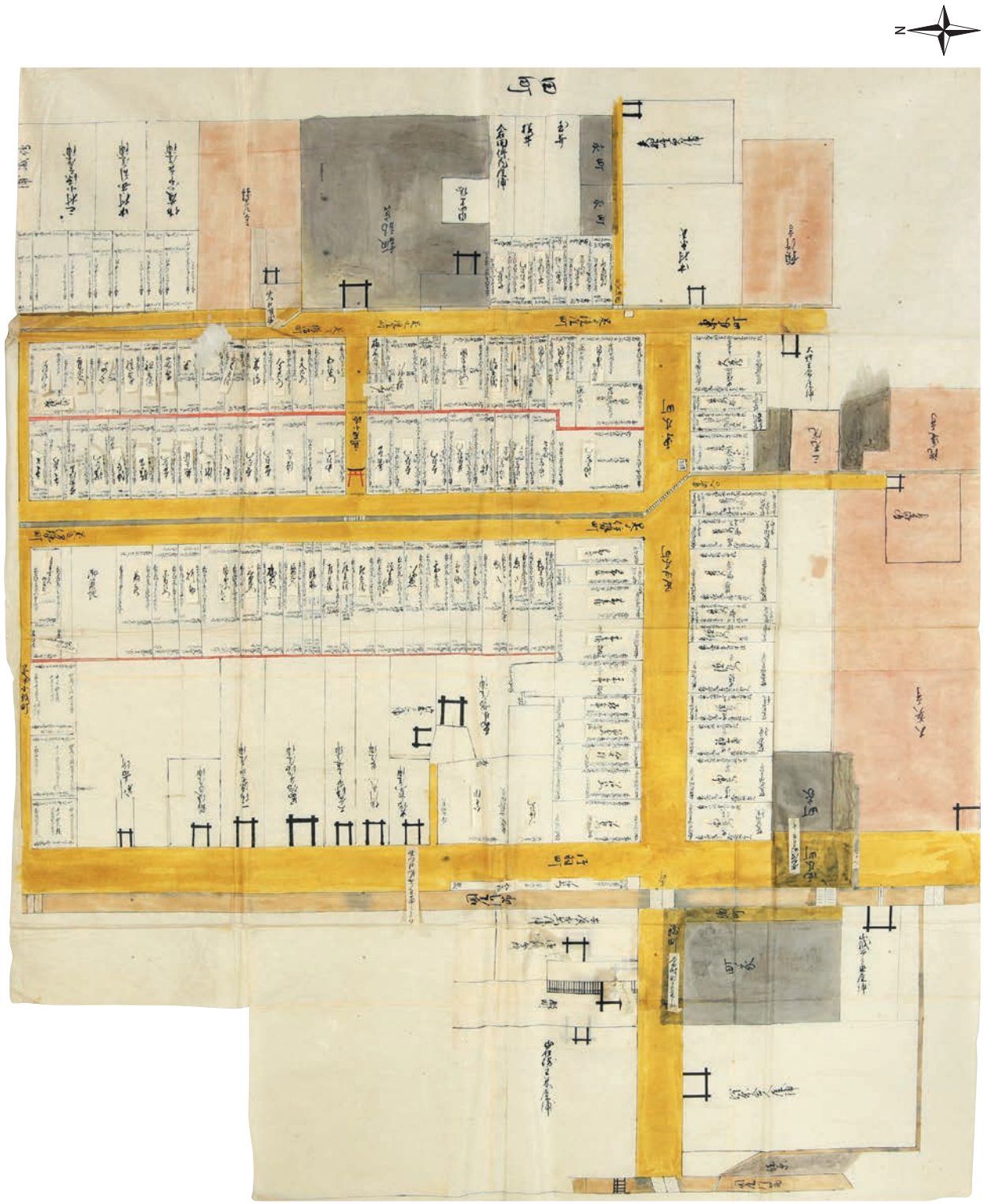
1　松代町並の図　五　荒神町　国文学研究資料館

城下の町屋敷を5枚の切絵図にした町割図。屋敷ごとに、表口、地尻、中横、左右の間数を記載し、所有者の名前を貼紙で更新している。松代藩に残る唯一の町屋敷の切絵図。

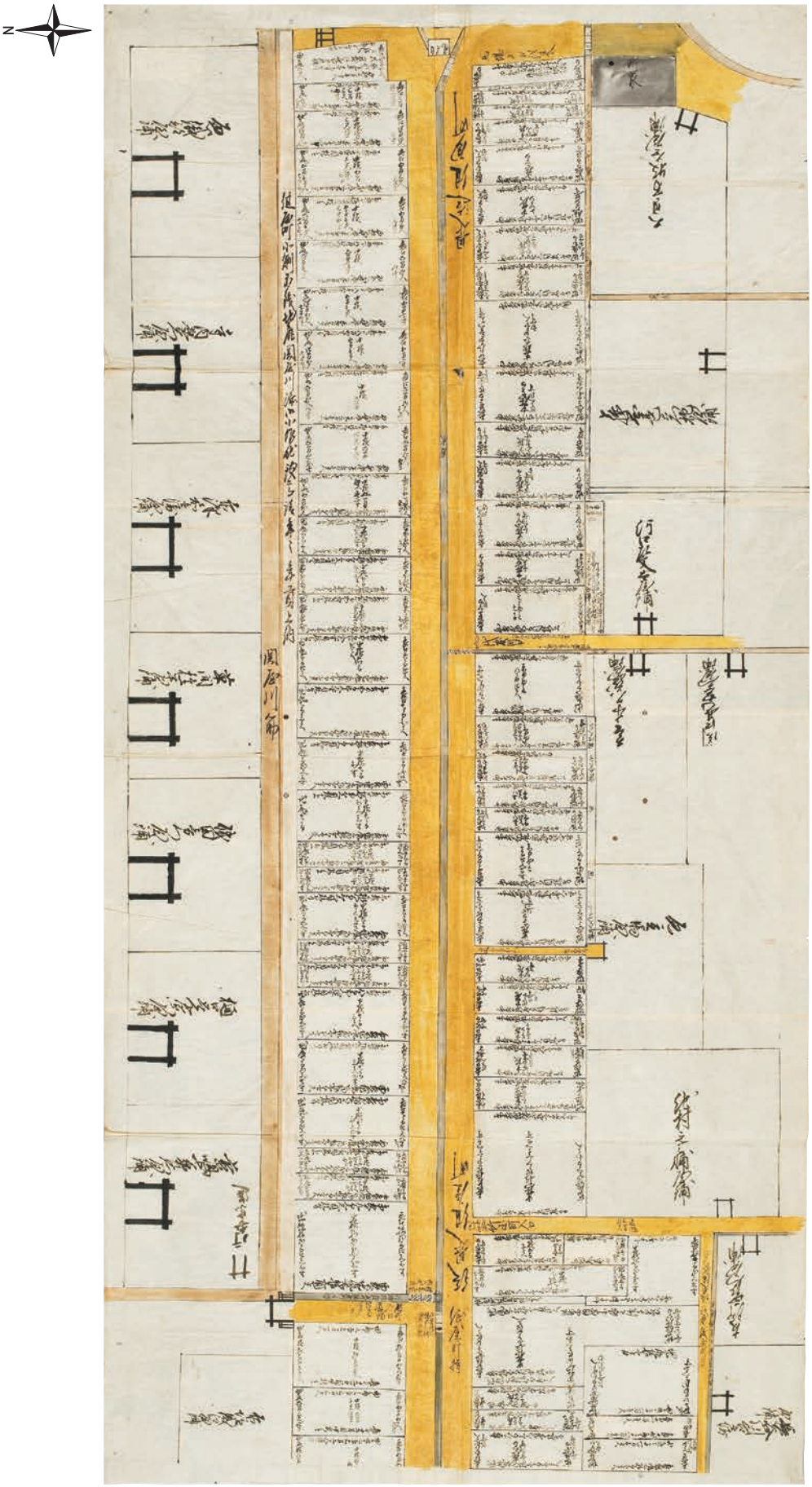




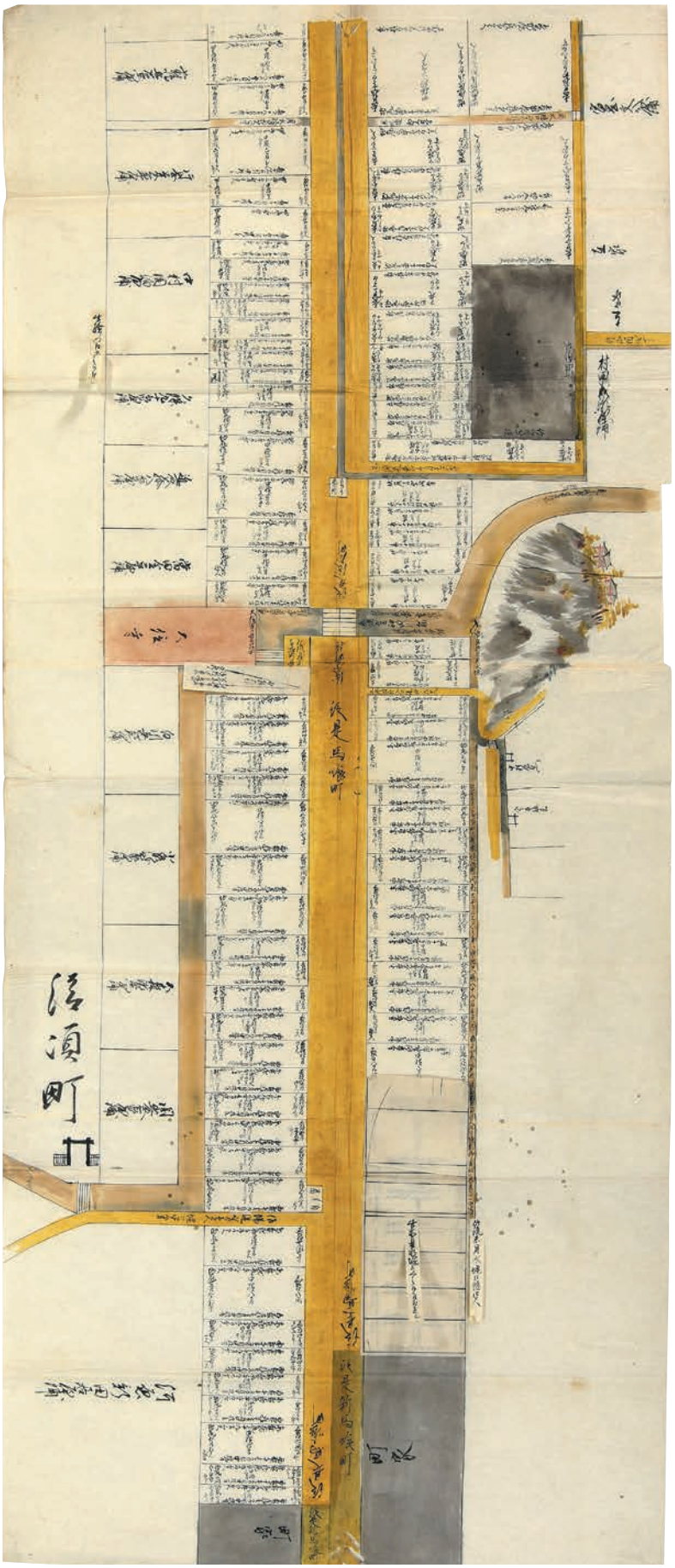
2　松代町並の図　四　中町・鍛冶町・肴町　国文学研究資料館



3　松代町並の図　三　木町・伊勢町・鏡屋町・鳥居小路・片羽町　国文学研究資料館



4　松代町並の図　二　紺屋町通　国文学研究資料館



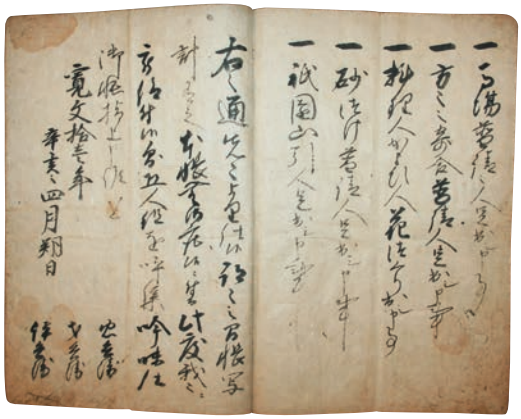
5　松代町並の図　壱　馬喰町・新同心丁　国文学研究資料館



6　紺屋町間帳　寛文11年4月



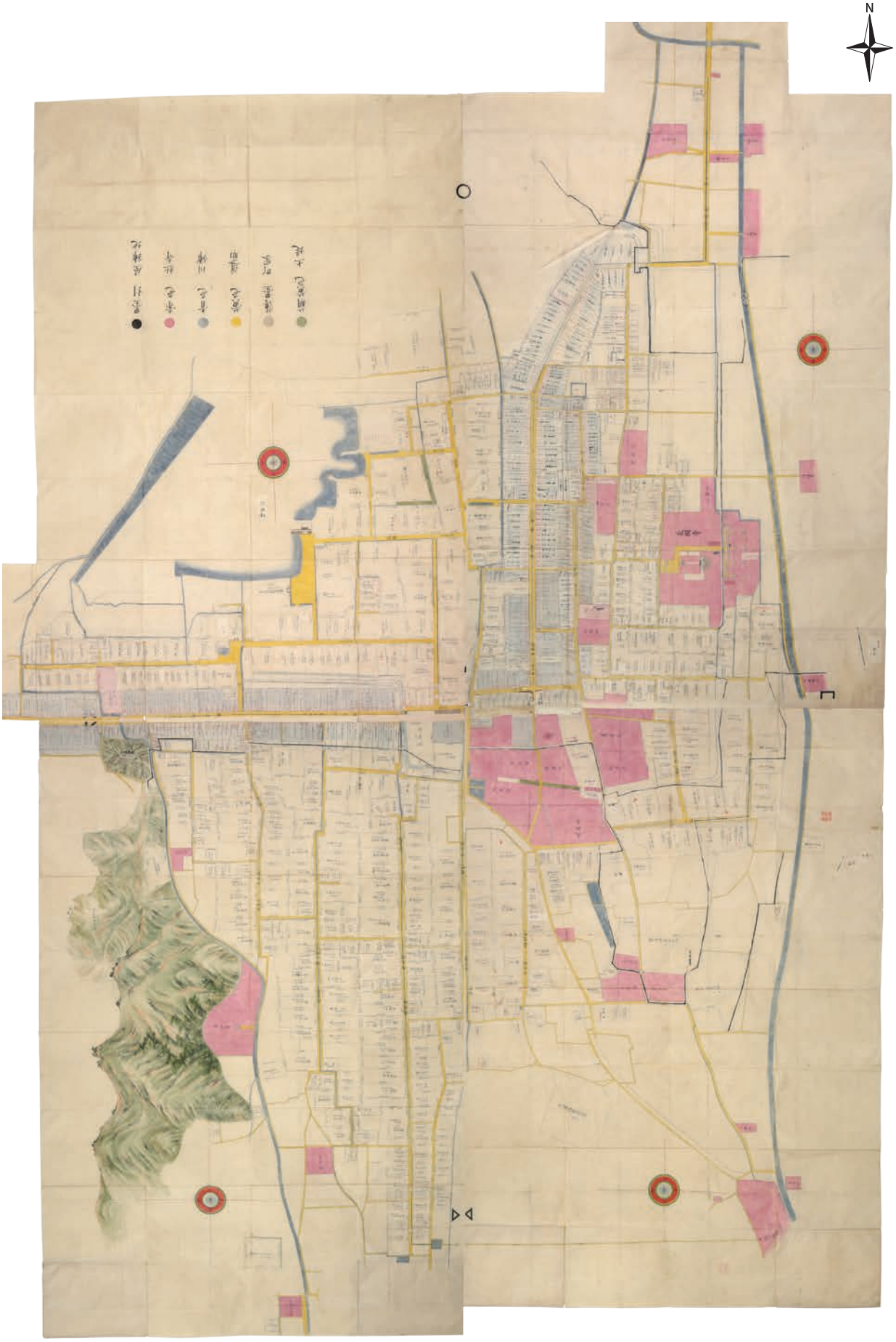
紺屋町間帳
6 寛文11年・ 7 享保13年・ 8 寛政4年・ 9 文化4年 ・ 10 文政13年



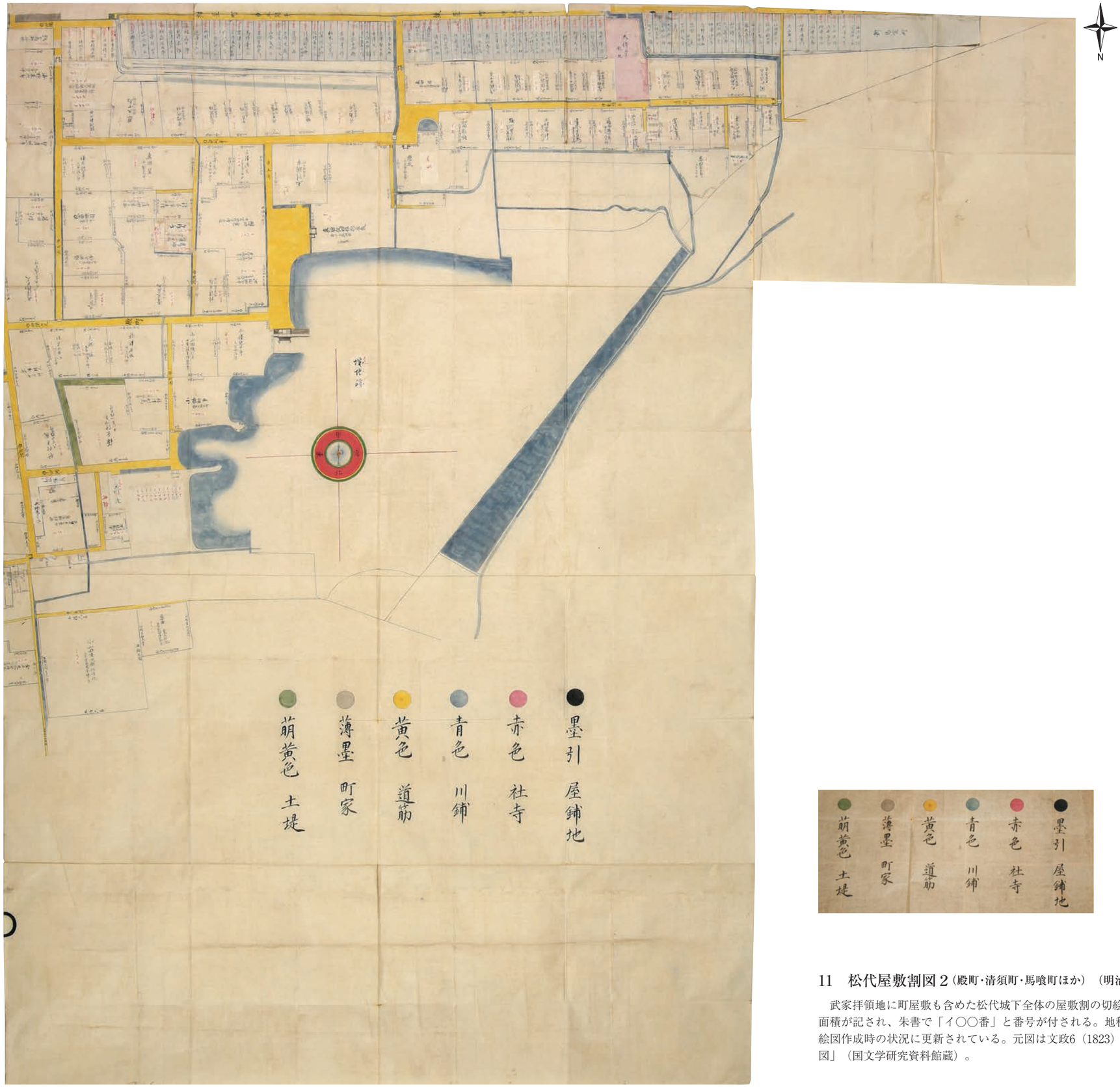
紺屋町間帳　寛文11年　奥書

紺屋町間帳　寛文11年(1671)･享保13年(1728)･寛政4年(1792)･文化4年(1807)･文政13年(1830)　長野県立歴史館

町の土地は町役人によって作られる「町間改帳」によって管理され、町奉行にも提出されていた。往還に面した間口、反対の地尻の間数、中横、両隣の間数が書かれ、屋敷の間口(まぐち)間数に応じて負担すべき役（本役、半役など）が記されている。帳面末にはその町が負う役儀（御城畳緑染め、御馬具一式染めなど）が記されている。村でいう検地帳にあたる。



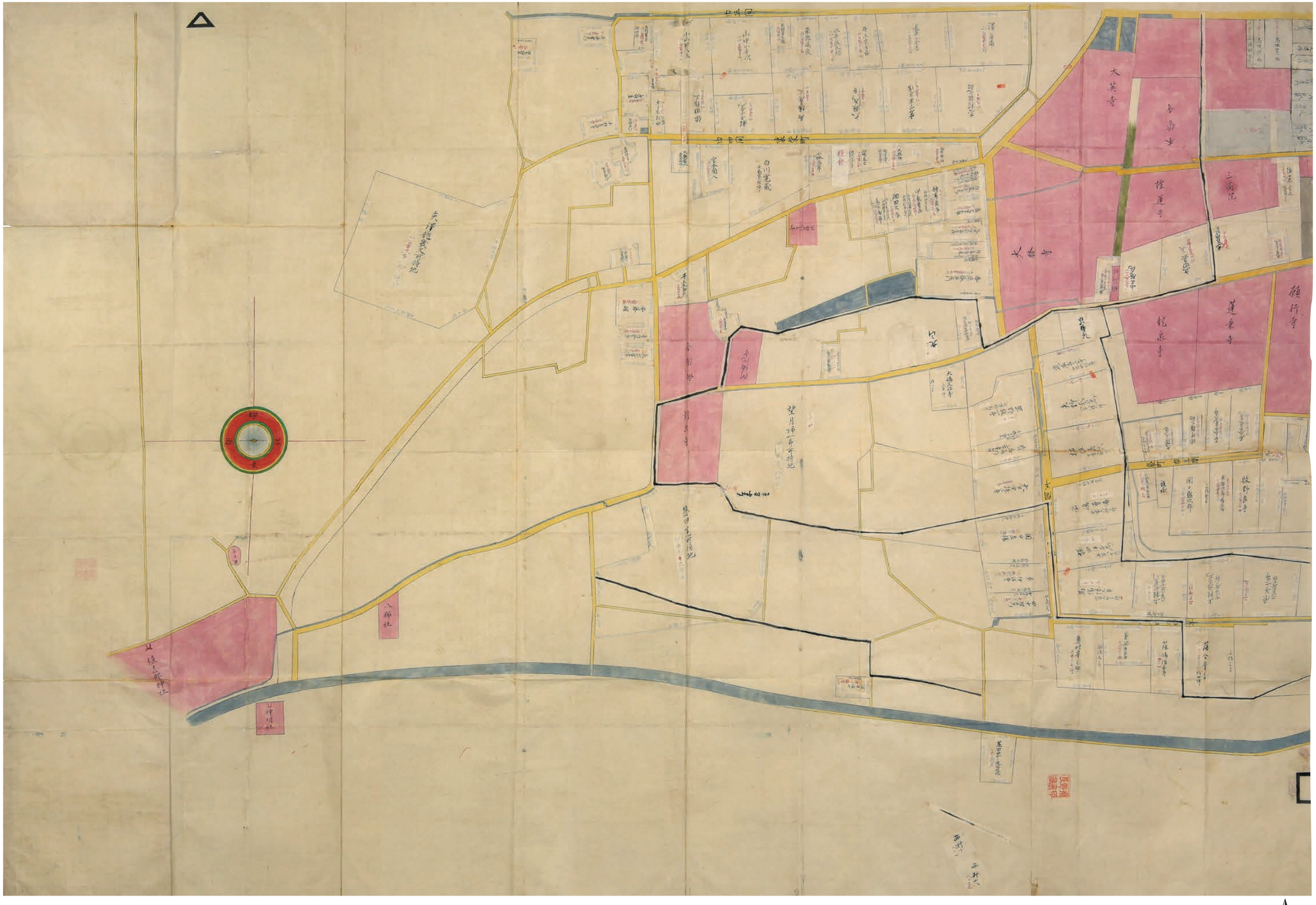
松代屋敷割図（No11～No14）の合成　　長野県立歴史館



11　松代屋敷割図２（殿町・清須町・馬喰町ほか）（明治5年頃・1872）　長野県立歴史館

武家拝領地に町屋敷も含めた松代城下全体の屋敷割の切絵図。4枚組。土地の所有者と四辺の間数、面積が記され、朱書で「イ〇〇番」と番号が付される。地租改正にともなう切絵図か。多数の貼紙で絵図作成時の状況に更新されている。元図は文政6（1823）年7月に作成された「松代御家中拝領屋鋪図」（国文学研究資料館蔵）。

12　松代屋敷割図３（木町・竹山町・代官町ほか）（明治5年頃・1872）　長野県立歴史館



13　松代屋敷割図 1（表柴町・御安口・松山町ほか）　（明治5年頃・1872）　長野県立歴史館

14　松代屋敷割図 4（中町・荒神町・肴町ほか）（明治5年頃・1872）　長野県立歴史館



第一章——二村絵図

村絵図

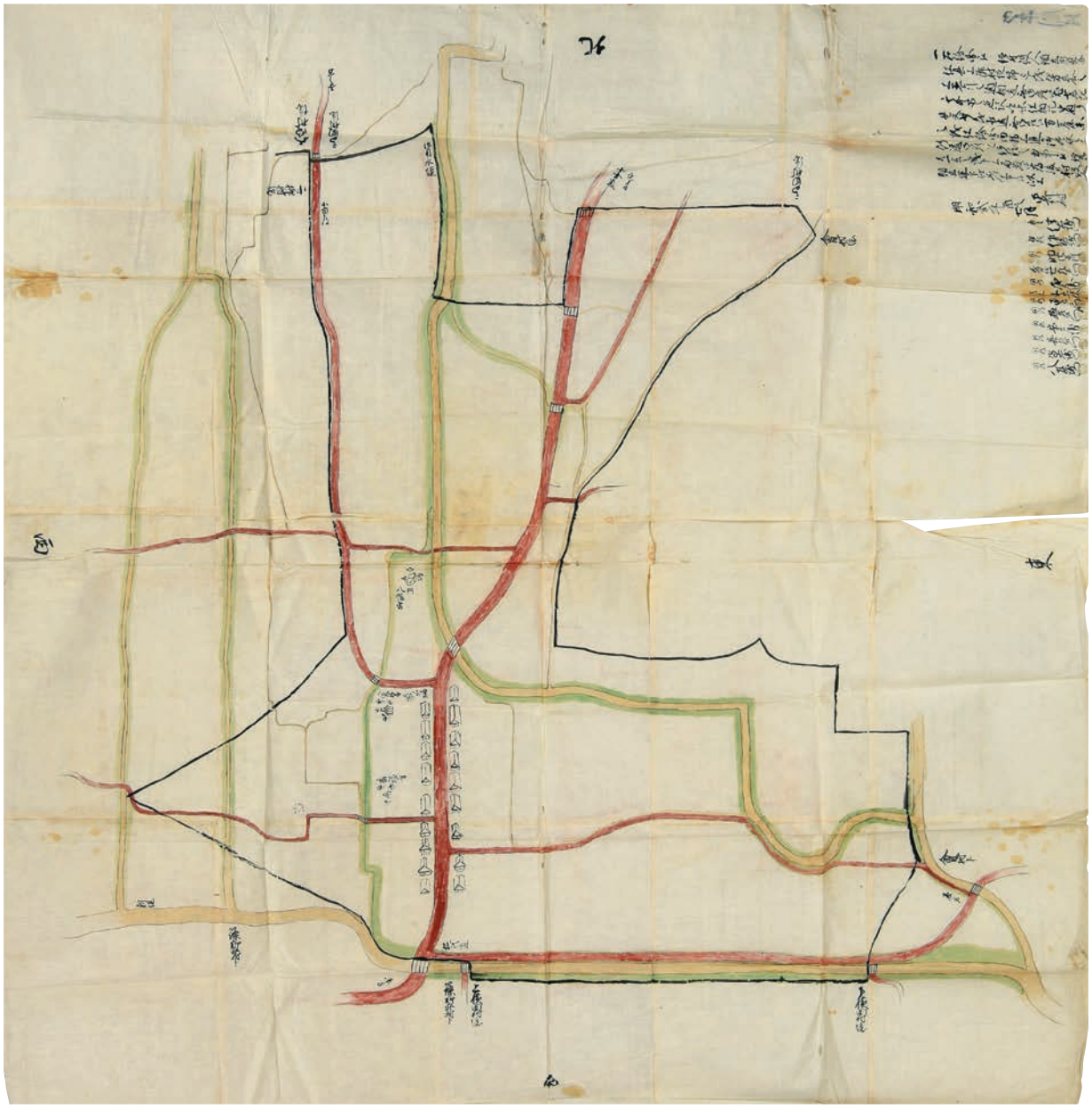
幕府からの知行目録によると、松代領内の村数は水内郡・更級郡・高井郡・埴科郡の合計で一九五ヵ村であった。藩が実質的な行政区分として使用した「通り」別の支配村数は、二四八ヵ村（文政八年・一八二五）が書きあげられている。

国文学研究資料館に所蔵される真田家文書には、明和二年（一七六五）七月頃と推定される村絵図が九二点、文政八年（一八二五）に作成されたものが七五点、合計一六七点の村絵図が現存する。これらの村絵図は、藩の郡奉行が保管・管理していたと思われる。明治十三年（一八八〇）、元松代県少参事・矢野唯見により、真田邸土蔵内の日記書類の調査が行なわれた（「御蔵内日記書類下調」―国文学研究資料館真田家寄託六二七―一、二）。この調査時点で、真田邸の土蔵には「ハ印　村々検地有地改沖附帳類　一〇五筆―元禄五年～弘化四年―」、「チ印　村々絵図面　二一六筆」などが収められていたことが確認できる。これらの多くは、現在国文学研究資料館に保管されている。

松代藩では寛文六年（一六六六）に全領一斉の総検地（指出検地）が行われた。この時に作成された検地帳は二二二ヵ村で、以後松代藩の土地台帳の基本となった。寛文六年以降は、個別の村ごとの検地（地押改）が行われ、宝暦―安永期（延べ一〇九ヵ村）、文政―天保期（延べ三〇ヵ村）にピークがある。宝暦―安永期の検地は、藩の統一的な政策として実施されている面が強く、文政―天保期は村側からの要請によってなされたケースが多いとされる。こうした藩の施策や検地に呼応して村絵図も作られた。

これら村絵図の中には、藩の絵図師や絵師が作成に携わったり、写しの作成に関与したと思われるものがある（No20、23）。中でも松代藩の絵師として知られる三村自閑斎は、万助と名乗っていた時期の役職名が「絵図師」であり、こうした村絵図をはじめ、様々な絵図や、写しの作成に携わったことがわかる。

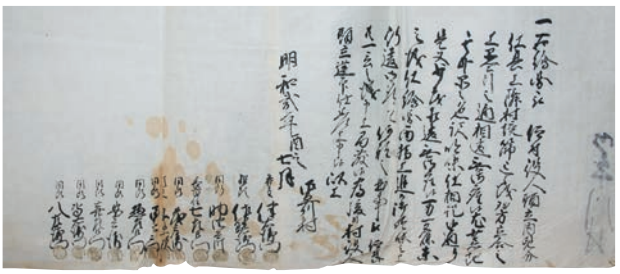
各村々で起こった境界争いなどで作成された論所絵図や裁許絵図には、村の絵図師もかかわった。松平主税助支配地（塩崎知行所）今井村と、松代領小松原村との秣場境を巡る争いでは、今井村が雇った中氷鉋村の絵図師・喜曽八と小松原村が雇った柴町村の絵図師・忠助が登場する。村にも藩の絵図師同様絵図を作成する技能を持った絵図師が存在した。

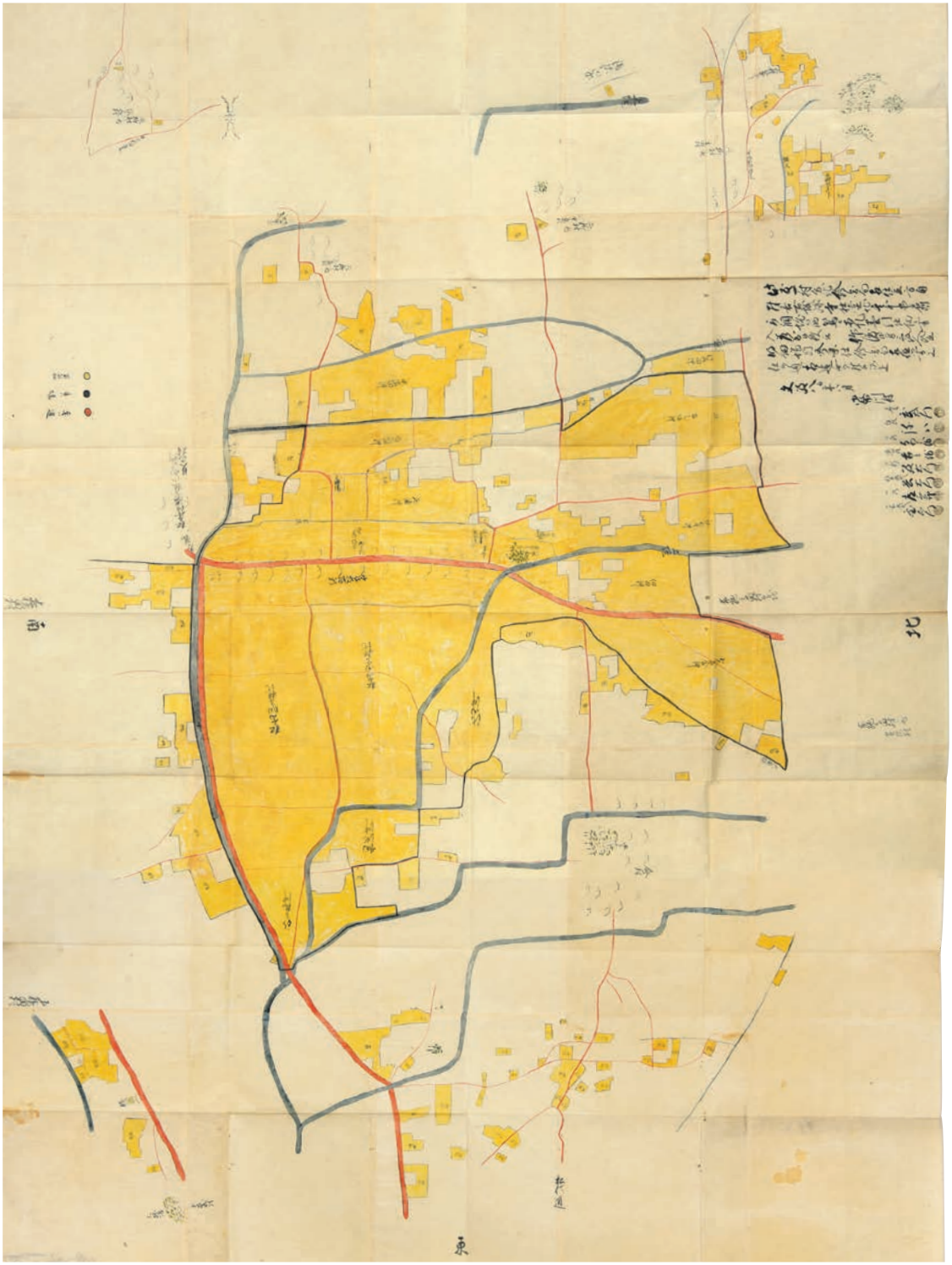


15　御平(幣)川村絵図　明和2年(1765)7月

国文学研究資料館

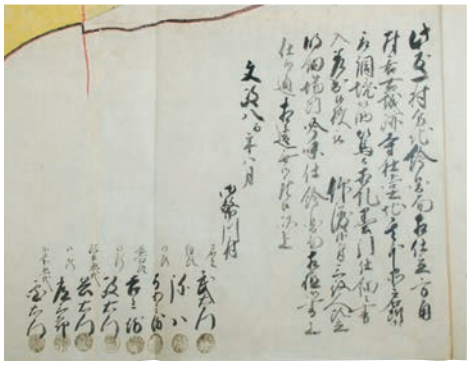
明和2年、松代藩では村絵図の差し出しを各村に要請したと思われる。国文学研究資料館には、この年の2月から7月にかけ作成された村絵図92点余が現存する。絵図には各村ほぼ共通の添書があり（資料編資料④）、村方三役が押印し、提出された。藩ではこれらの絵図をいろは順にして郡奉行が保管し、支配の参考とした。

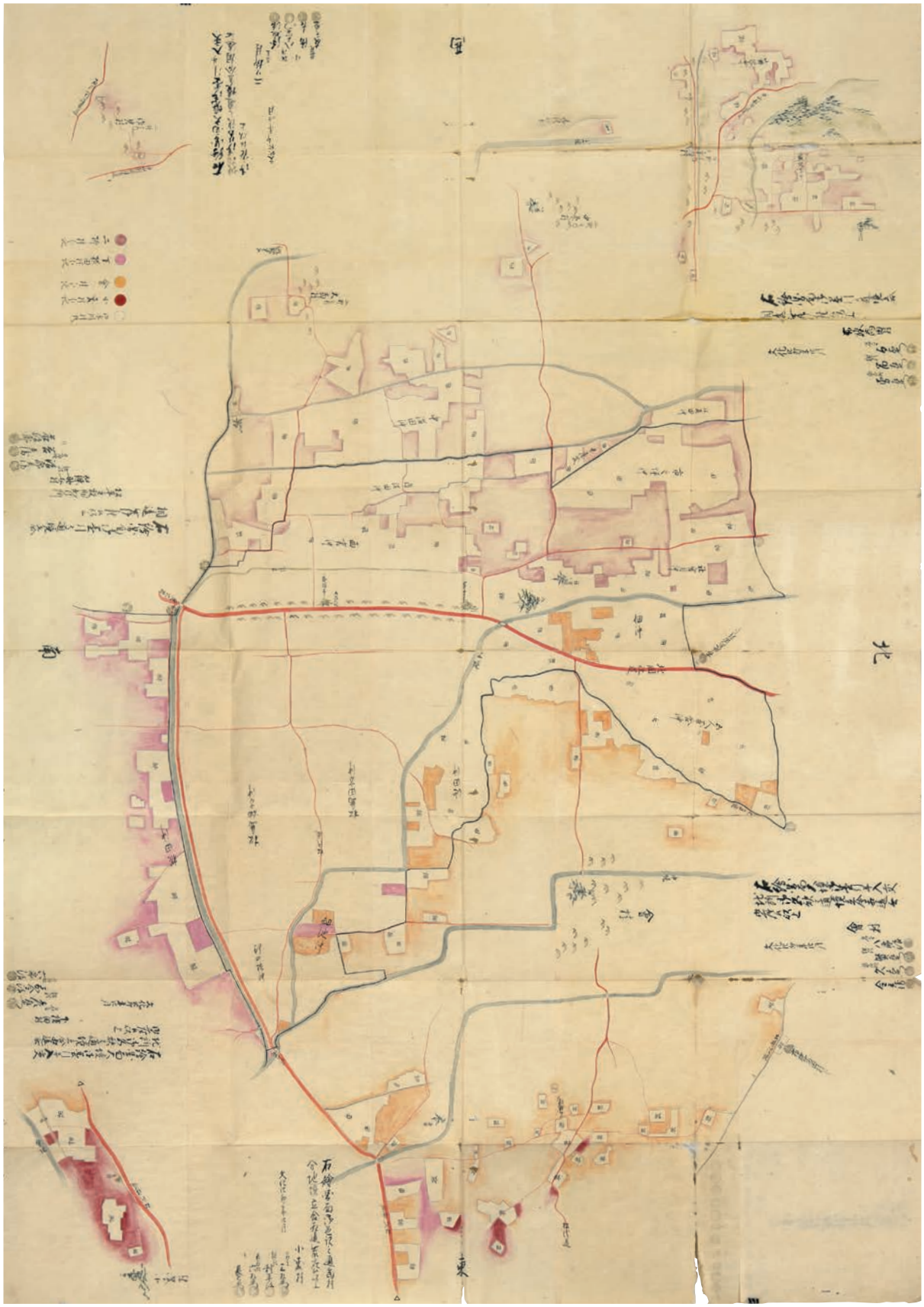




16　御幣川村絵図　文政8年(1825)8月　国文学研究資料館

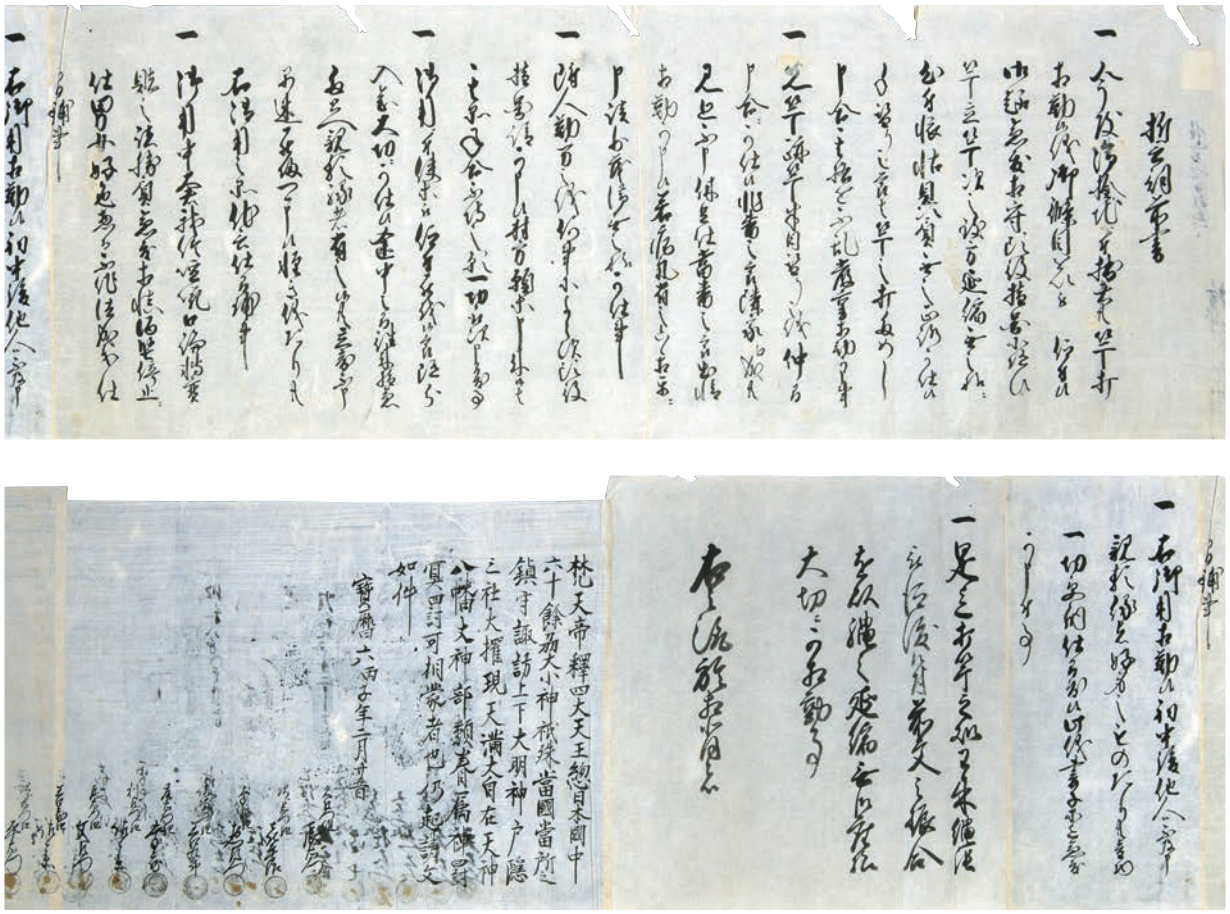
文政８年、藩では勘定所役人の名で、各村に 150 間を一尺として村絵図を作成するよう指示した(資料編資料⑤)。国文学研究資料館には、この時差し出された村絵図 75 点余りが現存する。明和の絵図に比べ、書き方も具体的に指示され、詳細に描かれている。





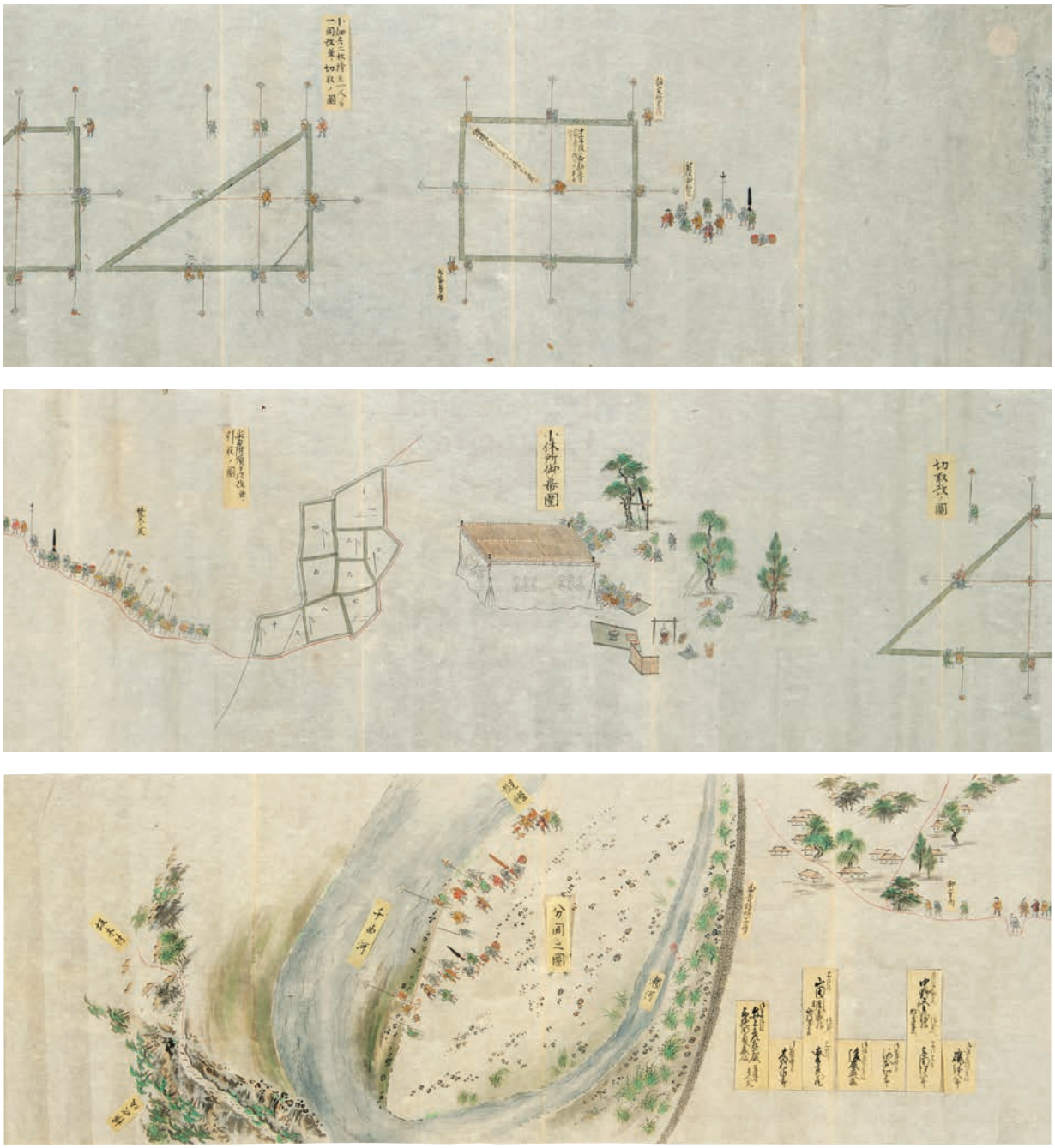
17　御幣川村御地押改絵図　文化4年(1807)4月　国文学研究資料館

御幣川村では、村からの請願により藩による検地が行われた。御幣川村の案内役として名主以下村方三役の名と印、隣接する小森、篠野（ノ）井、会村ほかの役人が立合いを行っている。松代藩では実際の測量による検地は部分的に行われたのみであった。



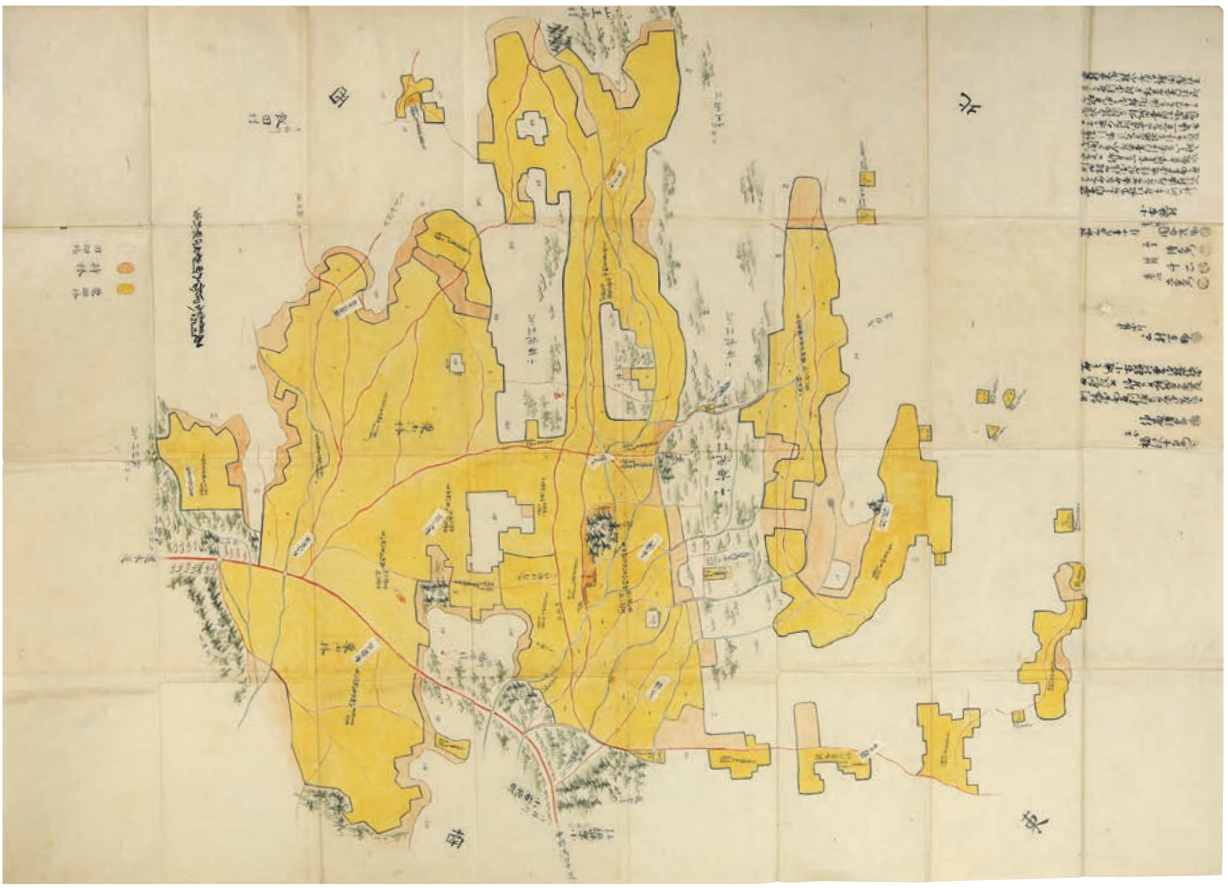
18　検地竿打足軽誓詞　宝暦6年(1756)2月～文久4年(1864)2月　国文学研究資料館

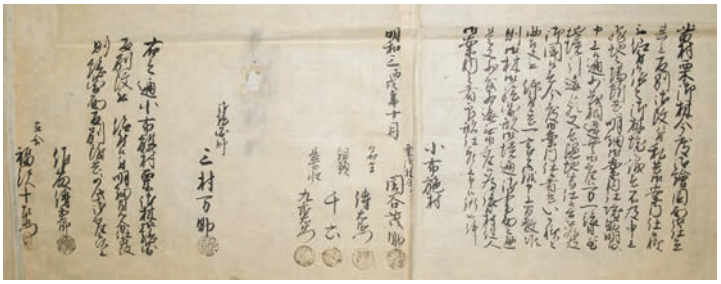
検地は支配の根幹をなすものであり、その規定は細かく厳しいものであった。松代藩でも幕府検地条目に対応した独自の検地条目を定めた。この資料は「竿手御足軽掟」に対する竿持ち人の誓詞である。測量の目印となる竿を持つ足軽は、ひいきや不正をしないことを血判を押して神々に誓っている。誓詞は宝暦6年から文久4年まで、270人分がその都度貼紙され、巻かれている。



19　五明村網掛村公儀御検地見分所見取図　文化14年(1817)

千曲川の河原を理不尽に掘川していると五明村と網掛村が坂木（城）村を訴え、争いとなった。幕府の検地役人・中野又兵衛、山田周蔵ら10人余が派遣され論所の測量が行われた。その時の松代藩の立合いの様子を描いたもので、検地の具体的な様子がよくわかる。





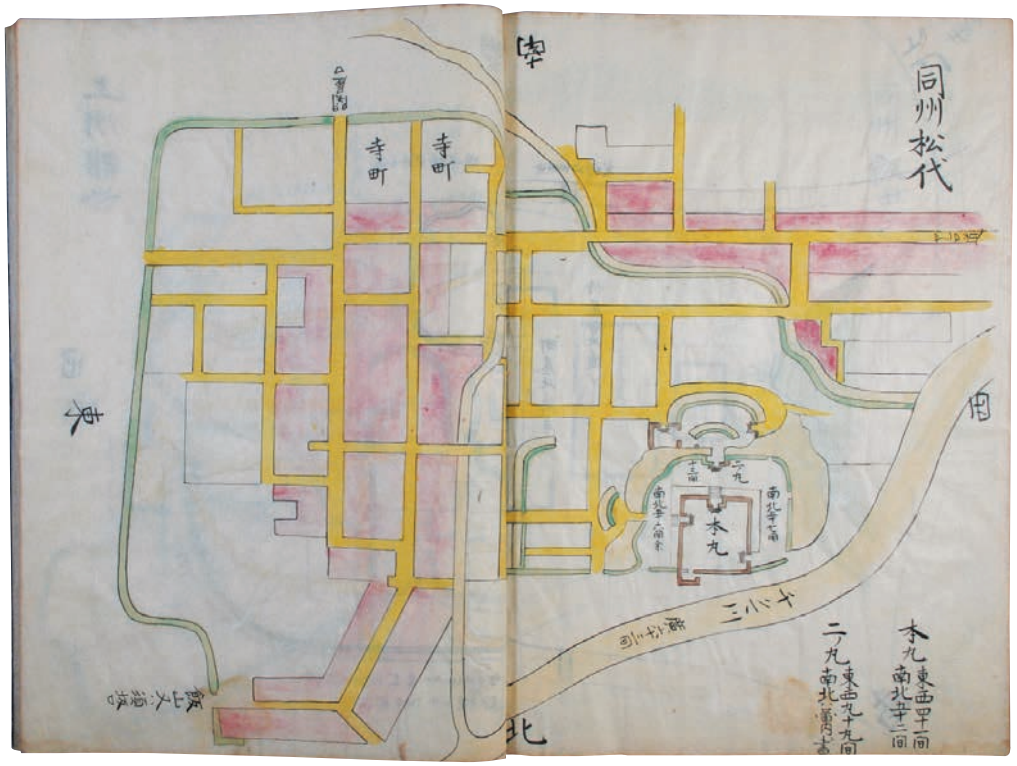
20　小布施村栗御林絵図面　明和3年(1766)10月　国文学研究資料館

小布施村は幕府領と松代領の相給（1村が2人以上の領主によって領知されること）の村で、松代藩の栗林があった。藩では、幕府領との境を確定するため絵図を作成した。絵図作成を担当した絵図師・三村万助は、後に三村自閑斎を名乗った藩の絵師である。



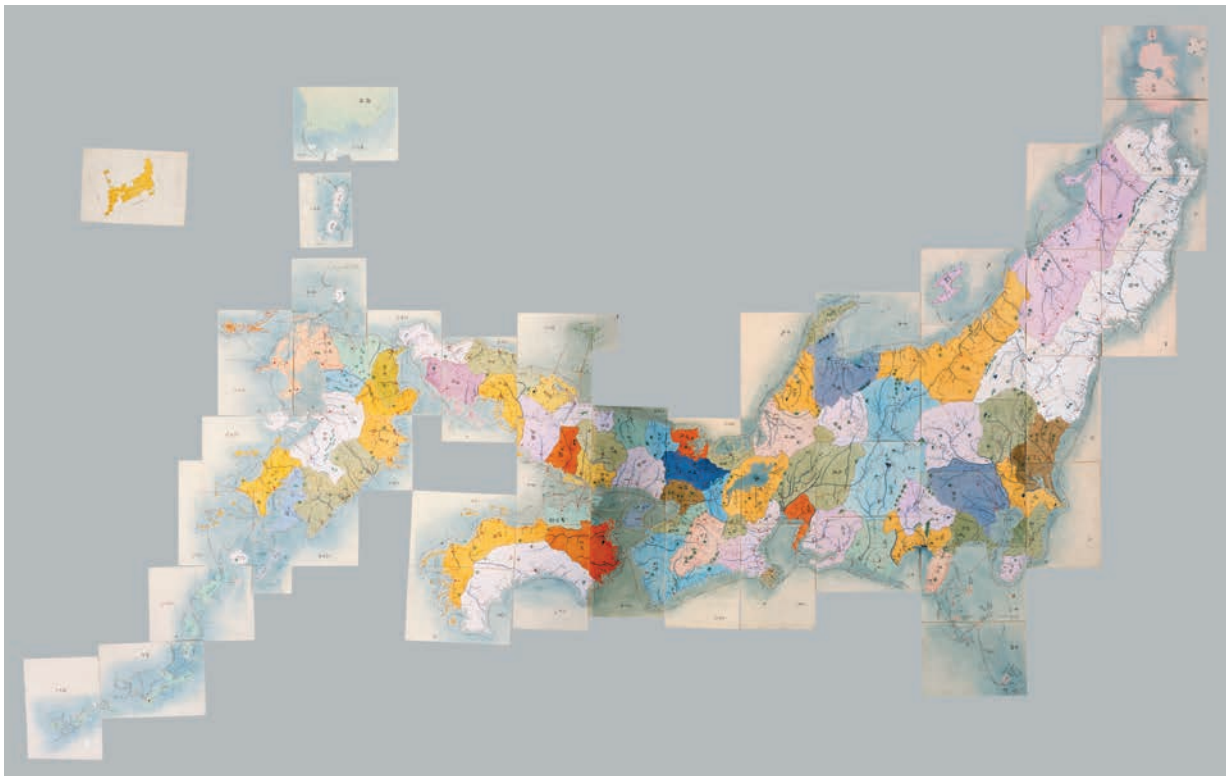


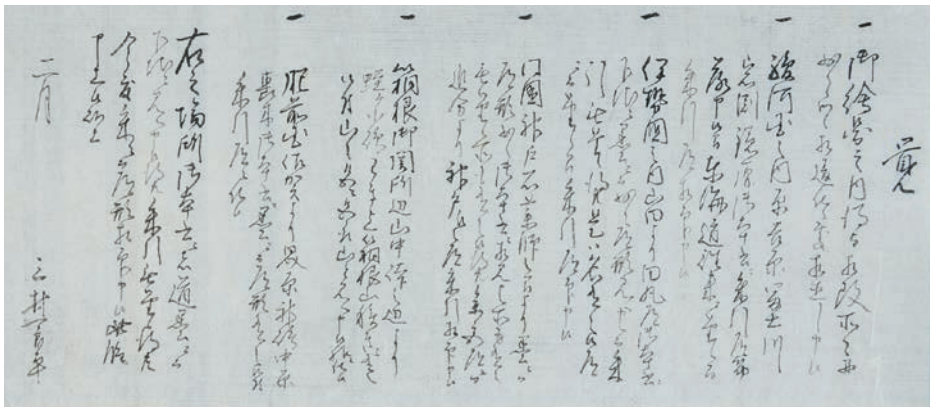




21　主図合結記（上・下）　寛延2年（1749）3月写　個人

全国の城郭を描いた城絵図集成の写本。いくつかの写本が伝わるが、本書は寛延2年に三村万助によって書き写された。絵図師である三村万助は、こうした諸本の写本も行っていたことが確認できる。

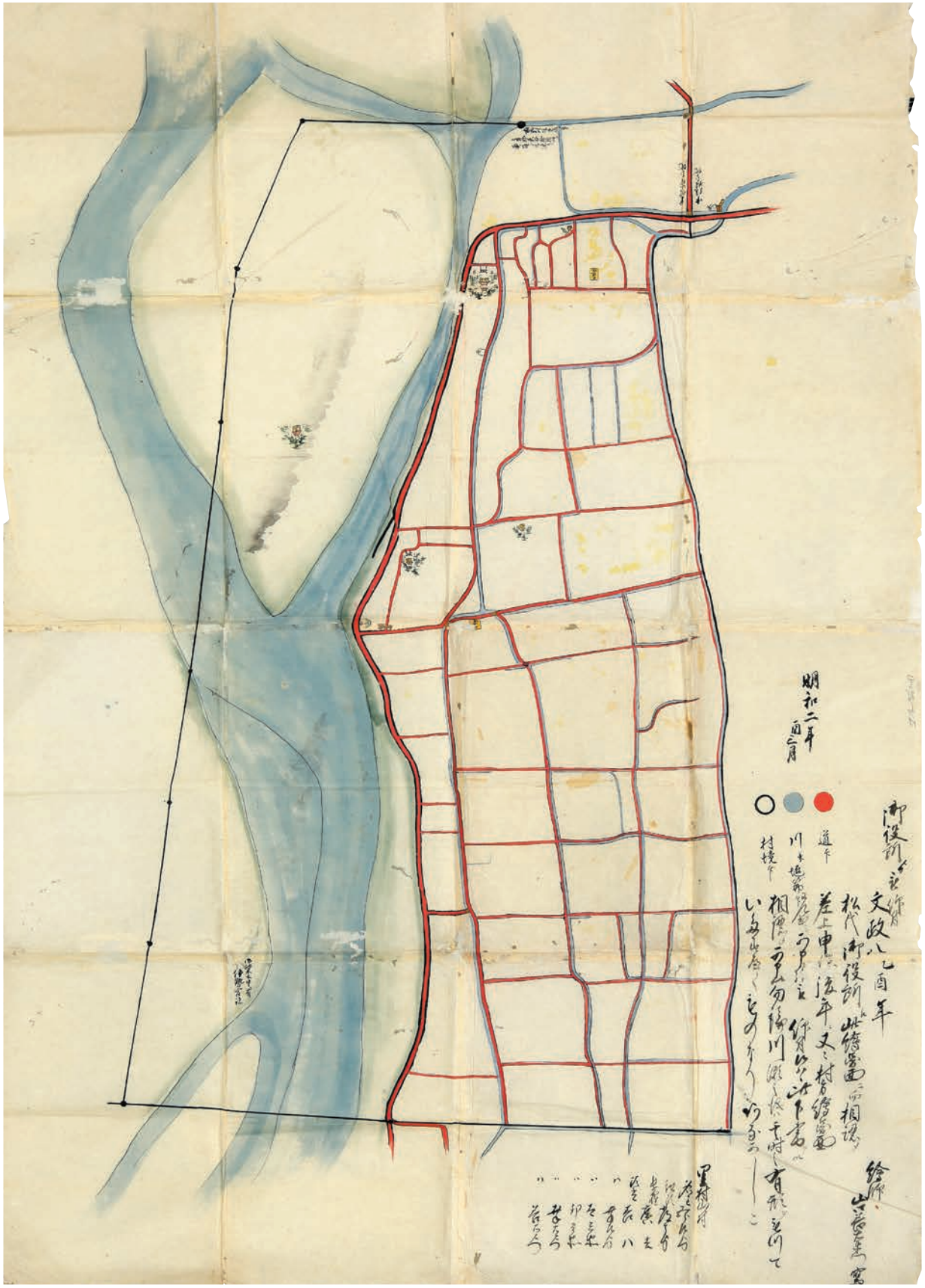






22　本邦六十八州并諸島大図　寛政4年(1792)2月

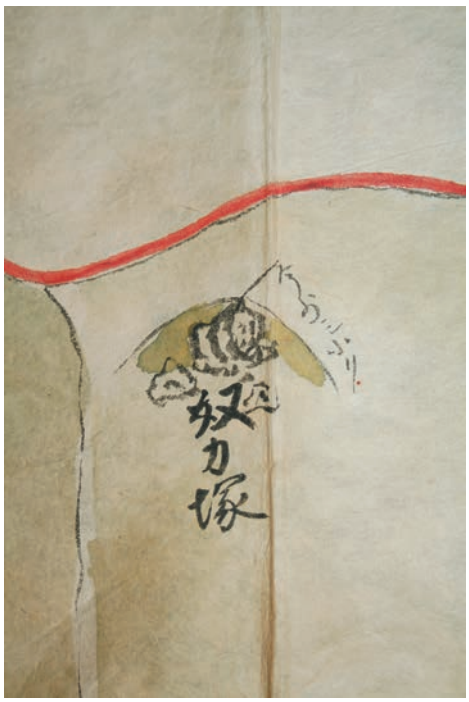
付属の覚書によれば、本書の書写を命じられた三村一郎平は、原本と照合した結果、いくつか道の描き方に誤りがあることを指摘し、訂正をしたことがわかる。三村一郎平は分限帳などから三村万助（自閑斎）である。



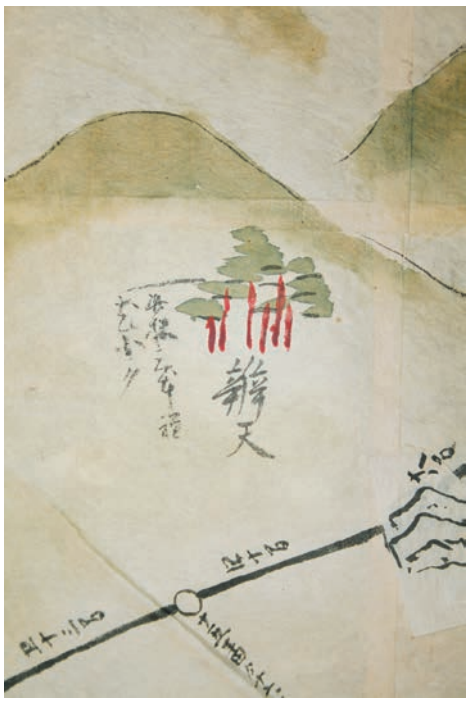
23　里村山絵図　文政8年(1825)　国文学研究資料館

絵師山口善右衛門が写した里村山村の村絵図。添書には、後年再び村絵図提出を求められたら、この絵図を下書とするように。千曲川の川筋は作成時のものに書き替えるように、と書かれる。他にも絵師として伊藤良一の名が別の資料に見える。





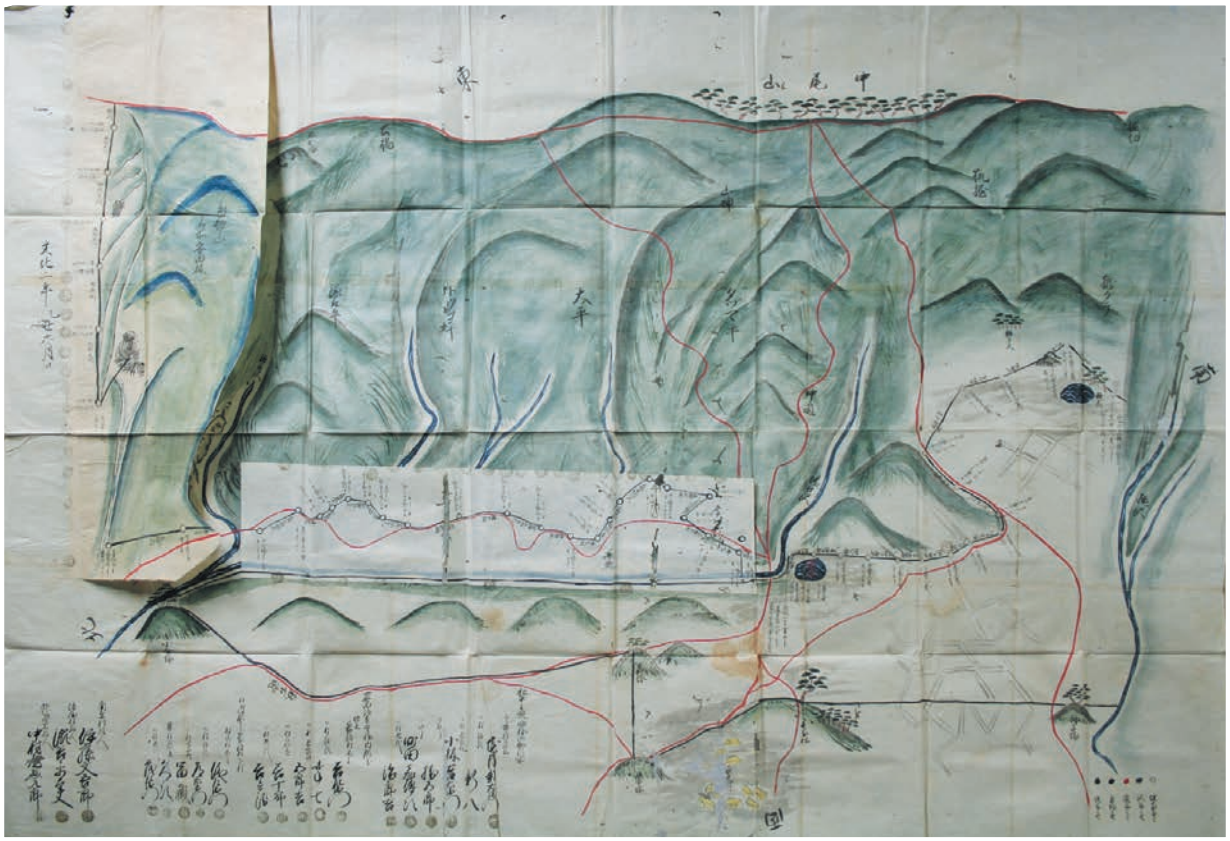
「今少シ小ク」

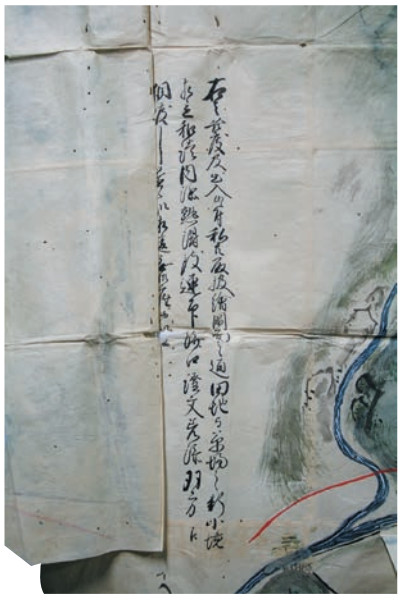


「此松三本程、尤小ク」

24　絵図（今井村他2村）　文化2年（1805）6月　長野県立歴史館

松代領山布施村の郷内山を採草地として利用していた旗本松平主税助領（塩崎知行所）今井村はその境を巡り山布施村と争いとなった。文化2年、今井村と山布施村、山布施村の枝村山村山とで落着し、三者確認のための絵図が作られた。その時の今井村側の絵図の写しが本図である。絵図は絵図師が描いたと思われ、村役人から「今少し小さく」、「此松三本程、尤小く」などの指示が書かれている。





25　松平主税助様御知行所真田領山布施村境論所和議絵図

文化2年(1805)6月　国文学研究資料館

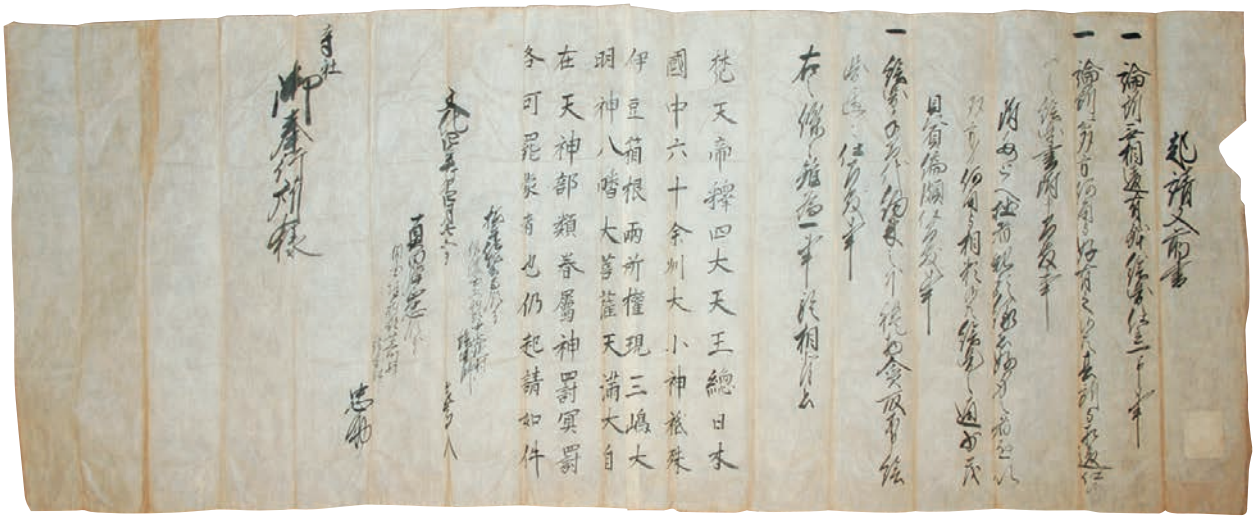
松代藩側に伝わった文化2年内済（落着）時の絵図。松代藩・山布施村側の絵図師が作成にかかわったと考えられる。



26　一札之事（絵図師喜曽八御雇について）

文化4年（1807）4月　長野県立歴史館

山布施村と境争いが落着した今井村は、続けて松代領・小松原村と争いになった。今井村は絵図の作成を中氷鉋村に住む絵図師喜曽八に依頼した。今井村は月に金一両、経費は別という条件を喜曽八に提案し了解された。



27　中氷鉋村喜曽八等今井村入会山論裁許絵図仕立て起請文　文化4年（1807）4月　長野県立歴史館

争いの場所（論所）の絵図を作成するにあたって、今井村側は絵図師喜曽八を、小松原村側は松代領柴町村の忠助を立てることで双方合意した。絵図師の両人は、幕府寺社奉行に対し、双方に贔屓（ひいき）なく、誠実に絵図を仕立てることを神々に誓うことを約束した。



28　絵図面仕立相談日記　文化4年（1807）正月～12月　長野県立歴史館

論所絵図作成にあたっての今井村の日記。文化4年2月27日、今井村の久兵衛が喜惣治（喜曽八カ）方へ出向き、論所絵図作成を依頼した。喜惣治は早速承知し、29日に出向くことを承諾した。今井村の夫銭帳では喜曽八に礼として金壱両を支払っている。金一両という金額からも、訴訟においての絵図と、それを作成する絵図師の重要性がわかる。文化4年に落着した時の絵図は伝わっていない。



29　絵図手本　長野県立歴史館

表紙には「絵図手本」と貼紙が付される。高山、岩場の表現から里へ、最後は建物の描き方を彩色で描く。№24、25の松や祠の描き方もこの手本と同様の表現になっており、こうした手本が数多く写され実用に活かされたことがわかる。



第二章　国絵図・領内絵図

江戸幕府は、国家支配の基本図として、全国の大名に命じて国ごとの地図である「国絵図」と、土地台帳である「郷帳」を調進させ、江戸城内の紅葉山文庫に収納した。幕府の大がかりな国絵図収納は正保、元禄、天保期の三度にわたって行われた。信濃では、正保国絵図は八人の大名（飯山・松代・上田・小諸・高嶋・高遠・松本・飯田）と二人の代官（岡上・設楽）の計一〇人の相持（あいもち）で作成された。松代藩はまとめ役となり、正保四年（一六四七）三月に幕府に提出した。元禄国絵図は、四人の大名（松代・松本・飯山・上田）が絵図元となり、江戸の上屋敷を中心に連絡・調製を行ない、元禄十五年（一七〇二）十二月に幕府に献上した。天保国絵図は、現在国立公文書館に清絵図（きよえず）が残る（国重要文化財）。信濃国絵図の大きさは四八〇cm×八五七cmである。この時は、幕府が作成した下絵図に訂正事項を示した懸紙（かけがみ）を貼って幕府に提出し、幕府担当者が清書を行った。担当は松代・松本・上田の三藩があたり、天保九年（一八三八）五月に幕府に提出した。この時の切絵図が松代藩や上田藩に伝えられている。

明治元年（一八六八）十二月、行政官より府県と諸侯に管轄地の絵図を一里三寸の縮尺で作成し、差し出すよう下命された。この時作成された切絵図が真田宝物館に伝えられている。凡例は、大小の四角形の中を色分けし、県・局・城・諸藩陣屋などが分けられ、村名を記した村形は小判型で、色分けされている。

松代藩では、自らの領内の絵図を数度作成している。一つは寛永年間（一六二四～四四）の領内の様子を描いた「松代封内（ほうない）図」である。これは、江戸末期に松代藩が自藩の歴史を編纂する修史事業の一環として作成された『真田家御事蹟稿続編稿』の附図である。編纂は松代藩士河原綱徳が当たったが、編纂半ばで没したため引き継いだ飯島勝休が明治八年（一八七五）に真田幸民に献上したものである。

明治初期には伊那県からの要請で、一分五〇間の領内絵図作成が申し渡され、嘉永年間（一八四八～五三）に松代封内測量図を描いた東福寺泰作が、再び絵図作成に携わっている。

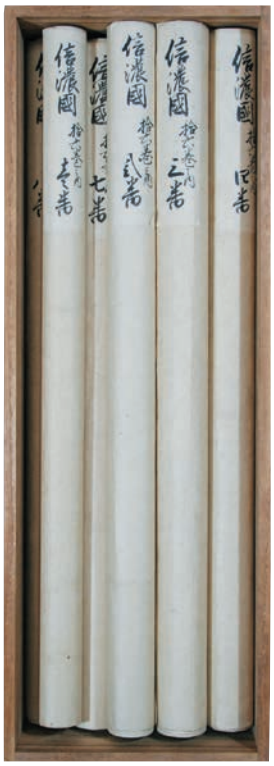
領主は自らの領地把握のため、代替わり後最初の松代入部に合わせて、慣例として領内巡視を行った。記録に残るもので、三代幸道が延宝五年（一六七七）に、四代信弘が享保十五年（一七三〇）、六代幸弘が宝暦七年（一七五七）、七代幸専が寛政十一年（一七九九）、八代幸貫が嘉永二年（一八四九）、九代幸教が文久二年（一八六二）に実施された。ここでは、巡視のコースを記した絵図の残るの真田幸貫による巡視の一部を取り上げる。



30　信濃国絵図　天保9年(1838)

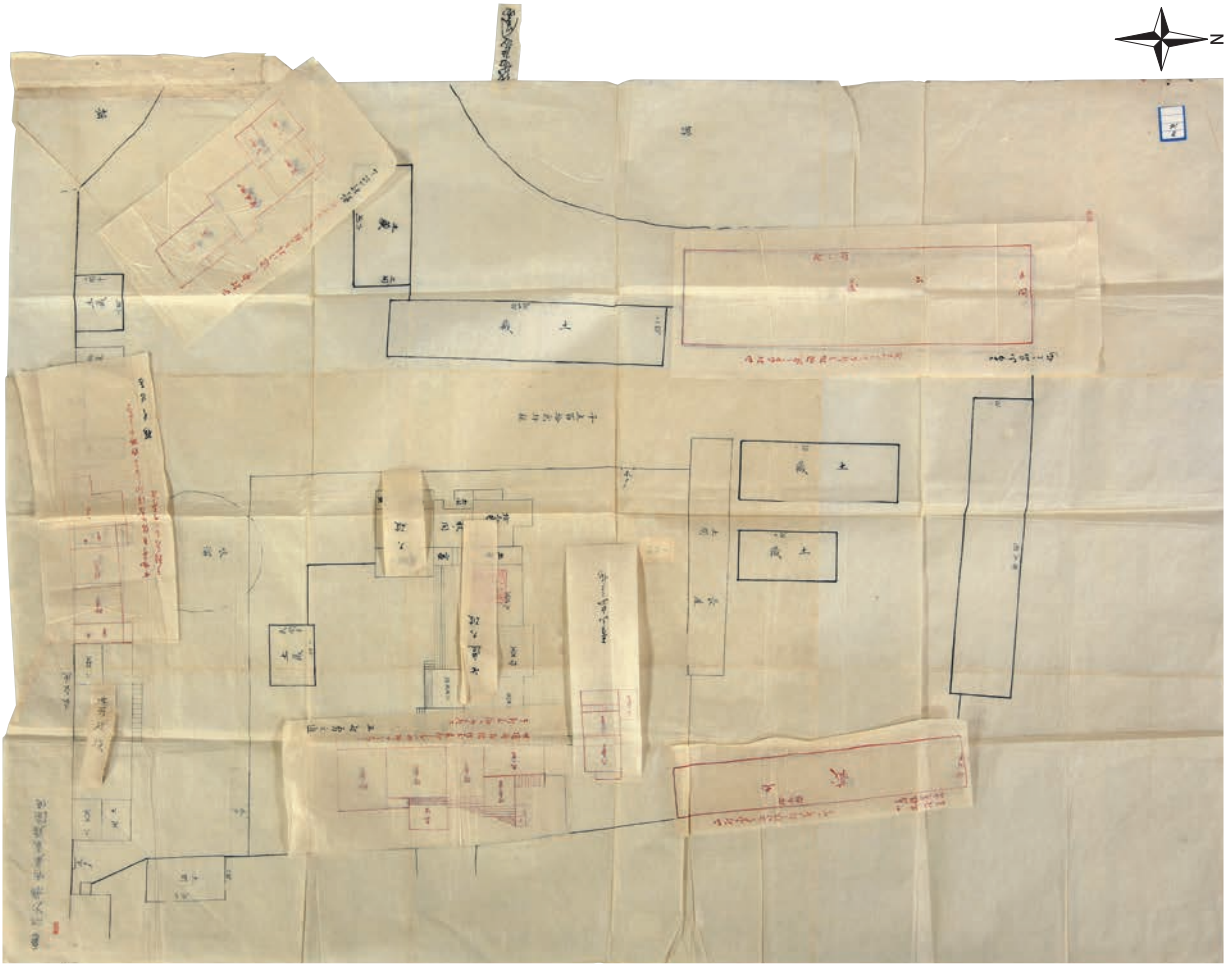
天保9年5月、松代、松本、上田の三藩は協力して元禄の国絵図を改訂し、切絵図の形で信濃国絵図を幕府に提出した。内閣文庫に残る幕府の清絵図は、東西480cm×南北857cm。一里（約3,900m）を6寸（約18cm）とする約21,600分の1の縮尺で描かれている。本図の村形には石高は書かれていない。





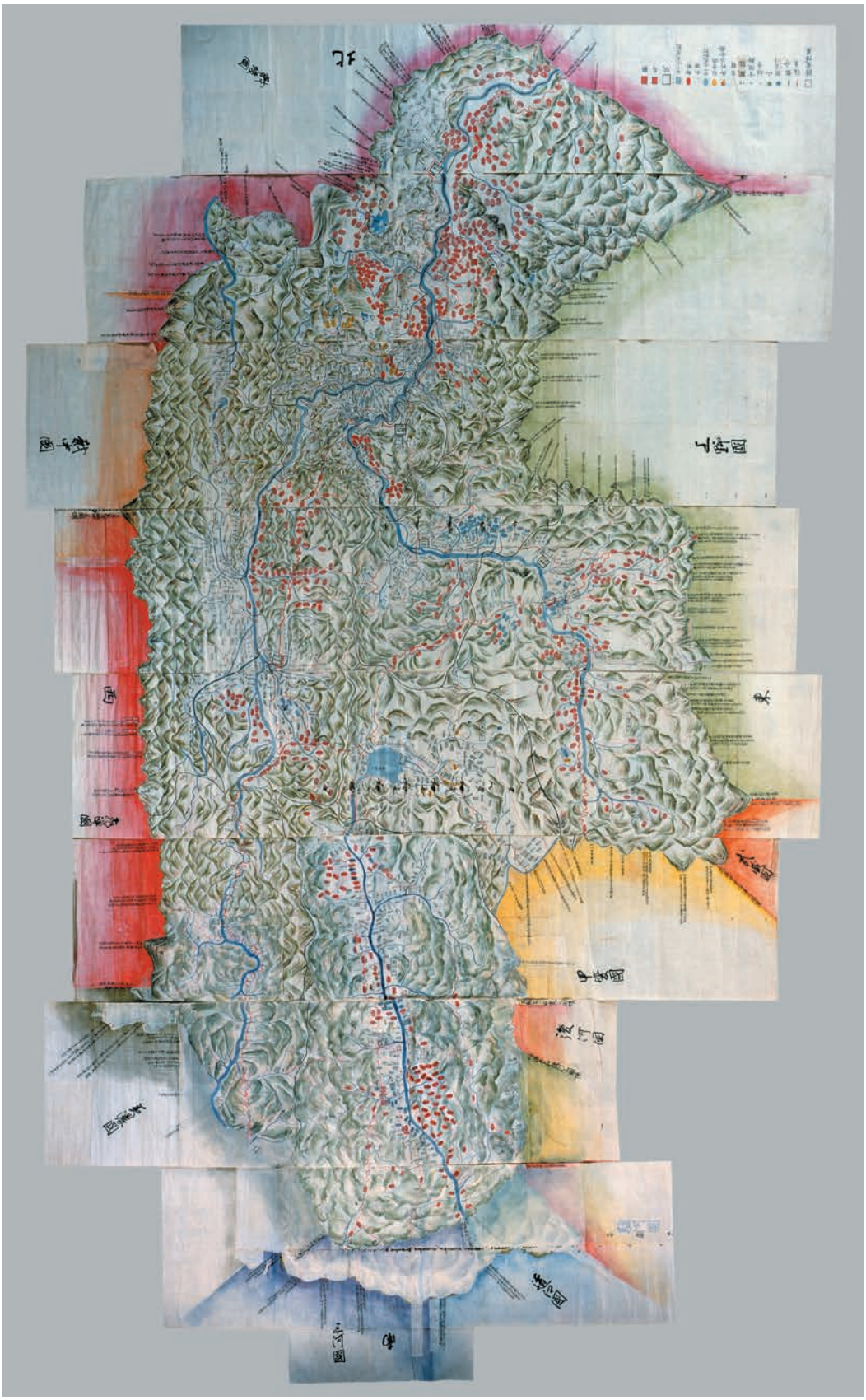
信濃国絵図収納箱（御国絵図面拾六巻入　郡方）

松代藩では幕府に提出した天保国絵図の控を、16巻の切絵図の形で保管していた。藩では郡方（郡奉行）が作成、保管に携わった。1巻の縦は約52cm。



31　旧松代県御蔵屋敷図面　（明治6年頃･1873）　長野県立歴史館

松代城東側にあった藩の御蔵屋敷の図面。松代における絵図保管場所の一つ。廃藩後、旧藩士に払い下げの際に作成されたと思われる図で、「此場所拝借仕度・・」の文言が朱書される。大破、破損と書かれた貼紙も見える（資料編資料⑥参照）。



32　信濃国切絵図　（明治元年頃･1868）

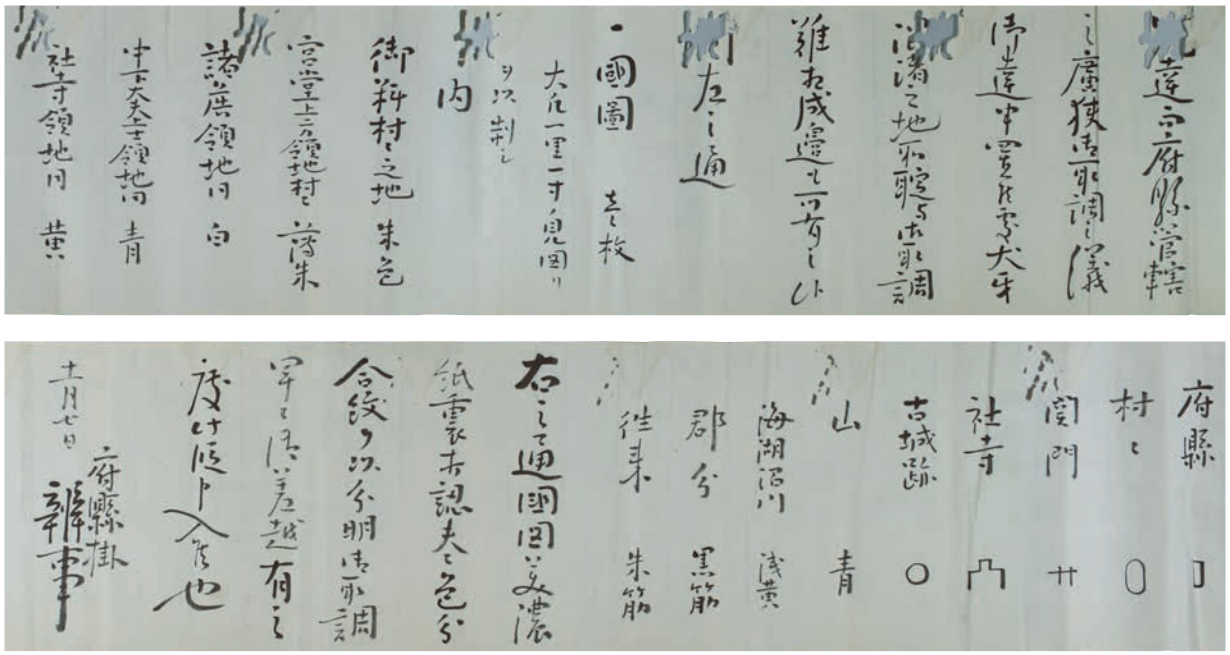
慶応4年（1868）、新政府は幕府領を没収し、飯島陣屋に伊那県を設置した。伊那県は明治元年の暮、信濃国絵図作成を各藩に命じた。当初は1里6寸で仕立てるよう下命されたが、1里3寸（1/432,000）に縮図するよう命じられた。この絵図作成には藩の御次絵師・関愛山が携わった。松代藩には8巻本（縦約54㎝）の切絵図の控が保存されている。





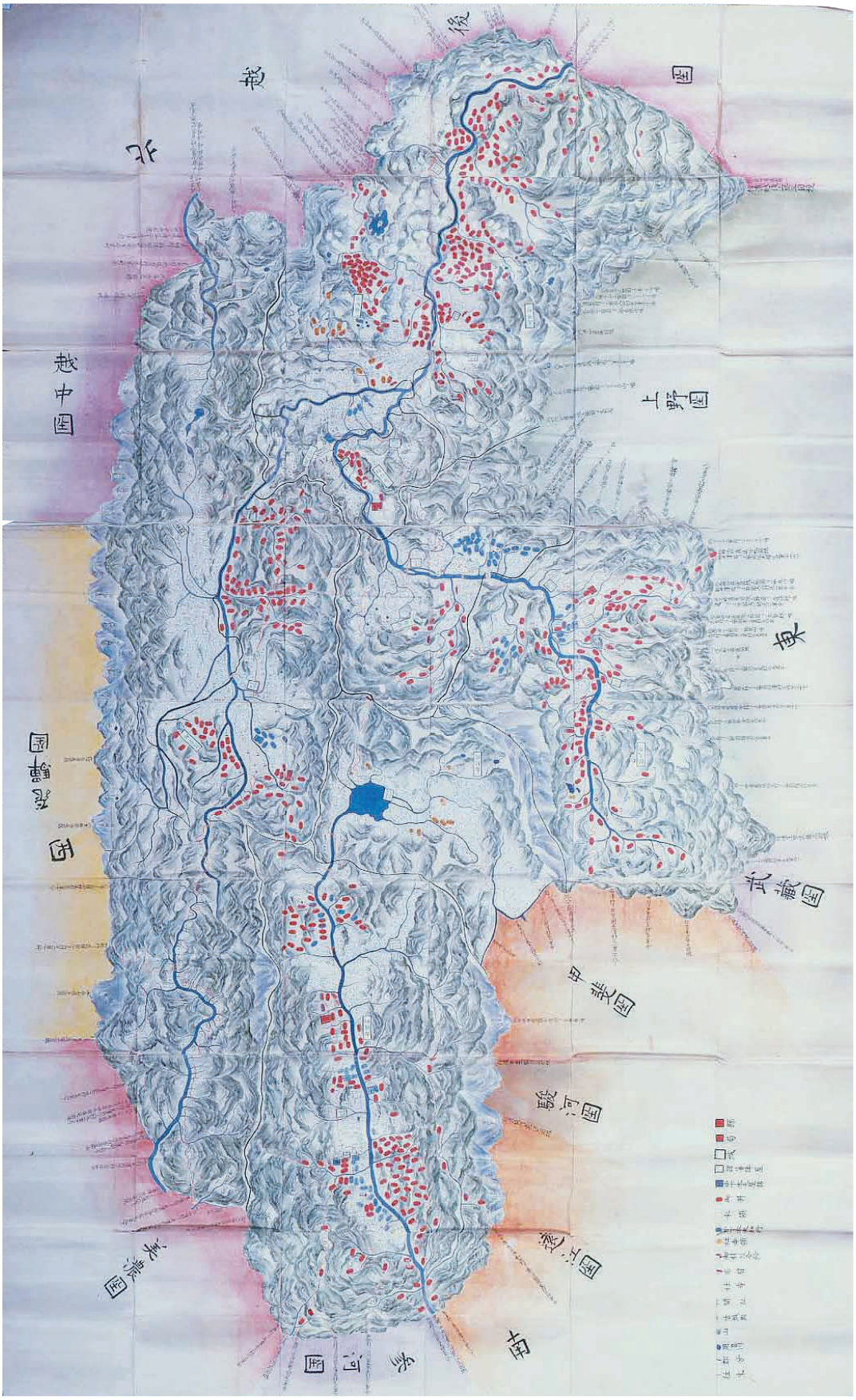
信濃国切絵図等の収納箱

箱には明治初期の信濃国切絵図8巻、天保国絵図の写12巻（4巻欠）、天保国絵図北信濃の部分の切絵図6巻が納められている。



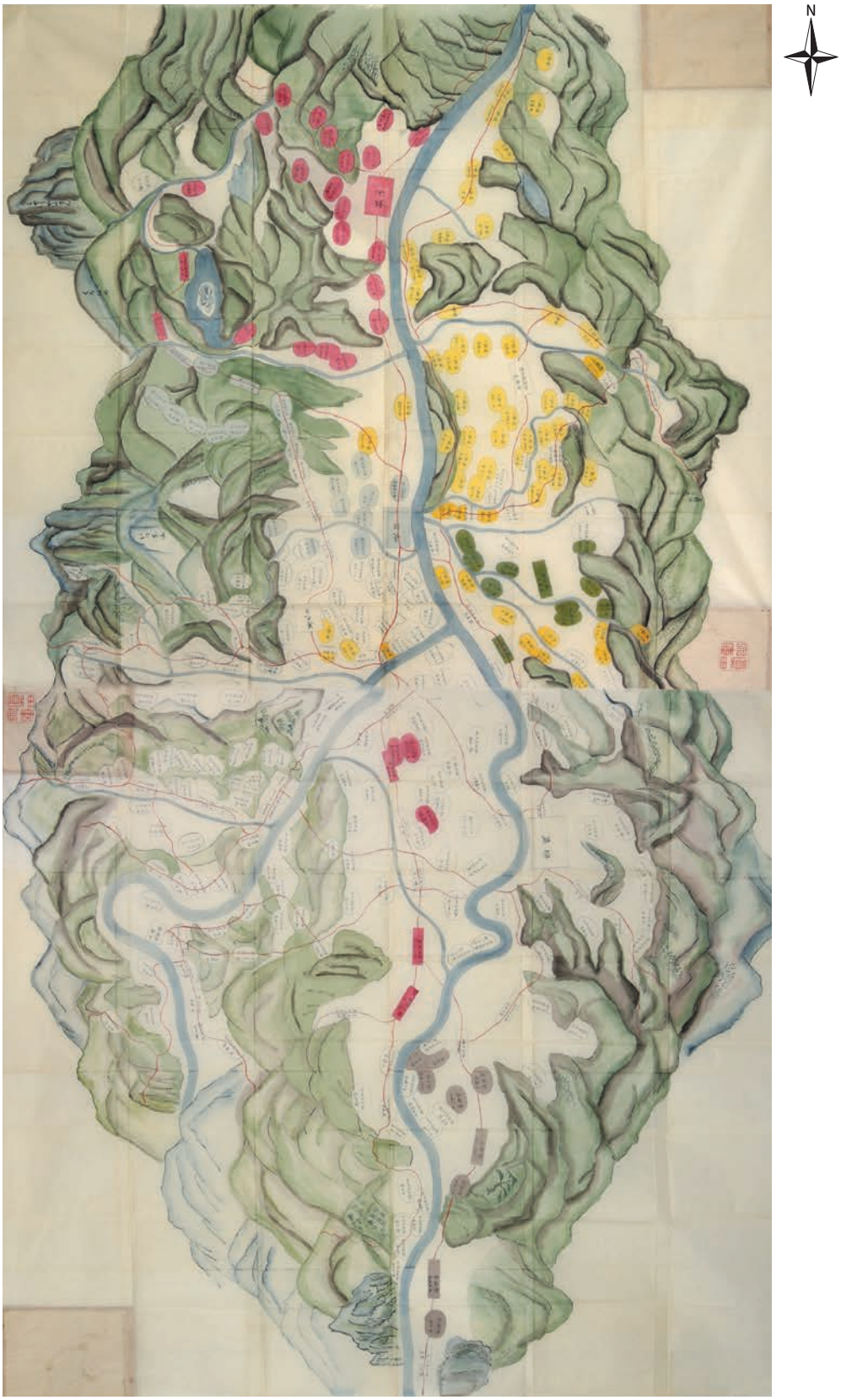
33　信濃国地図取調一条の内、「府県掛弁事通達」　明治元(1868)～2年　国文学研究資料館

府県管轄の国絵図作成にあたって示された地図の凡例。この時の松代側担当者は公用人・北沢幟之助。御料村・朱色、諸藩領地・白、社寺領地・黄色、府県・□、村々・〇、社寺・凸、山・青、海湖沼川・浅黄色、郡分・黒筋、往来・朱筋といった色分けや記号の指定があり、絵図には美濃紙の裏打ちをするなど具体的な地図の仕様が命じられた。



34　信濃国全図　（明治初期）　長野県立歴史館

伊那県へ提出された信濃一国分の切絵図を一枚に仕立てた国絵図。凡例は府県掛弁事通達と一致し、県の指示通りに作成されたことが確認できる。大きさは東西258cm×南北421cm。



35　松代封内図上・下　長野県立歴史館

『真田家御事蹟稿続編稿』に付された寛永初期の松代領内絵図。『真田家御事蹟稿』は、8代藩主真田幸貫の命により、家老河原綱徳が藩士堤俊詮とともに真田氏の系図や初期藩政の記録を全62巻に編纂したもの。明治5年（1872）に綱徳の稿本が火災で焼失し、編纂を引き継いだ飯島勝休が自身の写しをもとに成稿し、明治8年6月に青表紙本と黄表紙本の2本を真田幸民に献上した。本資料は、真田家から米山一政に譲られ、現在長野県立歴館に収蔵されている米山本（黄表紙本）である。



36　松代封内図上・下　長野県立歴史館

『真田家御事蹟稿続編稿』を編纂した飯島勝休の手元にあった封内図。北信濃一帯の領主ごとの支配の様子が色分けされている。初代藩主真田信之の治世に該当する絵図。元禄元年（1688）に廃城となった長沼城が書かれ、領主佐久間大膳亮勝之の名がみえる。街道、河川、寺社などが書き込まれている。



37　御領分図　三枚之内北之方･中之方･南之方　元禄10年(1697)10月9日　国文学研究資料館

元禄10年（1697）4月、真田幸道（松代）、水野忠直（松本）、松平忠喬（飯山）、仙石政明（上田）の4大名は、幕府から信濃国絵図作成を命じられた。松代藩では自領を中心に領内絵図を作成した。村形には村名のみで石高表示はないが、松代領とそれ以外の領主は区別され、枝村まで記されている。他に道、川、山、寺社、国、郡境が記されている。



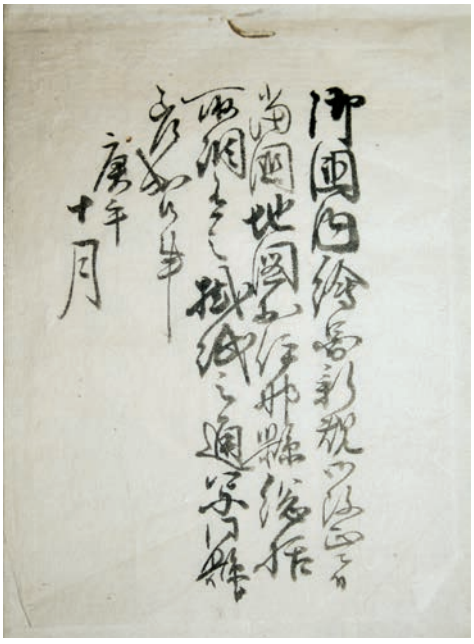
38　松代藩支配地絵図　明治3年(1870)10月

伊那県よりの指示で、支配地の一分50間（1/300,000）の縮図を仕立てることを命じられた。松代では東福寺泰作に命じて、未調査であった高井郡沓野村奥、水内郡鬼無里村奥を追加調査した上で、正図3通を伊那県に献上した。本図は松代藩側の控図で、追加調査部分に懸紙（訂正の貼紙）が貼られている。



絵図凡例

村ごとの領主を、松代藩は黄色、幕府領を松代藩が預かっている場合は紫色、松代藩支配の寺社地は朱色、他藩は白色、支配が複合する場合は各々の色で塗り分けられている。また、城趾は現在の地図記号と同じである。





39 （壱 廣瀬村辺御野掛御通筋絵図面但丹波島村より） 嘉永2年(1849)2月 国文学研究資料館

嘉永2年3月29日、8代藩主真田幸貫が領内巡視を行った。本絵図はその行程予定図。御野掛と表現された巡視の道筋が村名や野立（乗物を止めて休憩する）場所まで丁寧に書かれている。本図は3枚の内の一つで、丹波島宿で犀川を渡り、善光寺、茂菅あたりまでを描く。



40 （廣瀬村辺江御野掛御通行筋并左右村名等取調申上） 嘉永2年(1849)2月 国文学研究資料館

上記の絵図とセットで伝わる帳面。巡視の道筋に沿って通りの左右に見える村名や、野立、小休や昼食の場所、その間の距離、道の険しさなどの情報が書かれる。幸貫の巡視は、弘化4年（1847）3月の善光寺地震によって延期されていたが、道の安全や余震が遠のいたことから現地の見分も兼ねて2年後に実施された。本来1週間ほどかけて全領を巡視する予定を、村や財政的な負担を軽減するために、日程や人数を縮小し、3回に分けて行ったのが大きな特徴である。本資料は勘定所役人が調査したもの。

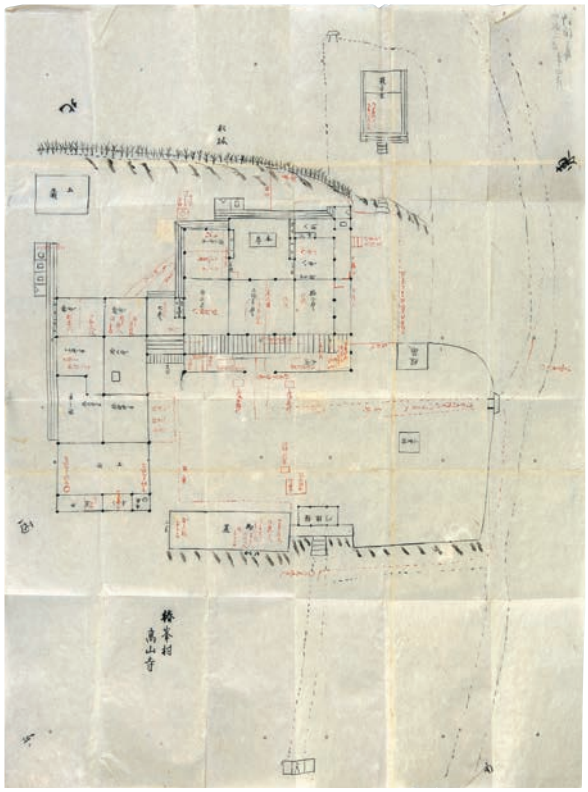


41 （根岸通村 御野掛御通筋凡見取絵図面 参番

椿峯村高山寺より長井村字拾石迄）

酉（嘉永2年）4月　国文学研究資料館

嘉永2年4月26日から27日まで1泊2日で行われた巡視の行程図3枚の内の1枚。朱の貼紙で野立の場所や、遠景を眺める遠見を行う場所が書かれる。土尻川沿いには詳細を記した懸紙がされている。



42 御泊之節椿峯高山寺絵図　嘉永2年（1849）4月

国文学研究資料館

巡視で宿泊する予定の椿峯村高山寺の図面。墨で書かれた図面に、朱で御居間、御次、御用部屋、御膳所、勘定役、郡奉行など部屋の用途と宿泊者が書き込まれる。他に陣幕、提灯、屏風、ゴザ、敷砂、非常用の階段など宿泊当日設置する場所が細かく書かれ、準備には万全が期された。



第三章 城下絵図

城下町は、藩主の居城である城郭を中心に、武家地、町人地、寺社地などから構成された。なかでも城下町に占める武家地の割合は高い。武家屋敷は拝領屋敷といわれ、藩主から家臣に与えられた屋敷であり、町屋敷と違って売買を行うことは原則的に認められていなかった。多くの藩では、地図を用いた管理資料を作成し、絵図をもとに武家地を管理していた。個々の屋敷内に居住者名が表記されている絵図を一般的に屋敷割図と呼び、絵図作成時にだれがどの屋敷に居住しているかを示すものである。武家地は高い流動性があったので、一定の間隔で屋敷割図や城下絵図が新調された。とはいえ、たびたび絵図を新調することは困難であったため、多くは新しい居住者名を紙に記し、貼りつける方法が採られた。

松代藩では、城下の武家屋敷は勘定所、城の北側の河原新田は同所及び代官が担当した（「御尋ニ付申上扣御役方起原より之事実勤方沿革等之儀」『更級埴科地方誌』）城下の水路の一部及び水道（木樋など）は、水道方が管轄した。それぞれの役所では、自らの管理に必要な絵図が作成され、保管されていた。また、一部は共有化され、「松代御家中拝領屋鋪図」（No44～47）のように花の丸御殿の御用部屋置として利用、保管される場合もあった。

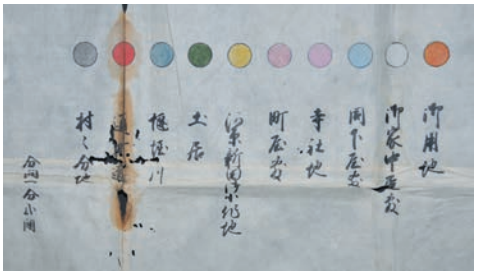
また、藩主の手元には、藩の基本となる城絵図や幕府御用に関する絵図、国役普請、城の修復を幕府に申請した絵図の控などが保管された。保管場所は時代によって変わるが、藩主が政務をとる花の丸御殿や、江戸上屋敷、日記蔵などで保管され、時には検証、引き合わせなどに用いられたと思われる。

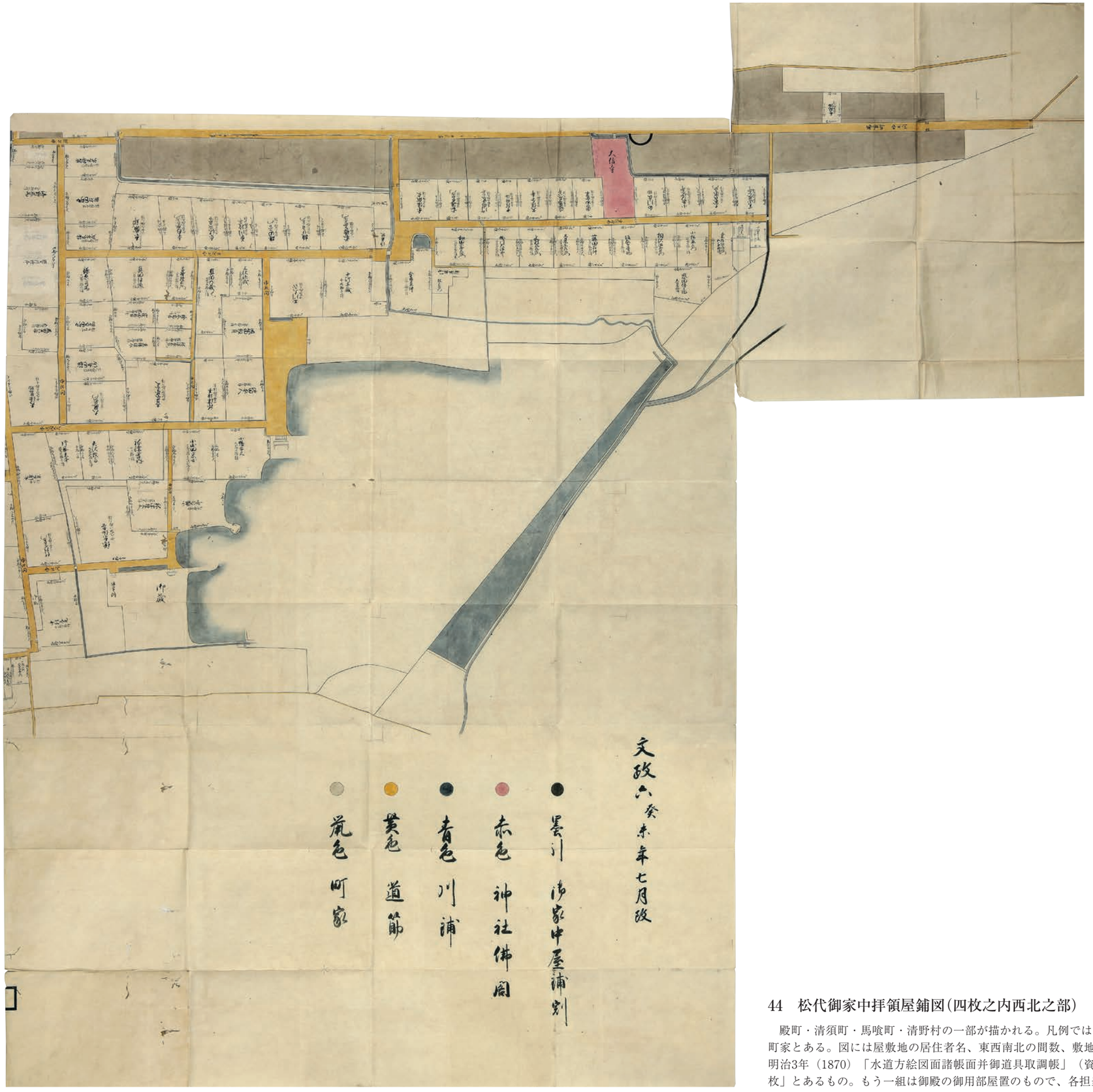
明治四年（一八七一）七月に廃藩置県が行われ、松代藩も松代県となった。同年八月、兵部省により城郭・城地の接収手続きが進められた。明治五年二月、松代(県)庁から現用文書を中心に長野県庁に文書が移管され、松代(県)庁は閉庁となった。明治六年松代城地が払い下げられ、同年十月九日に旧藩主の花の丸御殿は失火で焼失した。藩主の手元に伝わった文書群は、明治十三年（一八八〇）までには真田邸の土蔵に移管された。残りの民政に関する資料群は曲折を経て真田邸二番土蔵一階に納められた。その後昭和二十六年（一九五一）、文部省史料館へ譲渡され、現在の国文学研究資料館所蔵の真田家文書となった。こうしてまとまった絵図資料は、真田宝物館、長野県庁文書を所管する長野県立歴史館、国文学研究資料館の三箇所に伝わった。



43 （松代町絵図） 国文学研究資料館

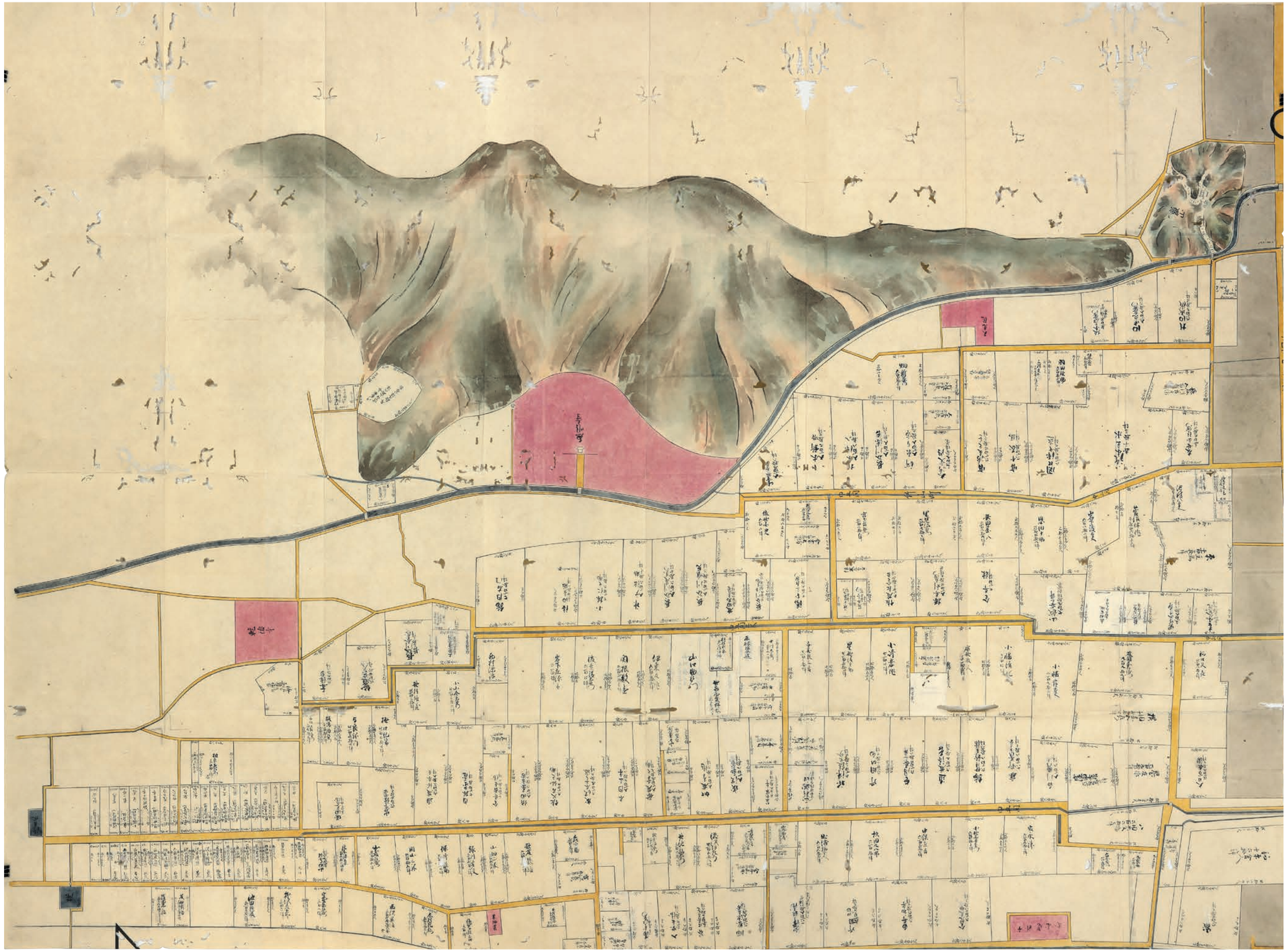
松代城下を一分二間（1／12,000、約3.6mを約0.3cmに換算）の割合で測量した測量図。凡例では御用地、御家中屋敷、同下屋敷、寺社地、町屋敷、河原新田御小作地、土居、堰堀川、通町道、村々分地を色分けして記載している。



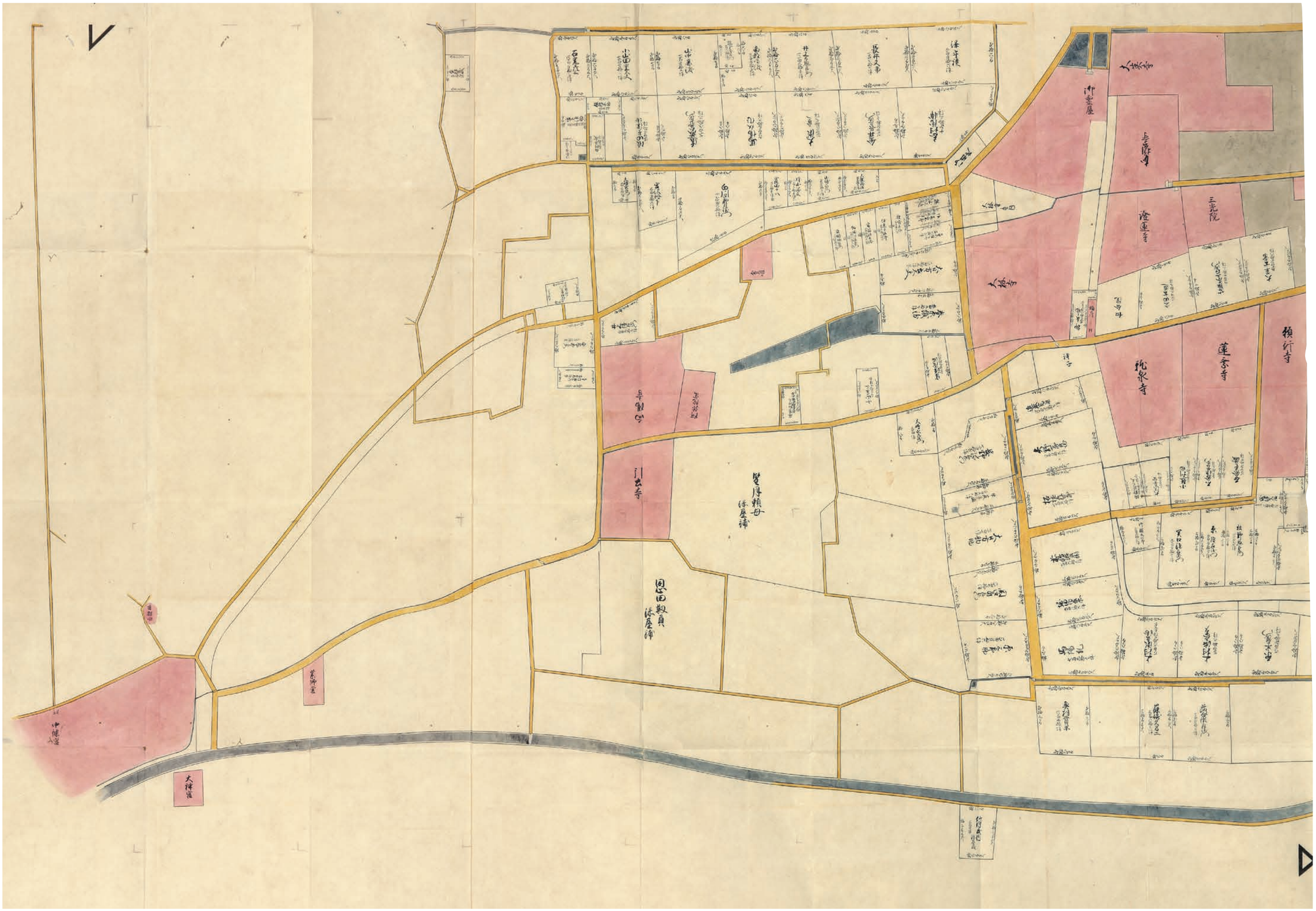


44　松代御家中拝領屋鋪図（四枚之内西北之部）　文政6年(1823)7月改　国文学研究資料館

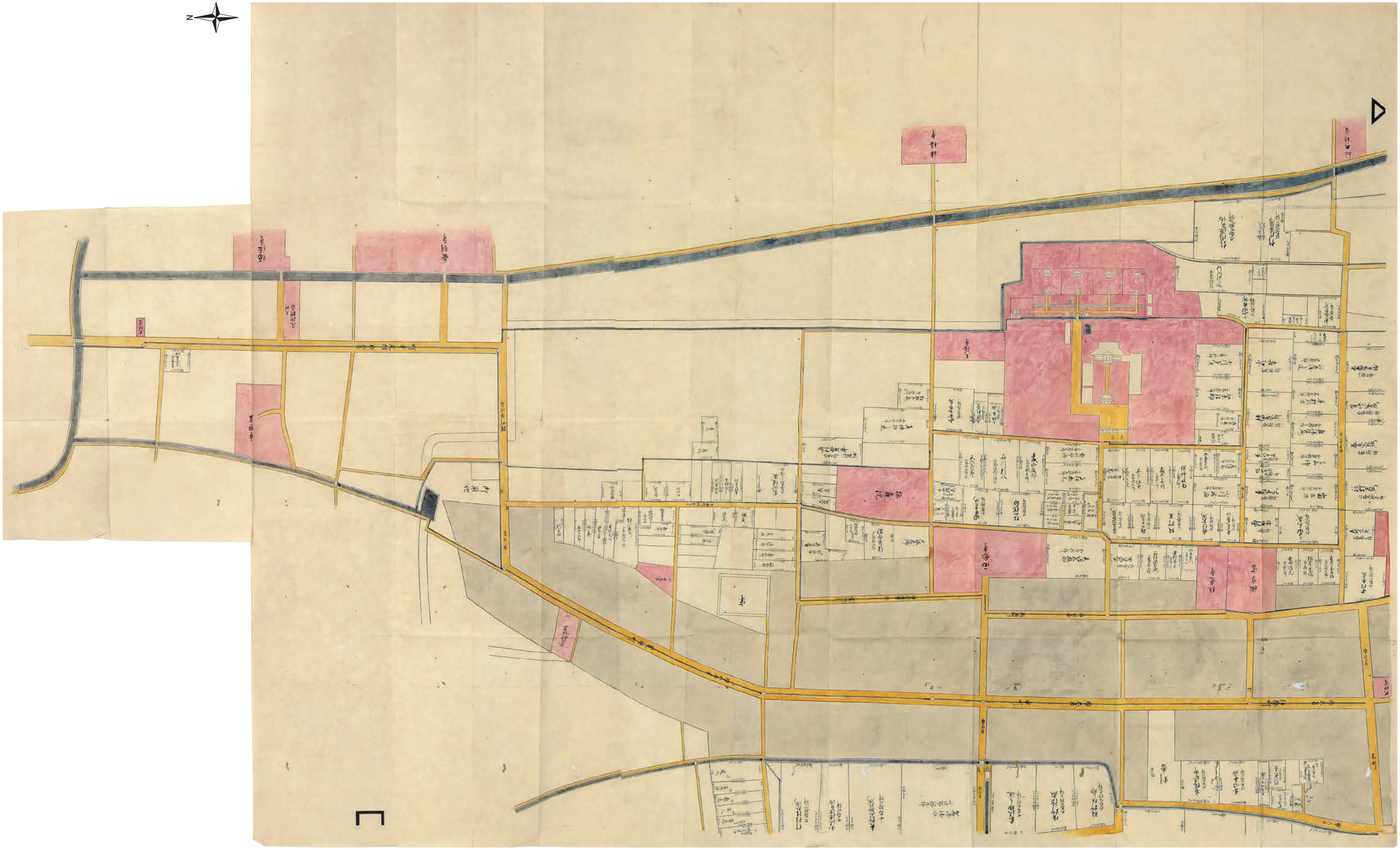
殿町・清須町・馬喰町・清野村の一部が描かれる。凡例では、墨引－御家中屋鋪割、赤色－神社仏閣、青色－川鋪、黄色－道筋、鼠色－町家とある。図には屋敷地の居住者名、東西南北の間数、敷地の坪数が書かれる。本図は2組あり、一つは水道方で所管していた絵図で、明治3年（1870）「水道方絵図面諸帳面并御道具取調帳」（資料編資料③）に「文政六未年御改（御家中拝領屋敷絵図）同断切絵図　四枚」とあるもの。もう一組は御殿の御用部屋置のもので、各担当者が共有した絵図であった。本図は御用部屋置のもの。



45　松代御家中拝領屋鋪図(四枚之内南西之部)　文政6年(1823)7月改　国文学研究資料館　竹山同心町・竹山町・代官町・新代官町・馬場町・馬場町末同心町、裏同心町、表柴町西側、木町の一部が描かれる。一部に後年の貼紙があり、文政6年以降も、現用として利用され続けたことがわかる。



46　松代御家中拝領屋鋪図(四枚之内南東之部)　文政6年(1823)7月改　国文学研究資料館　御用部屋置の切絵図。表柴町東側・裏柴町・四ッ屋・御安口・松山町・袋町・十人町の範囲が描かれる。



47　松代御家中拝領屋鋪図（四枚之内北東之部）　文政6年（1823）7月改　国文学研究資料館　　御用部屋置の切絵図。木町・伊勢町・中町・荒神町・鍛冶町・肴町・下田町が描かれる。



48　松代町割図４（清須町・殿町・片羽町・厩町・伊勢町）　（明治6年頃・1873）　長野県立歴史館

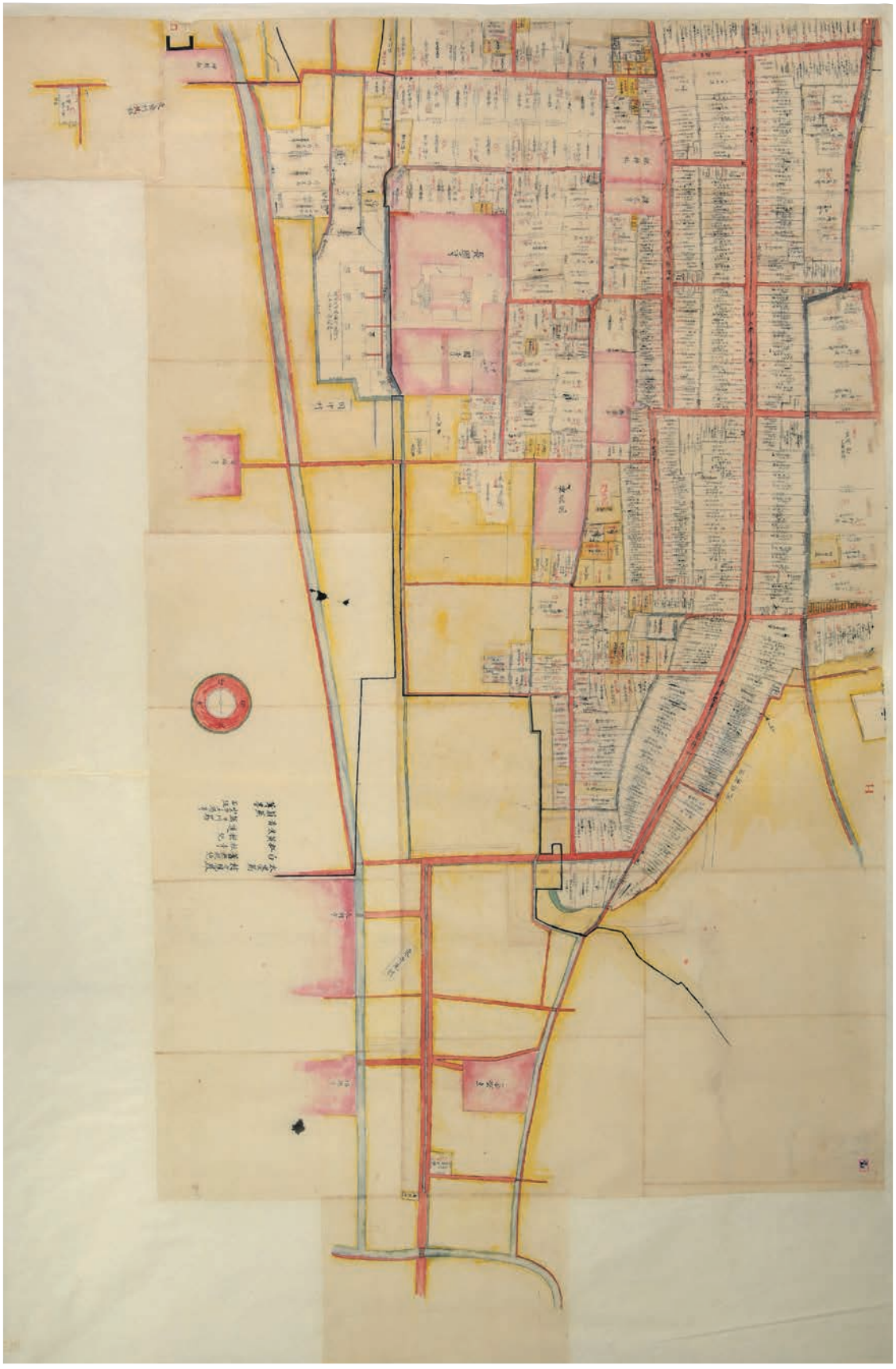
明治6年（1873）の「地租改正」により、土地の所有権が確立する。これにともない、土地一筆ごとに、地番、面積、所有者が決まり、「地券」が発行された。本図は、朱で地番、墨で所有者、土地の面積（坪数）、敷地四方の間数が記される。松代城趾には「紙屋町村」、花の丸御殿の場所には「旧廳・旧知事住居地（四千五百坪余）」の貼紙がある。



49　松代町割図２（表柴町・馬場町・代官町・竹山町・有楽町）　（明治6年頃・1873）　長野県立歴史館

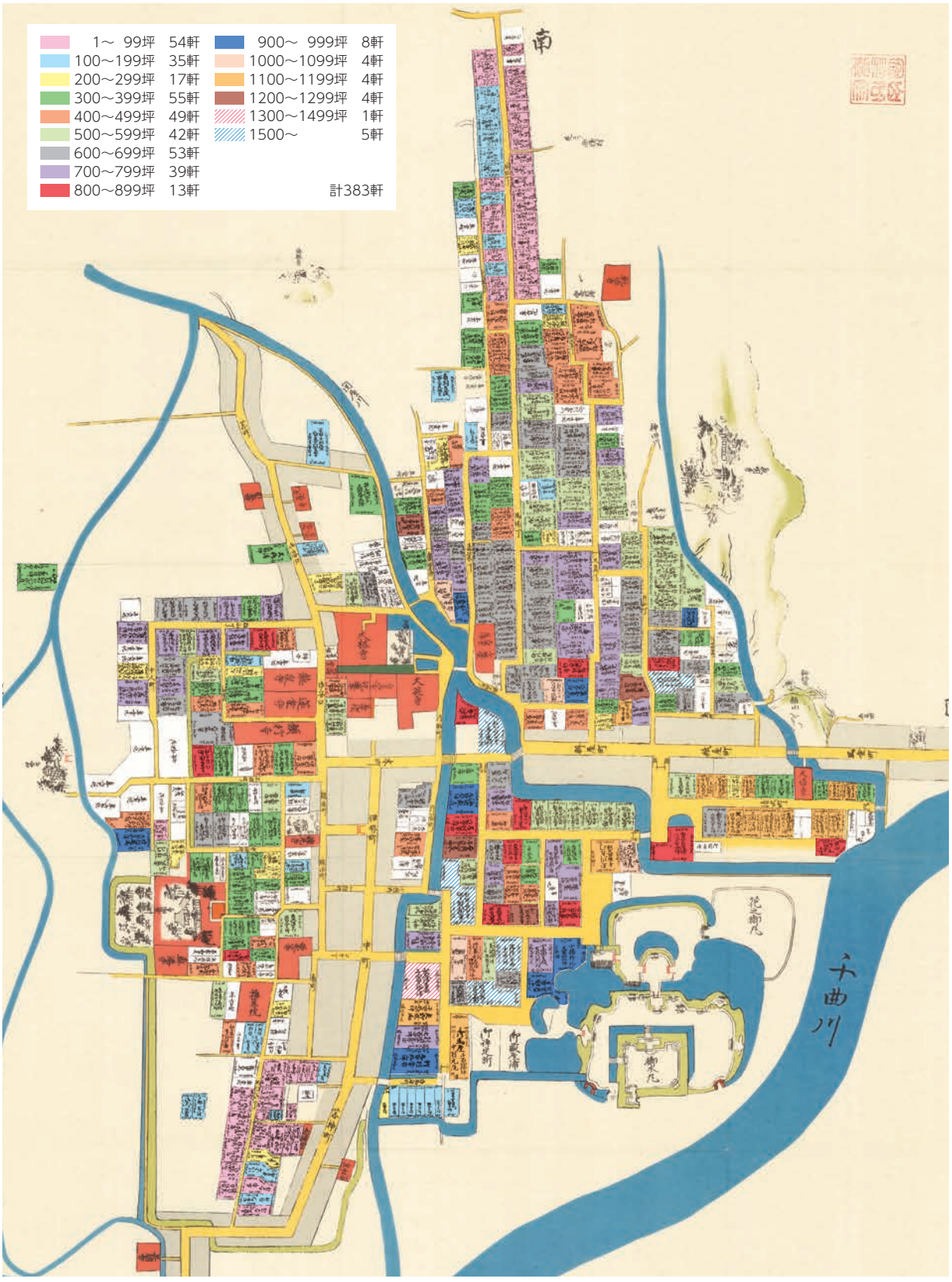


50　松代町割図５（表柴町・裏柴町・四ツ屋町・御安町・石切町・松山町・十人町）
（明治6年頃・1873）　長野県立歴史館



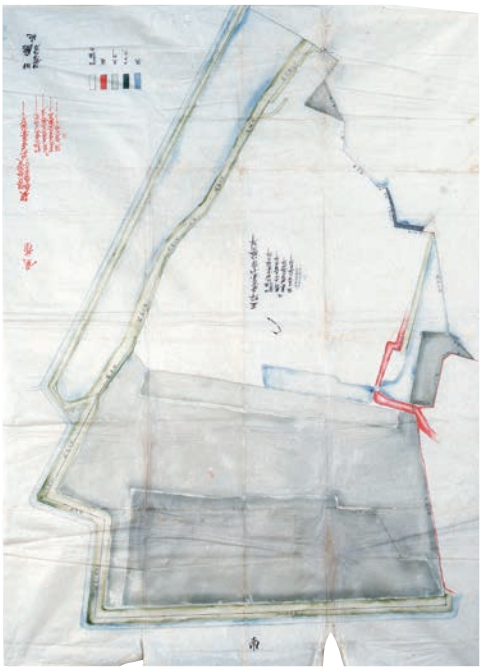
51　松代町割図３（上中下田町・伊勢町・中町・荒神町・鍛冶町・肴町）　（明治6年頃・1873）　長野県立歴史館

凡例には、太墨筋－村々境界、白－旧無税地、紅－社寺、黄－税地、朱－道、青－堀并川筋、萌黄－山土手土揚等、薄墨－石垣とある。方位は東西南北の簡単な表示であるが、方角を指す磁針の書き方は東福寺泰作のものと酷似している。

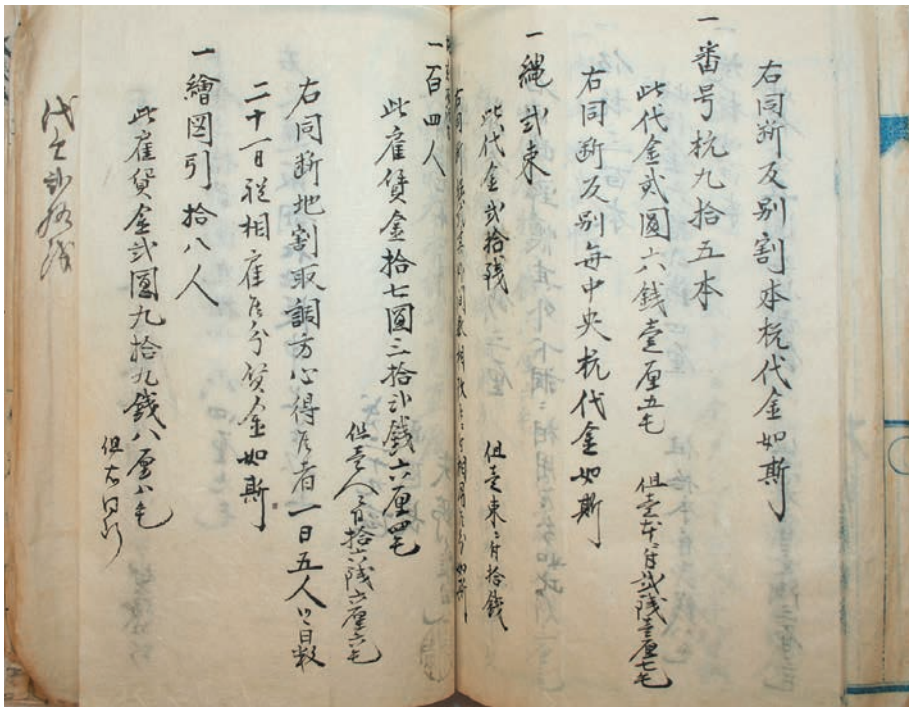


拝領屋敷面積分布図

弘化(1844)～安政(1860)年間の松代城下の拝領屋敷割図をもとに、屋敷の坪数を100坪刻みで色分けしたもの。絵図に坪数が判明する屋敷数は383軒。1,500坪以上5軒(1%)、1300～1499坪·1軒(0.3%)、1200～1299坪·4軒(1%)、1100～1199坪·4軒(1%)、1000坪～1099坪·4軒(1%)、900～999坪8軒(2%)、800～899坪·13軒(3.4%)、700～799坪39軒(10%)、600～69坪が53軒(14%)、500～599坪·42軒(11%)、400～499坪·49軒(13%)、300～399坪·55軒(14.3%)、200～299坪·17軒(5%)、100～199坪·35軒(9%)、1～99坪·54軒(14%)となる。原図には長野県立歴史館所蔵関川文庫·旧藩地明細図(02−M6−4)を使用した。

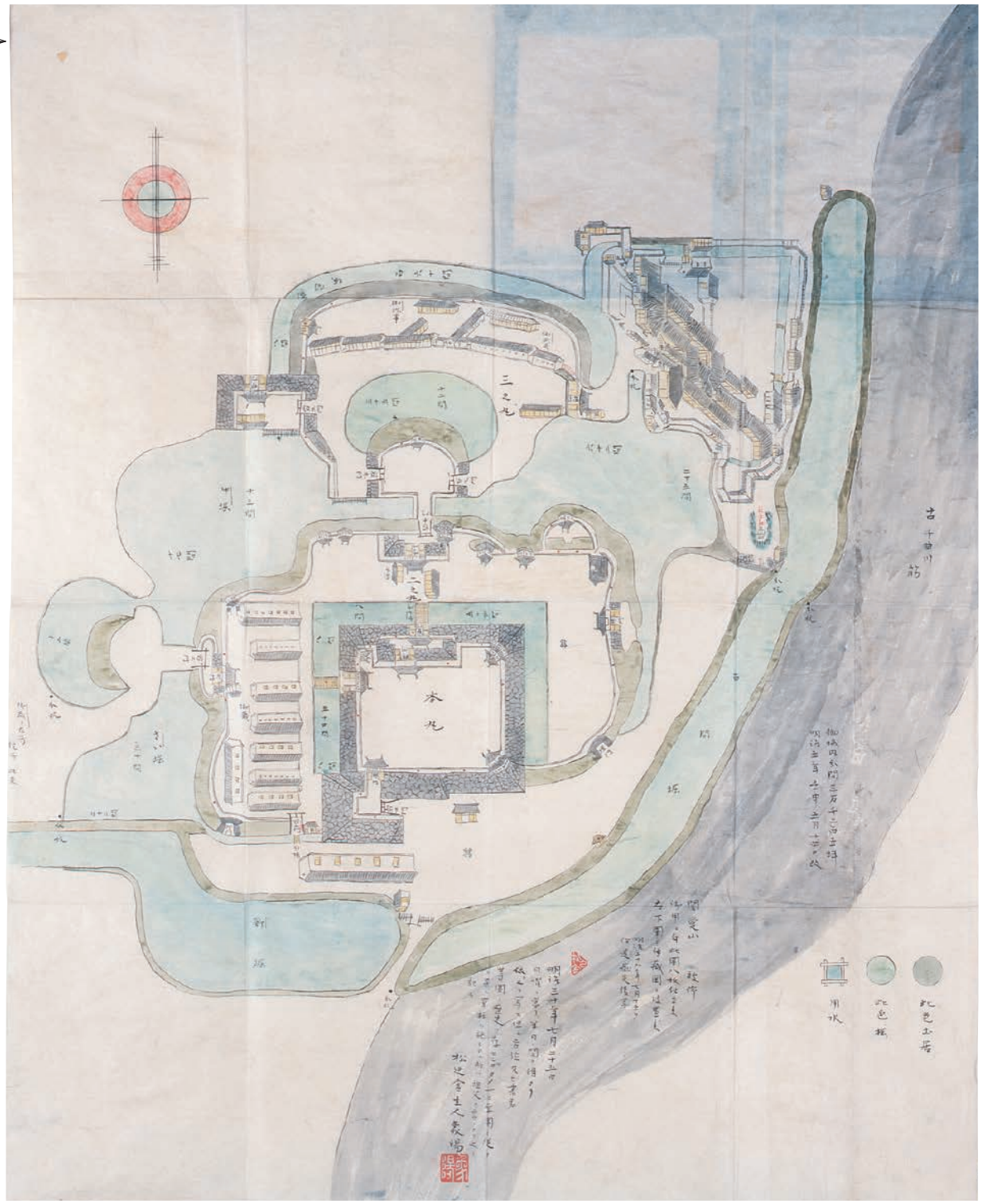






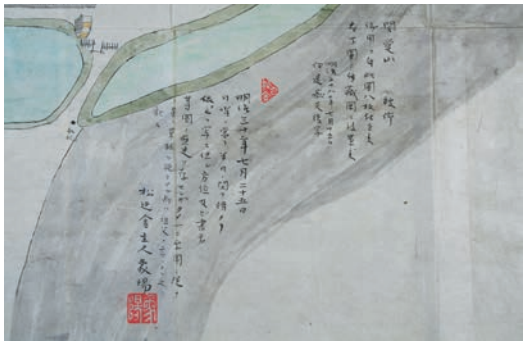
52　旧各藩城郭調並払下地ニ関スル部(全)　明治7年(1874)　長野県立歴史館(長野県行政文書)

長野県地理掛が編冊した行政文書。松代城地の払い下げに当って、城郭内の測量図が作られた。絵図の作成には、地割取調方104人、絵図引人足のべ18人、杭打ち縄張等の人足のべ35人半、境杭や番号杭など杭木795本、内山紙2帖、小盤紙1束、水縄2束、都合金32円92銭4厘9毛の費用がかかったとある。地図作成には、関愛山、東福寺泰作などが参加したと思われる。



53　松代城図　明治30年(1897)写　個人

絵図下の書き込みから、明治5年（1872）5月に関愛山が御用としてこの図を8枚仕立てたことがわかる。明治28年（1895）に伊達嶽友が写し、それを明治30年に松迺舎主人象陽という人物が写した。廃城当時の建物の様子を立体的に知ることができる貴重な図として知られていたが、藩の御次画師が作成にかかわったことが確認された。同様の図は複数確認されている。





54　花鳥図屏風　関愛山筆　明治17年(1884)　個人

関愛山は、松代藩の御次画師。文政 11 年（1828）東寺尾村に生まれ、明治 27年(1894)に亡くなったとされる。『真田家家中明細書』の、関の記述は

・文久3年（1863）3月－一代御目見席、御次画師、但郡方絵図書
・明治2年（1869）9月－改名、・同3年－勤仕並、・同年閏10月右差免、
・同4年8月－一生士族、同年同月民事方出仕

とある。

この屏風は関が明治17年に東京絵書共進会に出品し、入賞したとされる作品。

第四章 資料編

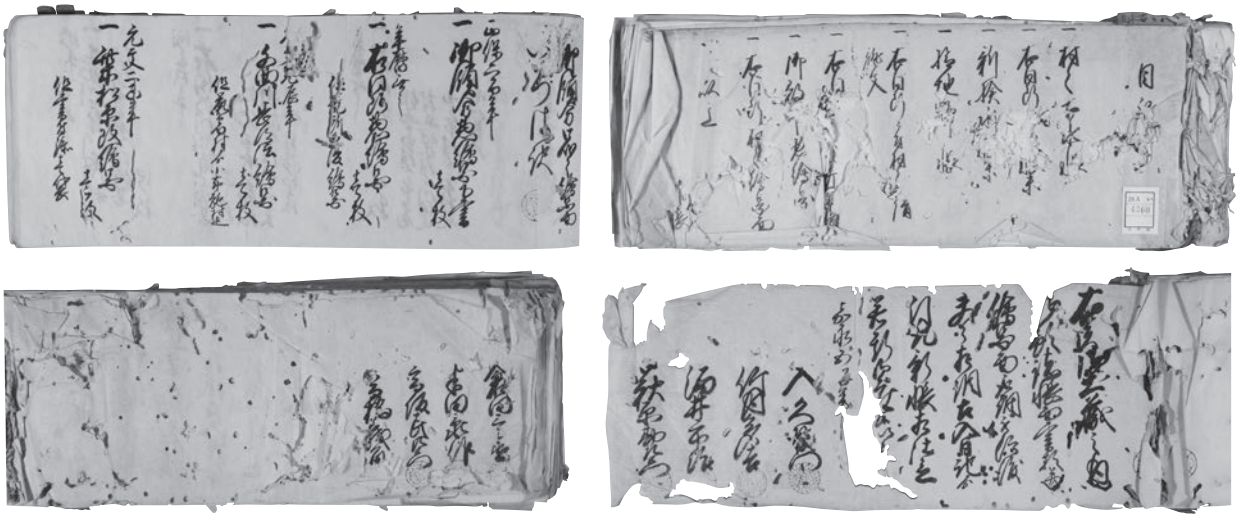


55　松代城大絵図（部分）

絵図が納められていたとされる場所
花の丸御殿（御用部屋ほか）、三の丸御日記蔵、真田邸二番土蔵、御蔵屋敷

資料① （御土蔵之内諸帳面書類并絵図面御預目録） 嘉永5年(1852) 国文学研究資料館

藩の勘定所で作られた諸帳面及び絵図の目録。資料によると、土蔵に御預りしている諸帳面書類並びに絵図面について、古入日記と突き合わせて取り調べ、新帳面を作成したとある。書類を「預」かりと意識している点、「古入日記」と引き合せている点が重要である。嘉永5年は8代藩主真田幸貫が亡くなっており、改めて新帳面の作成が申し渡されたと考えられる。絵図はいろは順にまとめて保管・管理されていた。



国文学研究資料館 真田家文書い4260

表1は資料1に記されている絵図面の一覧である。Noの所が（黒■、グレー■）塗られているものは、現在も国文学研究資料館に所蔵されていることを示す。

資料② 壱 御蔵内日記書類下調 明治13年(1880)10月、
弐 御蔵内日記書類下調 明治14年(1881)11月 国文学研究資料館寄託真田家文書

真田邸の土蔵に納められていた日記など簿冊書類の下調帳。壱にはチ印として「村々絵図面」207件・358点（綴）・2袋。弐には「絵図面の部」とあり、59件・71枚（綴）・7袋の資料が記されている。ここに書かれた多くの資料が、現在国文学研究資料館に所蔵されている。

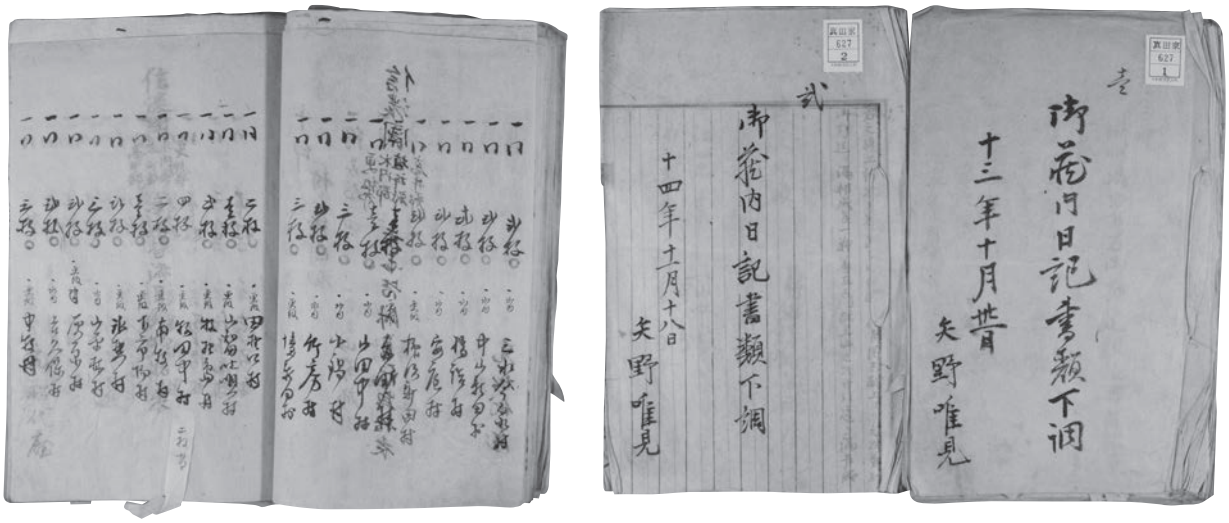


表1　嘉永5年（1852）松代藩所蔵の絵図一覧及び現存絵図との比較

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
	御領分品々絵図面いろは訳			
1	正保2酉年	1645	御領分惣絵図下書	1枚
2	年暦無之		御領分惣絵図	1枚
3	□□辰年		千曲川長道法絵図	1枚
4	元文2巳年	1737	柴松原改絵図	1枚
5	明和2酉年	1765	千曲川犀川両川形并河原間数附絵図	4枚
6	明和3戌年	1766	千曲川犀川両川附荒所絵図	1枚
7	年暦無之		千曲川犀川両川附荒所絵図（雨宮より東寺尾村、柴村より川田、小市村より市村迄）	1枚
8	年暦無之		紙屋町□所絵図	1枚
9	文政2卯年	1819	小布施村地並絵図	12枚
	〆9筆			
	□地其外品々絵図面			
	いの部			
10	宝暦3酉年	1753	市村地押絵図面	1枚
11	宝暦3酉年	1753	岩野村地押絵図面	1枚
12	明和3戌年	1766	岩野村正源寺除地引替改絵図面	2枚
13	宝暦13未年	1763	石渡村地押絵図面	1枚
14	明和2酉年	1765	生萱村絵図面	1枚
15	明和2酉年	1765	稲積村絵図面	1枚
16	明和2酉年	1765	石川村絵図面	1枚
17	寛政1酉年	1789	稲積村地押絵図面	1枚
18	宝暦5亥年	1755	岩草村地押絵図面	1枚
19	宝暦14申年	1764	泉平村地押絵図面	1枚
20	明和2年酉年	1765	五十里村絵図面	1枚
21	明和2年酉年	1765	伊折村絵図面	1枚
22	寛政6寅年	1794	入山村地押絵図面	1枚
23	明和4亥年	1767	五十平村地押絵図面	1枚
24	明和5子年	1768	飯縄山論御裁許絵図面	1枚
	〆15筆			
	はノ部			
25	明和2酉年	1765	羽尾村絵図面	1枚
26	明和2酉年	1765	原村絵図面	1枚
27	明和2酉年	1765	灰原村絵図面	1枚
28	宝暦8寅年	1758	橋詰村地押絵図面	1枚
	〆4筆			
	にの部			
29	宝暦12午年	1762	西条村神田川古川敷絵図面	1枚
30	明和4亥年	1767	西條村乾徳寺前除地絵図面	
31	明和2酉年	1765	西寺尾村絵図面	1枚
32	明和8卯年	1771	仁礼村古道形見分絵図面	
33	明和2酉年	1765	仁礼村絵図面	1枚
34	天明3卯年	1783	西和田村地押絵図面	1枚
35	天保4巳年	1833	西寺尾村有地御改絵図面	1枚
	〆7筆			
	との部			
36	宝暦12午年	1762	東福寺村・中沢村地押絵図	1枚
37	明和2酉年	1765	土口村絵図面	1枚
38	（天明）2寅年	1782	土口村字和七嶋開発場絵図	1枚
39	明和年中	1764~72	栃原村絵図面	1枚
40	明和2酉年	1765	栃原村絵図面	1枚
41	文政13寅年	1830	東福寺村･中沢村開発冥加籾之場所絵図面	1枚
	〆6筆			
	ちの部			
42	明和2酉年	1765	力石村絵図面	1枚
43	安永7戌年	1778	力石村・山田村地境内済絵図面	1枚
44	明和2酉年	1765	地京原村絵図面	1枚
	〆3筆			

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
	をの部			
45	寛政2戌年	1790	小沼村絵図面	1枚
46	明和2酉年	1765	小沼村絵図面	1枚
47	寛政9巳年	1797	小沼村惣耕地改地引絵図面	1枚
48	宝暦3酉年	1753	大室村絵図面	1枚
49	宝暦6子年	1756	大室村・牧嶋村境改絵図面	1枚
50	宝暦6子年	1756	大室村新田絵図面	1枚
51	宝暦6子年	1756	大室村地押絵図面	1枚
52	宝暦12午年	1762	大室村砂溜高請絵図面	1枚
53	明和9辰年	1772	大室村高請絵図面	1枚
54	安永5申年	1776	大室村野山絵図面	2枚
55	宝暦13未年	1763	小河原村地押絵図面	1枚
56	文化14丑年	1817	小河原村東組訳絵図面	1枚
57	宝暦3酉年	1753	御裏河原新田畑方絵図面	1枚
58	宝暦10辰年	1760	御城裏御前栽小作人高請絵図面	1枚
59	寛政9巳年	1797	御城裏御前栽四人之者高請絵図面	1枚
60	明和2酉年	1765	小島田村絵図面	1枚
61	明和2酉年	1765	小島田村地押絵図面	1枚
62	明和2酉年	1765	小布施村吉嶋絵図面	1枚
63	明和2酉年	1765	小布施村書上絵図面	1枚
64	明和3戌年	1766	小布施村栗御林絵図面	1枚
65	明和9辰年	1772	小布施村御林絵図面	1枚他4通
66	明和7寅年	1770	御料所小布施村内済絵図面	1枚
67	寛政12申年	1800	小布施村地割高請絵図面	1枚
68	文政1寅年	1818	小布施高請改絵図面	1枚
69	明和4亥年	1767	大塚村地押絵図面	1枚
70	享和3亥年	1803	大塚村引高場所見分絵図面	1枚
71	明和2酉年	1765	御平川村絵図面	1枚
72	文化4卯年	1807	御平川村地押絵図面	1枚
73	明和2酉年	1765	大熊村絵図面	1枚
74	安永3午年	1774	大池新田村絵図面	1枚
75	文化11戌年	1814	大池新田村絵図面	1枚
76	安永3午年	1774	小網御林道橋方より引渡絵図面	1枚
77	安永3午年	1774	小網御林之内新田開発場改絵図面	1枚
78	安永5申年	1776	押鐘村地押絵図面	1枚
79	明和1申年	1764	大岡村地押絵図面	1枚
80	宝暦2申年	1752	大原村地押絵図面	1枚
81	明和8卯年	1771	大原村高請絵図面	1枚
82	明和2酉年	1765	小根山村絵図面	1枚
83	明和5子年	1768	小根山村絵図面	1枚
84	明和2酉年	1765	追通村絵図面	1枚
85	天保5午年	1834	大瀧絵図面（厚蓮願之事）	1枚
	〆44筆			
	わノ部			
86	明和2酉年	1765	若宮村絵図面	1枚
87	明和3戌年	1766	若宮村切川筋高請絵図面	1枚
88	天明2寅年	1782	若宮村八幡社領除地絵図面	1枚
89	明和2酉年	1765	和佐尾村絵図面	1枚
90	文政1寅年	1818	和佐尾村覆場所割地絵図面	1枚
	〆5筆			
	か之部			
91	延享4卯年	1747	河合村絵図面	1枚
92	明和2酉年	1765	河合村地押絵図面	1枚
93	宝暦13未年	1763	河合村河原新田御小作地絵図面	23枚
94	宝暦13未年	1763	上高田村地押絵図面	1枚
95	明和2酉年	1765	欠村絵図面	1枚
96	明和2酉年	1765	加賀井村絵図面	1枚
97	明和2酉年	1765	上布施村絵図面	1枚

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
98	明和2酉年	1765	風間村絵図面	1枚
99	明和2酉年	1765	上五明村絵図面	1枚
100	文政5午年	1822	上五明村地押絵図面	1枚
101	文政5午年	1822	上五明飛地山廣地絵図面	1枚
102	文政5午年	1822	上五明地並絵図面	1枚
103	明和2酉年	1765	上山田村絵図面	1枚
104	年暦無之		上山田村河原裏之分絵図面	1枚
105	安永5申年	1776	上宇木村・下宇木村地押絵図面	1枚
106	寛政6寅年	1794	上五明村・網掛村御裁許絵図面	1枚
107	文化12亥年	1815	開善寺前御馬場絵図面	2枚
108	明和2酉年	1765	上条村絵図面	1枚
109	明和2酉年	1765	鹿谷村絵図面	1枚
110	明和2酉年	1765	軽井沢村絵図面	1枚
111	明和2酉年	1765	上祖山村絵図面	1枚
112	明和9辰年	1772	上祖山村絵図面	1枚
113	文化15寅年	1818	川合村絵図面	1枚
114	文政13寅11月	1830	上祖山村他山論裁許絵図面	1枚
115	天保5午年	1834	上横田村絵図面	1枚
116	天保5午年	1834	郡村和田与惣右衛門御除地改絵図面	1枚
117	(記載なし)		御城下河原新田明屋敷御年貢地御小作地共見分地引帳壱帳并下絵図面１枚	1枚
118	(弘化)3午年	1846	御裏河原新田絵図面	1枚
119	天明4辰年	1784	御城下河原新田明屋敷御年貢地御小作地同家中屋敷見分絵図面	
	〆29筆			
120	安政2卯年	1855	加賀井村御焔硝庫絵図面	1枚
	よの部			
121	明和2酉年	1765	横田村絵図面	1枚
122	(安永5)申年	1776	横田村、雨宮村５ヵ郷地境見分絵図面	1枚
123	明和2酉年	1765	四ツ屋村絵図面	1枚
124	文政2卯年	1819	四ツ屋村地押絵図面	1枚
125	明和4亥年	1767	吉田村地押絵図面	1枚
126	明和2酉年	1765	吉原村絵図面	1枚
127	明和4亥年	1767	吉窪村地押絵図面	1枚
128	(記載なし)		四郡絵図面	1枚
	〆8筆			
	たの部			
129	明和2酉年	1765	(牧)田中村絵図面	1枚
130	明和2酉年	1765	田中村竹内平七屋敷添絵図面	1袋
131	文化14卯(ママ)改	1817	田中村浄福寺境内高地再改絵図面	1枚
132	文政5午年	1822	丹波島村地押絵図面	1枚
133	文化7午年	1810	丹波島村絵図面	2枚
134	宝暦4戌年	1754	竹生村町組分絵図面	1枚
135	文化1子年	1804	竹生村荒地起返見分絵図面	1枚
136	明和2酉年	1765	大安寺村絵図面	1枚
137	明和2酉年	1765	竹房村絵図面	1枚
138	明和2酉年	1765	高野村絵図面	1枚
139	天明5巳年	1785	高野村町屋平開発高請絵図面	1枚
140	明和2酉年	1765	丹波島村絵図面	1枚
	〆12筆			
	その部			
141	明和2酉年	1765	迯目村絵図面	1枚
142	年暦無之		迯目村絵図面	1枚
143	天明2寅年	1782	迯目村地押絵図面	1枚
	〆3筆			
	つの部			
144	宝暦5亥年	1755	綱嶋村地押絵図面	1枚
145	宝暦5亥年	1755	綱嶋村・四ツ屋村望月治部左衛門二百石分永荒所絵図面	1枚
146	宝暦6子年	1756	妻科村論所絵図面	2枚
147	明和2酉年	1765	妻科村絵図面	1枚

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
148	明和2酉年	1765	坪祢村地押絵図面	1枚
149	明和2酉年	1765	椿峯村絵図面	1枚
150	明和2酉年	1765	立屋村絵図面	1枚
	〆7筆			
	ねの部			
151	元文5申年	1740	鼠宿村御料所入交絵図面	1枚
152	明和2酉年	1765	鼠宿村・新地村絵図面	1枚
153	明和2酉年	1765	念仏寺村絵図面	1枚
	〆3筆			
	なの部			
154	宝暦13未年	1763	中俣村地押絵図面	1枚
155	年暦無之午改		中俣村絵図面	1枚
156	(文化カ)9申年	1812	中俣村地押絵図面	1枚
157	明和4亥年	1767	中越村地押絵図面	1枚
158	安永4未年	1775	中御所村地押絵図面	1枚
159	安永年中	1772~1781	中御所村御料所箇所長絵図面	1枚
160	記載なし		(中御所村絵図面 カ)	1枚
161	宝暦4戌年	1754	夏和村地押絵図面	1枚
162	文化1子年	1804	夏和村荒起返見分絵図面	1枚
163	明和2酉年	1765	中山新田村絵図面	1枚
164	明和2酉年	1765	奈良井村絵図面	1枚
165	明和2酉年	1765	中條村絵図面	1枚
166	寛政4子年	1792	中條村地押絵図面	1枚
167	(明和2カ)酉年	1765	長井村地押絵図面	1枚
	〆14筆			
	むの部			
168	明和2酉年	1765	向八幡村絵図面	1枚
	〆1筆			
	うの部			
169	宝暦6子年	1756	牛島村地押絵図面	1枚
170	明和2酉年	1765	内川村絵図面	1枚
171	安永8亥年	1779	内川村地押絵図面	1枚
172	明和3戌年	1766	上松村地押絵図面	1枚
173	明和2酉年	1765	上平村絵図面	1枚
174	天明6午年	1786	上平村地押絵図面	1枚
175	寛政9巳年	1797	上平村瀬左衛門指上山絵図面	1枚
176	明和2酉年	1765	梅木村絵図面	1枚
177	文政1寅年	1818	表柴町上絵図面	1封
178	明和3戌年	1766	上松村絵図面	1枚
179	弘化3午年	1846	八拾八割御裏古川敷絵図面	1枚
	〆11筆			
	くの部			
180	宝暦6子年	1756	久保寺村地押絵図面	1枚
181	安永4未年	1775	倉科村地押絵図面	1枚
182	天明5巳年	1785	倉科村絵図面	1枚
183	明和2酉年	1765	倉並村地押絵図面	1枚
184	明和2酉年	1765	桑祢井村絵図面	1枚
185	嘉永1申年	1848	倉科村未之吉就山之場所絵図面	1枚
	〆6筆			
	やの部			
186	文化12亥年	1815	八幡村・志川村・郡村入会見分絵図面	1枚
187	安永3午年	1774	八幡村･志川村･郡村八幡社領色訳絵図面	1枚
188	文化14丑年	1817	八幡村･志川村･郡村川辺通見分絵図面	1枚
189	明和2酉年	1765	矢代村絵図面	1枚
190	宝暦7丑年	1757	山田中村地押絵図面	1枚
191	明和1申年	1764	山布施村之内笹平村草苅場絵図面	1枚
192	文化3寅年	1806	山布施村之内山村山分絵図面	1枚
193	明和2酉年	1765	山平林村絵図面	1枚
194	明和2酉年	1765	安庭村絵図面	1枚
195	明和2酉年	1765	山上条村絵図面	1枚
196	明和2酉年	1765	山穂苅村絵図面	1枚

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
197	明和2酉年	1765	山和田村・吐唄村絵図面	1枚
198	文政3辰年	1820	柳沢新田村地押絵図面	1枚
199	安永3午年	1774	八幡村地改付八幡宮社領弐百石分田畑毎ヶ所改明細絵図面	1函
200	文政7申年	1824	矢代村分間地並絵図面	2枚
201	天保12丑年	1841	山村山村地附山之内御林絵図面	1枚
202	明和2酉年	1765	柳沢新田村絵図面	1枚
203	天保3辰年	1832	矢代・塩崎・栗佐・上横田四ヶ村論所分間絵図面	
	〆18筆			1枚
204	元治1子年	1864	山平林村岩倉組孫瀬組□相改絵図面	1枚
	まの部			
205	宝暦3酉年	1753	町川田村地押絵図面	1枚
206	年暦無之		町川田村町割絵図面	1枚
207	明和8卯年	1771	町川田村高請絵図面	1枚
208	明和8卯年	1771	町川田村高請絵図面	1枚
209	文化5辰年	1808	町川田村堰代之絵図面	1枚
210	安永6酉年	1777	町川田村・東川田村砂溜内済絵図面	1枚
211	宝暦6子年	1756	牧嶋村地押絵図面	1枚
212	宝暦6子年	1756	牧嶋村絵図面	1枚
213	宝暦7丑年	1757	真嶋村地押絵図面	1枚
214	明和2酉年	1765	松岡新田村絵図面	1枚
215	寛政11未年	1799	松岡新田村地押絵図面	1枚
216	明和2酉年	1765	牧内村絵図面	1枚
217	天保2卯年	1831	牧内村有地改絵図面	1枚
218	天保2卯年	1831	牧内村入会山絵図面	1枚
219	明和2酉年	1765	大豆島村絵図面	1枚
220	寛政5丑年	1793	大豆島村地蔵堂引堂願絵図面	1枚
221	寛政11未年	1799	大豆島村地押絵図面	1枚
222	安永4未年	1775	檀田村地押絵図面	1枚
223	明和2酉年	1765	牧野嶋村・下市場村絵図面	1枚
224	明和2酉年	1765	牧田中村絵図面	1枚
225	文政11子年	1828	町川田村地改絵図面	1枚
	〆21筆			
	ふの部			
226	延享5辰年	1748	二ツ柳村絵図面	1枚
227	宝暦3酉年	1753	福嶋村新田絵図面	1枚
228	明和2酉年	1765	福嶋村絵図面	1枚
229	宝暦4戌年	1754	布施五明村絵図面	1枚
230	明和2酉年	1765	布施高田村絵図面	1枚
231	明和2酉年	1765	藤牧村絵図面	1枚
232	安永9子年	1780	町川田村・古間村砂溜高請絵図面	1枚
233	明和4亥年	1767	深沢村地押絵図面	1枚
234	明和2酉年	1765	古間村地押絵図面	1枚
235	明和2酉年	1765	二ツ柳村絵図面	1枚
236	文政13寅年	1830	二ツ柳村地押絵図面	1枚
	〆11筆			
	この部			
237	元禄7戌年	1694	小市村・今里村山論御裁許絵図面	1枚
238	明和2酉年	1765	小市村絵図面	1枚
239	文政3辰年	1820	小市村地押村絵図	1枚
240	文政3辰年	1820	小市村称名寺・無常院絵図面	1枚
241	宝暦4戌年	1754	小嶋村地押村絵図	1枚
242	明和3戌年	1766	小柴見村地押村絵図	1枚
243	明和2酉年	1765	小鍋村地押村絵図	1枚
244	明和2酉年	1765	越道村絵図面	1枚
245	明和2酉年	1765	小田原村絵図面	1枚
246	寛政1酉年	1789	小松原村絵図面	1枚
247	明和2酉年	1765	小松原村絵図面	1枚
248	寛保3亥年	1743	幸高村荒所絵図面	1枚
249	明和2酉年	1765	幸高村絵図面	1枚

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
250	明和9辰年	1772	幸高村荒所開発絵図面	1枚
251	明和2酉年	1765	小森村絵図面	1枚
252	明和2酉年	1765	腰村絵図面	1枚
253	安永4未年	1775	腰村久西・久保山絵図面	1枚
254	安永8亥年	1779	腰村地押村絵図	1枚
255	天保12丑年	1841	小市村塚田源吾御年貢山絵図面	1枚
256	天保14卯年	1843	小市村新水溜池敷絵図面	1枚
257	弘化4未年	1847	虚空蔵山抜出水湛場絵図面	2枚
	〆21筆			
	あの部			
258	宝暦9卯年	1759	雨宮村高請場絵図面	1枚
259	明和2酉年	1765	雨宮村絵図面	1枚
260	安永3午年	1774	雨宮村５ヵ郷入会願絵図面	絵図不相見
261	安永7戌年	1778	雨宮村論所引上絵図面	1枚
262	(寛政カ)11未年	1799	雨宮村両横田村境内済見分絵図面	1枚
263	宝暦6子年	1756	青木嶋村地押絵図面	1枚
264	明和2酉年	1765	相野嶋村絵図面	1枚
265	明和2酉年	1765	会村絵図面	1枚
266	明和2酉年	1765	粟佐村絵図面	1枚
267	安永3午年	1774	粟佐村・杭瀬下村論所絵図面	2枚
268	明和2酉年	1765	新山村絵図面	1枚
269	年暦無之		新山村高請絵図面	1枚
270	明和2酉年	1765	網掛村絵図面	1枚
271	文政5午年	1822	網掛村地押絵図面	1枚
272	明和2酉年	1765	新安村絵図面	1枚
273	明和2酉年	1765	赤田村絵図面	1枚
274	安永9子年	1780	赤田村地押絵図面	1枚
275	明和2酉年	1765	青木村絵図面	1枚
276	明和2酉年	1765	上ケ屋村七ヶ村入会山境筋改絵図面	1枚
277	安永2巳年	1773	上ケ屋村地押絵図面	1枚
278	文政7申年	1824	青池村有地改絵図面	1枚
	〆21筆			
279	安政4巳年御預り	1857	相野嶋村境筋立合見分絵図面１枚并済口證文共封壱通	1枚
280	弘化5申年	1848	赤野田新田村内山絵図面	1枚
	さの部			
281	明和2酉年	1765	里村山村地押絵図面	1枚
282	明和2酉年	1765	佐野村絵図面	1枚
283	明和2酉年	1765	笹平村絵図面	1枚
284	明和2酉年	1765	三水村・今泉村絵図面	1枚
285	明和2酉年	1765	境新田村絵図目	1枚
286	安永2巳年	1773	桜村地押絵図面	1枚
287	天保14卯年	1843	境新田村建札改絵図面	1枚
	〆7筆			
	きの部			
289	元文5申年	1740	清野村中嶋新田改絵図面	1枚
290	宝暦12午年	1762	清野村地押絵図面	1枚
291	宝暦13未年	1763	清野村三ヵ村江渡置分絵図面	1枚
292	明和6丑年	1769	清野村赤坂土手形堰形除高請之分絵図面	1枚
293	明和8卯年	1771	清野村・杵渕・西寺尾高請改之分絵図面	1枚
294	宝暦8寅年	1758	北高田村地押絵図面	1枚
295	宝暦12午年	1762	杵渕村砂溜高請之分絵図面	1枚
296	明和2酉年	1765	北徳間村絵図面	1枚
297	明和2酉年	1765	北長池村地押絵図面	1枚
298	明和2酉年	1765	鬼無里村絵図面	1枚
299	安永10丑年	1781	北郷村地押絵図面	1枚
300	明和3戌年	1766	桐原村地押絵図面	1枚
301	明和3戌年	1766	北堀村地押絵図面	1枚
302	明和3戌年	1766	北平林村地押絵図面	1枚
303	安永9子年	1780	北徳間村地押絵図面	1枚
304	安永5申年	1776	北山田村地押絵図面	1枚

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
305	安永6酉年	1777	北東条村地押絵図面	1枚
306	天明6午年	1786	北尾張部村地押絵図面	1枚
307	明和5子年	1768	鬼無里村絵図面	1枚
308	天保7申年	1836	清野村新田地続改直絵図面	1枚
309	天保12丑年	1841	杵渕村有地改絵図面	1枚
	〆21筆			
	ゆの部			
310	安永3午年	1774	湯田中村・沓野村絵図面	1枚
311	安永4未年	1775	湯田中村地押絵図面	1枚
	〆2筆			
	みの部			
312	宝暦9卯年	1759	三輪村新堰土手見分絵図面	1枚
313	宝暦13未年	1763	三輪村地押絵図面	1枚
314	明和2酉年	1765	南長池村地押絵図面	1枚
315	明和2酉年	1765	南堀村地押絵図面	1枚
316	安永5申年	1776	南俣村地押絵図面	1枚
317	宝暦2申年	1752	南牧村地押絵図面	1枚
318	宝暦12午年	1762	宮野尾村地押絵図面	1枚
319	明和2酉年	1765	水内村絵図面	1枚
320	寛政5丑年	1793	水内村峯組引高起地之絵図面	1枚
	〆9筆			
	しの部			
321	宝暦12午年	1762	柴村砂溜高請分絵図面	1枚
322	明和2酉年	1765	柴村絵図面	1枚
323	宝暦6子年	1756	下高田村地押絵図面	1枚
324	明和2酉年	1765	下高田村絵図面	1枚
325	宝暦11巳年	1761	下小島田村砂溜高請分絵図面	1枚
326	宝暦13未年	1763	新田川合村地押絵図面	1枚
327	宝暦13未年	1763	新田川合村砂溜高請分絵図面	1枚
328	宝暦13未年	1763	新田川合村論所案内之分絵図面	1枚
329	安永3午年	1774	新田川合村・市村地境改絵図面	1枚
330	明和2酉年	1765	下氷鉋村絵図面	1枚
331	宝暦14申年	1764	下祖山村入会山改之絵図面	1枚
332	明和2酉年	1765	下祖山村絵図面	1枚
333	明和2酉年	1765	志垣村絵図面	1枚
334	明和2酉年	1765	新町村絵図面	1枚
335	明和8卯年	1771	新町村･奈良井村･小鍋村･八町村絵図面	1枚
336	文政2卯年	1819	新田川合村地押絵図面	1枚
337	文政3辰年	1820	下高田村地押絵図面	1枚
338	文政3辰年	1820	下布施村地押絵図面	1枚
339	弘化4未年	1847	下越村地押絵図面	1枚
	〆19筆(20筆)		(朱書訂正)	
	ひの部			
340	宝暦6子年	1756	東川田村地押絵図面	1枚
341	安永4未年	1775	東川田村・腰村・新山村高請絵図面	1枚
	以下欠損あり		以下欠損あり	
342	宝暦□□年		(東条村カ) 地押絵図面	1枚
343	宝暦□□年		(東条村関屋川敷之分并中条宮より御安口迄東川田村絵図面)	1枚
344	宝暦□□年		東条村地押絵図 (実相院寺地、千本柳村小絵図共)	1枚
345	文政2卯年	1819	東寺尾村絵図面	1枚
346	天保7申年	1836	東寺尾村改絵図面	1枚
347	明和2年酉年	1765	氷熊村絵図面	1枚
348	明和2年酉年	1765	久木村絵図面	1枚
349	明和2年酉年	1765	日影村絵図面	1枚
350	明和2年酉年	1765	日名村絵図面	1枚
	欠損		欠損	
	もの部			
351	明和2年酉年	1765	森村絵図面	1枚
352	嘉永1申年	1848	森村絵図面	1枚

No.	和　暦	西暦	絵　図　名	枚数
353	虫欠		茂菅村絵図面	1枚
	欠損		欠損	
	せの部			
354	虫損		仙仁村絵図面	1枚
355	明和2年酉年	1765	仙仁村絵図面	1枚
	欠損		欠損	
356	安永3午年	1774	千本柳･上徳間村･網掛村3ヵ村絵図面	
357	明和2酉年	1765	(関屋村) 絵図面	1枚
358	文化11戌年	1814	(関屋村関屋川敷之分中条宮絵図面	1封
359	(安永)2巳年	1773	(関屋村吉村兵蔵高請分屋村絵図面)	1枚
360	宝暦12午年	1762	関屋川・神田川新切新田之分絵図面	1枚
361	明和4亥年	1767	千田村地押絵図面	1枚
362	宝暦7丑年	1757	瀬脇村地押絵図面	1枚
363	天明5巳年	1785	瀬脇村高請絵図面	1枚
364	明和2酉年	1765	専納村絵図面	1枚
365	明和2酉年	1765	瀬戸川村絵図面	1枚
366	明和5巳年(ママ)		瀬戸川村成就組竹生村上野村山抜変地見分改絵図面	1枚
367	安永4未年	1775	瀬戸川村砂溜地境絵図面	1枚
368	天保6未年	1835	関屋村林之内吾妻銀右衛門取斗之場所絵図面	1枚
	〆17筆			
	すの部			
369	宝暦9卯年	1759	須坂村絵図面	1枚
370	宝暦9卯年	1759	須坂村無高反別改絵図面	1枚
371	文政2卯年	1819	須坂村地押絵図面	1枚
	〆3筆			
	全1096筆			
	右者御土蔵之内御預諸帳面書類并絵図面共取調被仰渡夫々相調古入日記より引取新帳相仕立若斯御座候以上			
	嘉永5子年	1852		
	入久左衛門･倉田三之丞			
	竹内多吉･半田亀作			
	酒井市治･高坂民左衛門			
	荻原勘左衛門･高橋義角			

御土蔵之内諸帳面書類并絵図面御預目録（い4160）より作成

※Noの所に付した色は　■は国文学研究資料館に現存する絵図
■は資料名だけでは判断しかねるが、現存するものと一致すると考えられる絵図。

※絵図名は但し書きをふまえて一部改変した。
※〆筆数は資料のままとした。

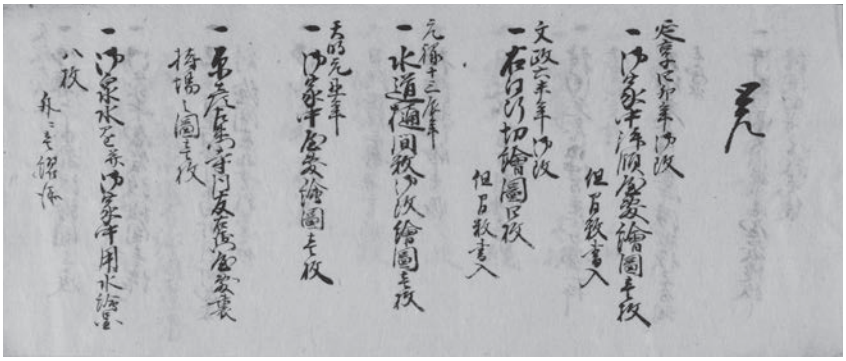
資料③　水道方絵図面諸帳面并御道具取調帳　明治三年（一八七〇）三月

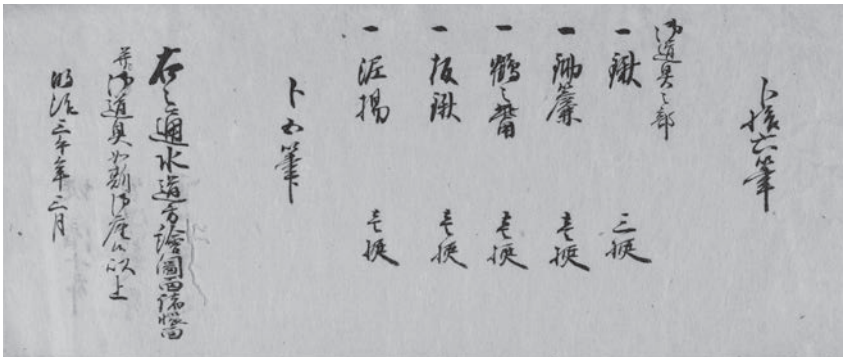
覚

延享四卯年（一七四七）御改
一御家中拝領屋敷絵図　壱枚　但間数書入
文政六未年（一八二三）御改
一右同断切絵図　四枚　但間数書入
元禄十三辰年（一七〇〇）
一水道樋間数御改絵図　壱枚
天明元丑年（一七八一）
一御家中屋敷絵図　壱枚
一原彦左衛門・寺内友右衛門屋敷裏持場之図　壱枚
一御泉水懸并御家中用水絵図　八枚　外ニ壱綴添
文政九戌年（一八二六）
一御構土手敷改絵図　壱枚
一御家中屋敷改絵図　壱綴
一馬場町東同心町・下田町同心町屋敷割絵図其外書類共　壱帙
一御勘定帳三拾六帳
一日記四十三冊并書類
一掃除持場壱帳
一用水見分日割帳三帳
一村田覚兵衛御仲間平左衛門打擲一件書類壱封
一大地震付御家中潰破損見分調　壱袋
一片岡此面・望月操之助屋敷境改之絵図面并書類壱袋
　〆拾六筆

御道具之部
一鍬　三挺
一鋤簾　壱挺
一鶴之嘴　壱挺
一板鍬　壱挺
一泥揚　壱挺
　〆五筆

右之通水道方絵図面諸帳面并御道具如斯御座候以上
明治三午年三月
堤　清十郎
宮澤新八郎
関口隼太





（国文学研究資料館　真田家文書あ一一五五）

資料④　明和二年(一七六五)の村絵図添書（No15）

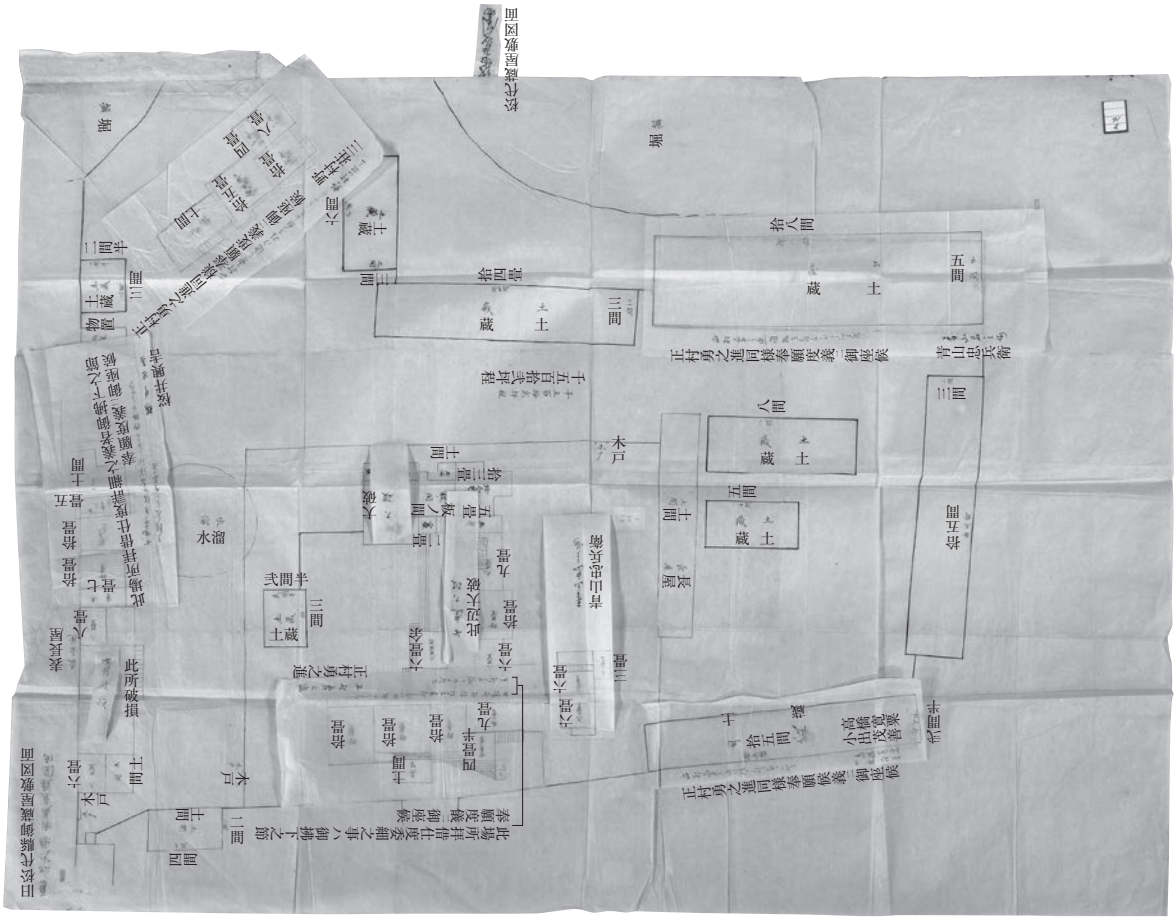
右絵図被　仰付役人頭立内見分仕其上隣村境筋之儀双方立合之上、墨引之通相違無御座候、尤荒地其外品々色訳吟味仕相記候通り、是又少茂相違無御座候、万一麁末之儀仕絵図面指上追而御吟味之上行違御座候ハヽ、何様之曲事被仰付候共一言之儀申上間敷候、為後日村役人頭立連印仕差上申候、以上

資料⑤　文政八年(一八二五)の村絵図添書（No16）

此度一村分地絵図面相仕立、方角村居古城跡寺社堂地其外品々名所等取調境筋篤与相糺墨引仕細々書入差出候様被　仰渡候ニ付、三役人頭立明細場所吟味仕絵図面相極御書上仕候通相違無御座候、以上

資料⑥　旧松代県御蔵屋敷図面（No31）

松代の国元においては、三ヵ所程まとまった絵図の保管場所が確認できる。一つは藩主の居館である松代城花の丸御殿の御用部屋や土蔵。二つ目は松代城三の丸の御日記蔵と呼ばれる土蔵。三ツ目は城外にあった御蔵屋敷の日記蔵である。ここには郡奉行、御蔵奉行、勘定所、代官所などの役所があり、現用文書から非現用文書まで保管されていた。花の丸御殿も含めた松代城の敷地は、明治四年（一八七一）七月の廃藩置県により松代(県)庁となり、その後明治五年二月二十八日には閉庁した。花の丸御殿は翌明治六年十月九日の火災で焼失した。城外の御蔵屋敷も旧藩士らに払い下げられたことから、これら土蔵に収蔵されていた文書等は、長野県への文書移管とも絡み、紆余曲折を経て真田家の私邸である真田邸の土蔵に収蔵された。下図は払い下を願う複数の旧藩士らの要請を絵図に貼りつけた長野県側の控と思われる。



旧松代県御蔵屋敷図面

資料⑥（長野県立歴史館　長野県絵図・地図目録一二―一〇―一）

資料⑦　参考

文政八年（一八二五）、松代藩では勘定所役人等が領内へ一斉に村絵図作成を命じた。『小川村誌』から夏和村、竹生村の絵図作成の様子を参考として引用する。

竹生村

村方方角村居ノ絵図面左ノ通取調べ書上ゲノ上、絵図面二枚宛御勘定所ニ差出ス可く候、尤モ差出ス以前ニ下絵図差出シ、不行届ノ所ハ書キ加可ク候、尚境筋難渋ノ義之有リ候ハバ、成ルベク熟談致シ出入ノ無き様取計フ可ク候、亦山附村々ノ内絵図面仕立方差支候向之有リ候ハバ、申出ラルベク候

文政八酉年七月十三日

水野友作
水井忠蔵
町田源左衛門

左記

一　一村絵図面　二枚宛　絵図面には三役人頭立　小前惣代名印致す可き事
一　東西南北　明白に記し北を基点とする事
一　村の形　方角には念を入れ相違無き様に相認むべき事
一　絵図書面入れ左の如し
一　村境は総て置引致す可し
　山嶺境、道境、川境、沢境は何名か明細書入る可き事
一　隣村書入可き事
　但し御他領は何の領分何村かを相認む事
一　山之形嶺続き遠近相分る様相認む事
一　絵図面は百五十間にて一尺位の積りを以て相認める事。但し惣丈一丈二・三尺を限り申可く候
一　絵図面之内品々書入左の如し
　山、川、橋、井、原林、森、池、堤、瀧。峠、塚、墓、古城跡、古屋敷跡、古戦場。大宮、小宮、寺、堂、各家。大道、小道、舟渡、口留番所、御蔵屋敷。村居。
一　右には名所必ず記入し、其の訳別紙に認む事
一　絵図面認方色訳
　道、朱。野道、朱に薄墨。川、池、堤、井、青。田畑、黄。森、立木、萌黄上に薄墨を加う可し。山、原、河原、薄墨。

竹生村では地図製作にあたってまず境改めを次の様に行った。

一　七月十九日　竹生村村役、上野村　三役人及頭立と村境見分
一　七月二十日　同　久木村　村境見分
一　七月二十一日　同　夏和村　村境見分
一　八月五日　竹生村　夏和村　上野村　花尾村　四ヶ村　八幡宮に寄合　大境引打合せ

竹生村図地（地図）製作費用はつぎのようであった。

一　百三十二文　村境検見の節紙代
一　三百十二文　下絵図掛候分新判紙代
一　百十六文　墨一丁　大筆一本　細筆二本
一　四百文　朱墨一丁
一　二百五文　八幡宮四ヶ村寄合之節茶代及び神主方御礼品代
一　銀八匁　絵図面仕立日雇代、七郎兵衛殿
一　四百四十四文　八月三日ヨリ六日迄、七郎兵衛殿絵図面仕立候節の賄代
一　四百八十文　七月二十二日ヨリ二十四日迄の下絵図掛の節三役人総代として七兵ヱ殿、新左ヱ門殿が当りその賄代
一　十一匁四分　大境引中三役人頭主（立）出役昼賄代　五日　四日　三日
　名主　源九郎　組頭　林右衛門　長百姓　義右衛門
　同　七郎兵衛　頭立　専右衛門　同　寅吉

資料⑧　中氷鉋村喜曽八等今井村入会山論裁許絵図仕立起請文（№27）

起請文前書
一論所無相違有躰ニ絵図仕立可申事
一論所ニ而双方何角と好有之候共其所と相違仕候ハバ、絵図書付申間敷事、
附たとへ拙者親類縁者好身之者を以
双方より何角と相頼候共絵図之通少茂
贔屓偏頗仕間敷事、
一絵図手間代約束之外、禮物貪取不申、絵
図遅々仕間敷事
右之條々雖為一事、於相背者、

梵天帝釈天四大天王総日本
国中六十余州大小神祇殊
伊豆箱根両所権現三嶋大
明神八幡大菩薩天満大自
在天神部類眷属神爵冥爵
各可罷蒙者也、仍起請如件

松平伊賀守領分
信濃国更級郡中氷鉋村
絵図師
文化四年卯四月廿五日　喜曽八
真田弾正忠領分
同国埴科郡芝（柴）町村
絵図師
忠助
寺社
御奉行所様

（長野県立歴史館　堀内家文書一二―七―一三―二）

資料⑨　一札之事（№26）

一當所入山郷内山見取絵図彩色相頼候處、
自然江戸御奉行所様より御呼出し有之候共
其許者勿論其村御役人中差添御召
状有之候ハハ入用之義者此方ニ而出銭可致候、
其上其許手間料壱ヶ月ニ金壱両宛勘定
相渡可申候、
可致候、為後日一札入置申候、仍而如件、

今井村庄屋
堀内利右衛門

文化四年卯四月
中氷鉋村絵師
喜曽八殿

（長野県立歴史館　堀内家文書一二―七―一三―三）

資料⑩　元御国絵図取調掛田中権之助内々伺書

御国絵図取調掛被　仰付候以来出精相勤候者江御賞筋被渡伺

関　愛山

右者文久二戌年七月中郡方絵図書被　仰付同年八月中文聡院様御存命中、御領内御境目御見分ニ付　御道筋絵図掛被　仰付見取絵図廻村仕認差出、同三亥年三月中一代御目見席御次画師被　仰付、同年同月中　御手許御用被　仰付候ニ付始終御用相勤、慶應二年寅年三月中奥御坊主御人少ニ付、右助被仰渡旨相勤、御手許御用相勤居り候處、明治二巳年二月中信濃全国絵図面取調掛被　仰付郡方江罷成、伊那縣江被差出候、右図先年此方様ニ而御総括御在候一里六寸八枚切絵図一里三寸ニ縮図八枚宛御扣共三通り清写至急御用之趣ニ付、数十日早朝より出勤仕夕刻迄骨折出精相認無御間欠御用相勤、同年　御藩籍御返上ニ付御支配所地図　朝廷江御書上民部省江御差出分共都合五枚是亦至急認御用相勤、同年八月中御国内絵図新規御改正被　仰出信濃全国図面於伊那縣総括取調御在候ニ付、同縣江被差出候、御支配所明細縮図御扣共三通り至急認御用相勤、明治二巳年十一月中より同三午年迄職制標認御用被仰渡相勤、同年八月中猶又御支配地一里五分ニ絵図面仕立伊那縣江被差出候図面至急認方御用相勤、同年十月中より御支配所絵図一分五拾之處、一分百間ニ仕立委々鮮明ニ認方御用被仰渡数日之間日勤専認方御用相勤、且去未四月中より御支配所千曲犀両川筋分間測量図民部省より御書上ニ付御扣共三通り至急認御用相勤候上、掛り土木司出張先善光寺并丹波島宿等江も数十日出役（〆日数八十七日）諸藩縣より差出候全図千曲犀両川并天龍川等江落流水源小川者勿論、湖水等迄も明細分間縮図清写其外鬼無里村より越州鍛冶屋敷迄之古道土人為弁路切廣ケ道幅六尺ニ一分百間之分間測量図も清写、犀川安庭村分地堀割図面国役御普請御願御目論見丹波島村表続キ犀川御普請所一寸百間之図并小松原村水上堀割、小市村同断絵図面共至急認方御用数十日出役相勤当夏中より御藩中拝領地并河原新用図面等も相認御用弁被成、村々絵図書被　仰付候、以来今年迄十ケ年出精相勤生得実躰骨折相勤候所、其上外勤之御見渡とハ勤柄格段相違骨折候趣御座候所、月給者勿論只今迄御手充筋も一切頂戴不仕相勤候儀ニ付何卒為　御賞御身士族・永士族被　仰付被成下候様支度奉存候

東福寺泰作

右者先年　御封内分間測量図仕立被　仰付右図全藩ニ無御座在候得共、二通り内献上仕候ニ付小頭江御取立、其上御切米籾御増被成下候所、其節右献上図大盤ニ付縮図被仰渡置候ニ付、一分五拾間分間測量縮図相仕立仮清写仕候得共、未沓野村奥三国峠下迄并鬼無里村奥越州境迄漏居候得共、先般　御支配地分間絵図面御取立ニ付御見合にも可相成哉と心得、右仮清写縮図三通り内献上仕候上、絵図方江被出相勤候様被仰渡候、以来武庫方属兼数十日出精相勤千曲犀川両川分間図仕立ニ付而も川辺江出役、其上掛土木司出張先えも数日出役骨折無御間欠出精相勤生得実貞算術皆傳測量学迄も得、其術門弟多勢御在候趣、尚此上臨時御用にも可相成者、且一分五拾間分間測量図内献上も仕、右仕立ニハ筆工其外多分の入費も相掛候義受深御賢慮被成下

竹内釜平

右者明治二巳年三月中御国絵図取調掛　被　仰渡候以来、御庭方杖突郡方江御引渡相成関愛山絵図御用相勤候手伝出精相勤、同勤同儀別紙出勤帳日数之通被出、出精骨折相勤候処、追々三ヶ年越にも被成候得共、月給ハ勿論御手充筋も頂戴不仕相勤候儀ニ付並方月給日数割合御手充被下置候様仕度奉存候

南沢菜園

右同断并善光寺・丹波島村等江掛土木司出張先江も数十日出役相勤、且午冬中矢代宿夜通会議之節も数十日出帳認物等御用弁相成候ニ付月給代り御手充被

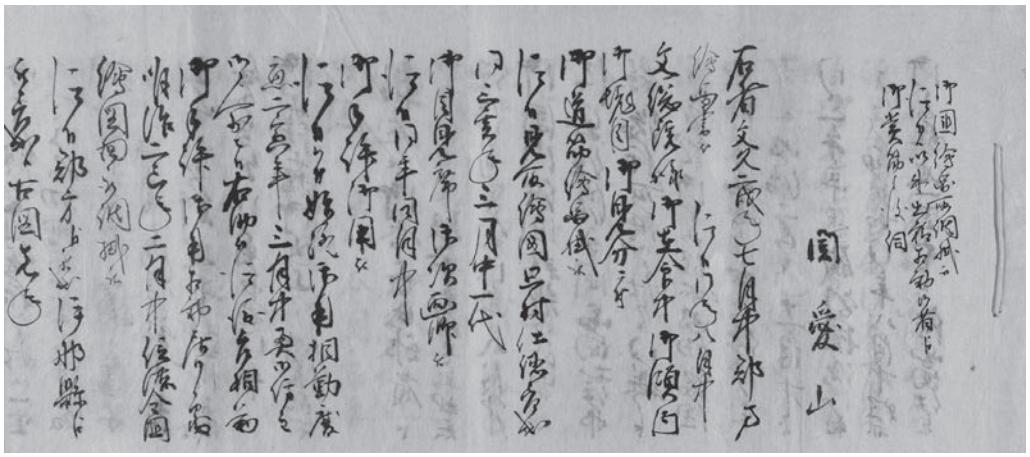
下置候様仕度奉存候

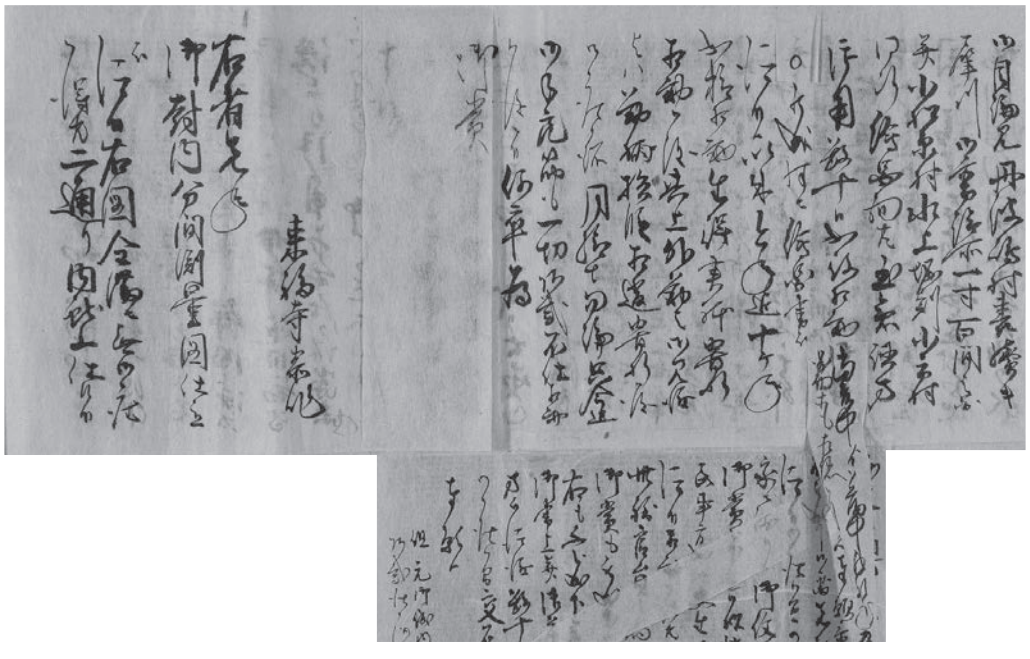
右之趣深　御賢慮奉願度、則日勤帳并出役出勤日数〆出書抜共相添御内々奉伺候以上

元御国絵図取調掛

未九月　　田中権之助

（国文学研究資料館　真田家文書の六〇―一）





掲載資料一覧

第一章　町絵図・村絵図	資料名	年号	記号番号	家名	大きさ（縦×横、㎜）	備考	所蔵先
町絵図 1	松代町並の図　五　荒神町	年欠	し〇〇一八三－〇〇五	真田家	一〇一〇×八〇五		国文学研究資料館
町絵図 2	松代町並の図　四　中町ほか	年欠	し〇〇一八三－〇〇四	真田家	一一七〇×一〇二五		国文学研究資料館
町絵図 3	松代町並の図　三　木町ほか	年欠	し〇〇一八三－〇〇三	真田家	一一六〇×一三五〇		国文学研究資料館
町絵図 4	松代町並の図　二　紺屋町通	年欠	し〇〇一八三－〇〇二	真田家	五六五×一一八〇		国文学研究資料館
町絵図 5	松代町並の図　壱　馬喰町ほか	年欠	し〇〇一八三－〇〇一	真田家	五九五×一四二〇		国文学研究資料館
町絵図 6	紺屋町間帳	寛文11年4月朔日	〇－二－四－六	関川文庫	二一九×三一四		長野県立歴史館
町絵図 7	紺屋町間帳（写）	享保13年7月朔日（写）	〇－二－四－七	関川文庫	二二二×三一八		長野県立歴史館
町絵図 8	紺屋町間帳	寛政4年10月（写）	〇－二－四－八	関川文庫	二二六×三四〇	吉田姓	長野県立歴史館
町絵図 9	紺屋町間帳（写）	文化4年2月（写）	〇－二－四－九	関川文庫	二一一×三〇三	吉田姓	長野県立歴史館
町絵図 10	紺屋町間帳（写）	文政13年5月（写）	〇－二－四－一〇	関川文庫	二三九×三三七	吉田姓	長野県立歴史館
町絵図 11	松代屋敷割図2	明治5年頃	一二－三－二－二	長野県絵図・地図目録	一八一五×一八一〇		長野県立歴史館
町絵図 12	松代屋敷割図3	明治5年頃	一二－三－二－三	長野県絵図・地図目録	一八八六×一二五四		長野県立歴史館
町絵図 13	松代屋敷割図1	明治5年頃	一二－三－二－一	長野県絵図・地図目録	一八一〇×一二五九		長野県立歴史館
町絵図 14	松代屋敷割図4	明治5年頃	一二－三－二－四	長野県絵図・地図目録	二〇六七×一二五七		長野県立歴史館
町絵図 15	御平川村絵図	明和2年酉7月	し〇〇〇四一	真田家	一六〇〇×一五四四		国文学研究資料館
村絵図 16	御幣川村絵図	文政8年酉8月	し〇〇〇四九	真田家	一六八五×一八四〇		国文学研究資料館
村絵図 17	御幣川村御地押改絵図	文化4年卯4月	し〇〇一五六	真田家	一四〇〇×二一〇六		国文学研究資料館
村絵図 18	検地竿打足軽誓詞	宝暦6年2月～文久4年2月	き〇〇〇五〇	真田家			国文学研究資料館
村絵図 19	五明村網掛村公儀御検地見分所見取図	文化14年	吉一七八	吉文書	三二〇×二六八五		真田宝物館
村絵図 20	小布施村栗御林絵図面	明和3年10月		真田家	一六六四×一五八一	御絵図師三村万助	国文学研究資料館
村絵図 21	主図合結記（上・下）	寛延2年3月（写）	し〇〇一〇二		二四〇×二七七	三村万助写	個人
村絵図 22	本邦六十八州并諸島大図	寛政4年2月	図書四一	図書	一枚は三九一×二八〇	三村二郎平	真田宝物館
村絵図 23	里村山絵図	文政8年	し〇〇三一七	真田家	一〇五五×一四九〇	絵師山口善右衛門写	国文学研究資料館
村絵図 24	絵図（今井村他2村）	文化2年6月	一二－七－八	堀内家	一二〇〇×一七二〇	（絵図師喜曽八カ）	長野県立歴史館
村絵図 25	松平主税助様御知行所真田領山布施村境論所和議絵図	文化2年乙丑6月	し〇〇一三一－〇一	真田家	一二〇八×一七三四		国文学研究資料館
村絵図 26	一札之事（絵図師喜曽八御雇について）	文化4年4月	一二－七－一三－三	堀内家			長野県立歴史館
村絵図 27	中氷鉋村喜曽八等今井村入会山論裁許絵図仕立て起請文	文化4年4月25日	一二－七－一三－二	堀内家	一七八三×二八七		長野県立歴史館
村絵図 28	絵図面仕立相談日記	文化4年正月	一二－五－七五	堀内家			長野県立歴史館
村絵図 29	絵図手本		〇－六－二九〇－五〇	丸山文庫	一九九×二八一		長野県立歴史館

	資料名	年号	記号番号	家名	大きさ（縦×横、㎜）	備考	所蔵先
第二章　国絵図・領内絵図							
国絵図							
30	信濃国絵図	天保9年	図書三六	真田家文書	一巻の縦約五一九	切絵図	真田宝物館
31	旧松代県御蔵屋敷図面	明治6年頃	一二－一〇－一	長野県絵図・地図目録	八〇〇×一一一六	貼紙多数	長野県立歴史館
32	信濃国切絵図	明治元年頃	図書三七－一	真田家文書	一巻の縦約五三九	切絵図	真田宝物館
33	信濃国地図取調「一条の内、「府県掛弁事通達」	明治元～2年	け〇一八一八－〇〇二	真田家			国文学研究資料館
34	信濃国全図	明治初期（寛永年間）	〇－〇－二	長野県絵図・地図目録	四二一〇×二五八〇		長野県立歴史館
35	松代封内図上・下	（寛永年間）	〇－一－K八七	米山文庫	一五四三×一三八〇	真田文庫印	長野県立歴史館
36	松代封内図上・下	（寛永年間）	〇－一五－一六－八八	飯島文庫	一六四三×一三三〇		長野県立歴史館
37	御領分図　三枚之内北之方・中之方・南之方	元禄10年丁巳10月9日	し〇〇三九〇～三九二	真田家	一五二五×三〇二〇		国文学研究資料館
38	松代藩支配地絵図	明治3年10月	一五－六三	古文書	一三〇〇×一八一〇	真田文庫印	真田宝物館
39	（壱　廣瀬村辺御野掛御通筋絵図面　但丹波島村より）	嘉永2年酉2月	し〇〇〇〇三－〇〇二	真田家	一二一〇×八六二		国文学研究資料館
40	（廣瀬村辺江御野掛御通行筋并左右村名等取調申上）	嘉永2年酉2月	し〇〇〇〇三－〇〇一	真田家			国文学研究資料館
41	（根岸通村　御野掛御道筋凡見取絵図面　参番　椿峯村高山寺より長井村字拾石迄）	酉（嘉永2年）4月	し〇〇四三八－〇〇四	真田家	九二〇×一〇九〇		国文学研究資料館
42	御泊之節椿峯高山寺絵図	嘉永2年4月	し〇〇五一二	真田家	六二〇×四七〇		国文学研究資料館
第三章　城下絵図							
城下絵図							
43	（松代町絵図）	年欠	し〇〇一六七	真田家	二五二〇×一八二〇	分間一分二間	国文学研究資料館
44	松代御家中拝領屋舗図　四枚之内西北之部	文政6年7月改	し〇〇二四五	真田家	一九三〇×一八八五		国文学研究資料館
45	松代御家中拝領屋舗図　四枚之内南西之部	文政6年7月改	し〇〇三九九	真田家	一七二五×一二九〇		国文学研究資料館
46	松代御家中拝領屋舗図　四枚之内南東之部	文政6年7月改	し〇〇一九五	真田家	一七二五×一二八五		国文学研究資料館
47	松代御家中拝領屋舗図　四枚之内北東之部	文政6年7月改	し〇〇四〇〇	真田家	二一二〇×一二八〇		国文学研究資料館
48	松代町割図4	明治6年頃	一二－三－一－四	長野県絵図・地図目録	一五二八×一八九六		長野県立歴史館
49	松代町割図2	明治6年頃	一二－三－一－二	長野県絵図・地図目録	一一七八×二三八一		長野県立歴史館
50	松代町割図5	明治6年頃	一二－三－一－五	長野県絵図・地図目録	一四八〇×一八六五		長野県立歴史館
51	松代町割図3	明治6年頃	一二－三－一－三	長野県絵図・地図目録	一二七四×一九二〇		長野県立歴史館
52	旧各藩城郭調並払下地ニ関スル部（全）	明治7年	明治七－一A－一一	長野県行政文書目録	一八〇×二八三		長野県立歴史館
53	松代城図	明治30年7月写			七八五×六三五	関愛山筆の写	個人
54	花鳥図屏風	明治17年			一七六五×三五〇五	関愛山筆	個人
第四章　資料編							
資料編							
55	松代城大絵図	大正期			二八三七×二八一四	長岡助次郎	真田宝物館
①	（御土蔵之内諸帳面書類并絵図面御預目録）	嘉永5年	い〇四二六〇	真田家			国文学研究資料館
②	御蔵内日記書類下調　壱、弐	明治13年・14年	寄託六二七－一、二	真田家寄託			国文学研究資料館
③	水道方絵図面諸帳面并御道具取調帳	明治3年3月	あ〇一一五五	真田家			国文学研究資料館
⑩	元御国絵図取調掛田中権之助内々伺書	明治4年9月	の〇〇〇六〇－一	真田家			国文学研究資料館

主要参考文献

・『小川村誌』　小川村編纂委員会　小川村役場　一九七五年五月
・『信濃の民家』　太田博太郎著　長野県教育委員会編　長野県文化財保護協会刊　一九七六年三月
・『更級埴科地方誌』第三巻　近世編上・下　更級埴科地方誌刊行会　一九八〇年十二月
・『坂城町誌』中巻　坂城町誌刊行会　坂城町誌刊行会　一九八一年四月
・『史跡（松代城跡附新御殿跡）整備基本計画書』　長野市　一九八五年三月
・『史料館叢書八　真田家家中明細書』　国立史料館編　東京大学出版会　一九八六年三月
・『海津旧顕録』　真田宝物館編　松代文化施設等管理事務所　一九八九年三月
・「御用絵師と絵図編纂」　浅倉有子　『特別展　絵図でみる城下町よねざわ』　米沢上杉文化財団編　米沢市上杉博物館　一九九二年十月
・「松代藩主の西山中巡覧」　仁科叔子　『松代』第八号　一九九五年三月
・『地図のなかの柳川―柳川市史　地図編―』　柳川市史編集委員会　一九九九年十月
・『シリーズ　近世の身分的周縁二　芸能・文化の世界』　横田冬彦編　吉川弘文館　二〇〇〇年七月
・『城下町の光景―絵図に読む米沢―』　米沢市上杉博物館　二〇〇四年四月
・「近世後期上田藩領川中島飛地における長百姓の地位―文書作成過程を通して見た場合―」　舘林弘毅　『長野県立歴史館研究紀要』第七号　二〇〇一年三月　長野県立歴史館
・『歴史地理調査ハンドブック』　有薗正一郎他編　古今書院　二〇〇一年五月
・『松代藩災害史料』1～15　古川貞雄編集・解説　長野市誌編さん室
・『長野市誌』第三巻歴史編近世一、同第四巻歴史編近世二　長野市誌編さん委員会　長野市　二〇〇一年二月、二〇〇四年一月
・『長野市の埋蔵文化財第一〇九集　松代城下町跡～中町・西木町・紺屋町～』　長野市教育委員会　二〇〇五年三月
・『長野市の埋蔵文化財第一一〇集　松代城下町跡（2）～殿町～』　長野市教育委員会　二〇〇五年三月
・『国絵図の研究』　国絵図研究会編　柏書房　二〇〇五年七月
・『長野市の埋蔵文化財第一一四集　松代城下町跡（3）～殿町～』　長野市教育委員会　二〇〇六年三月
・『松代城絵図集成』　松代文化施設等管理事務所　二〇〇六年三月
・『松代藩の絵師―三村晴山―』　松代文化施設等管理事務所　二〇〇六年九月
・『史料叢書一〇　藩の文書管理』　国文学研究資料館編　名著出版　二〇〇八年三月
・『史料目録第八七集　信濃国松代真田家文書目録（その八）』　国文学研究資料館調査収集部　国文学研究資料館　二〇〇八年三月
・『近世武家地の住民と屋敷管理』　渡辺理絵　大阪大学出版会　二〇〇八年一月
・『真田宝物館収蔵品目録　精選絵図集成』　松代文化施設等管理事務所　二〇〇九年三月
・「近世村絵図の史料学一―大阪商業大学商業史博物館蔵「河内国茨田郡藤田村文書」の村絵図を通して―」　礒永和貴・鳴海国匡　『大阪商業大学商業史博物館紀要』一〇号　二〇〇九年八月
・『江戸幕府の日本地図―国絵図・城絵図・日本図―』　川村博忠　吉川弘文館　二〇一〇年一月
・『絵図学入門』　杉本史子他編　東京大学出版会　二〇一一年七月
・『武士という身分―城下町萩の大名家臣団―』　森下　徹著　吉川弘文館　二〇一二年六月
・「萩藩郡方地理図師の職務と地位―有馬家の筆並騒動を巡って―」　山田　稔　『山口県文書館研究紀要』第四〇号　山口県文書館編　山口県文書館　二〇一三年三月

謝　辞

本展覧会にあたり、貴重な資料の出品をご快諾いただきました関係機関ならびに個人の皆様、調査・撮影・写真などの提供にご協力を頂きました皆様に深く感謝申し上げます
（五十音順、敬称略）

【団体・機関】
人間文化研究機構　国文学研究資料館
長野県立歴史館

【個人】
犛山邦典
眞田幸俊
須田邦典
角屋由美子
中野　等
西山やすこ

【表紙写真】
家中屋敷絵図（部分）

【裏表紙写真】
松代町空中写真

松代藩の国絵図・城下絵図・町絵図

発　行　平成二十六年六月

編集・発行　長野市教育委員会　文化財課
松代文化施設等管理事務所
（真田宝物館）
〒三八一－一二三一　長野市松代町松代四－一
ＴＥＬ　〇二六－二七八－二八〇一

印　刷　日本平版印刷株式会社

＊無断転載・複製を禁じます

2000719010008



